

『『未知への挑戦』とくしま行動計画』見直しシート

ターゲット1 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

主要事業実施工程表（1-1 移住交流拡大！深化する地方創生）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現 行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | |
|----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | |
| 2 | 1-1-1 | 74 | <ul style="list-style-type: none"> ● 少子高齢化による地域の担い手不足を解消し、新たな「とくしま回帰」の流れを加速させるため、東京本部・関西西部の拠点機能や、県人会等との人的ネットワークを生かすとともに、「地域」と「徳島に興味を持つ方」とのマッチング支援の充実を図るなど、徳島に想いを寄せて活動する「徳島ファン」を創出します。＜政策＞ | 推進 | | | | | | | | | | <p>コロナ禍において、感染症対策をしつつイベントを開催するために、徳島とファンをオンラインで繋ぎ、オンライン交流による新たな取組により、徳島ファンの創出を図る。</p> <p>また、首都圏及び関西圏においても、「徳島ファン」創出・拡大を図るため、ニューノーマルに対応したイベントを開催する。</p> | 政策 |
| | | | ○県外交流拠点での交流イベント参加者数(累計) (17) → (22) 150人 | | 50人 | 100人 | 150人 | ○県外交流拠点を活用したニューノーマル対応交流会参加者数(累計) (17) → (22) 150人 | | | 100人 | 150人 | | | |
| | | | ○「徳島ファンバンク」の創設 (19) 創設 | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○「徳島ファンバンク」へのファン登録者数 (17) → (22) 40人 | | 20人 | 30人 | 40人 | | | | | | | | |
| | | | ○「徳島ファン・ドラフト会議イベント」の開催 (19) 開催 | | | | | ○徳島ファン創出オンラインイベントの開催 (21)(22) 開催 | | | | | | | |
| | | | ○「まるごと徳島」体感フェス」の開催 (19) 東京圏開催 | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○「とくしまっせ〜ぎゅぎゅっと徳島体験フェス〜」の開催 (19) 開催 | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○首都圏及び関西圏での「徳島ファン」創出・拡大イベントの開催 (20) 開催 | | | | | ○首都圏及び関西圏でのニューノーマルに対応した「徳島ファン」創出・拡大イベントの開催 (21)(22) 開催 | | | | | | | |
| 4 | 1-1-1 | 75 | <ul style="list-style-type: none"> ● 地方と都市、双方のよさを体験することで、地方居住者と都市居住者の双方の視点に立った考え方ができる人材を育成する「デュアルスクール」を推進します。＜教育＞ | 推進 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ● 地方と都市、双方のよさを体験することで、地方居住者と都市居住者の双方の視点に立った考え方ができる人材を育成する「デュアルスクール」をニューノーマルに対応した発信手法を取り入れて推進します。＜教育＞ | | | | | | <p>都市部における新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を鑑み、7月下旬まで実施を見合わせていた。8月以降、「GOT Oトラベル」が運用されるなど、社会経済活動の再開を契機に、デュアルスクールの受付を再開したが、本年度は実施を見送った希望者もあり、当初の目標値を大きく下回ることとなったため、数値目標を下方修正する。令和3年度からは、ニューノーマルに対応したオンライン体験ツアーなどの新たな発信手法を取り入れて事業の推進を図る。</p> | 教育 |
| | | | ○「デュアルスクール」実施回数(累計) (17) 7回→(22) 36回 | 18回 | 24回 | 30回 | 36回 | ○「デュアルスクール」実施回数(累計) (17) 7回→(22) 30回 | 18回 | 24回 | 24回 | 30回 | | | |
| 7 | 1-1-1 | 75 | <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の資源や個性を活かした「魅力ある地域づくり」を推進するため、サテライトオフィスの取組みを支援するとともに、コワーキングスペース[※]を核としたビジネス創出支援や人材育成により、イノベーション人材をはじめ多様な人材の集積と交流を促進します。＜政策＞ | 推進 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の資源や個性を活かした「魅力ある地域づくり」を推進するため、サテライトオフィスの取組みを支援するとともに、<u>Withコロナからアフターコロナを俯瞰する中で、新たな分散形国土の構築の流れを捉える形で</u>、コワーキングスペース[※]を核としたビジネス創出支援や人材育成により、イノベーション人材をはじめ多様な人材の集積と交流を<u>緩やかに回復・促進</u>します。＜政策＞ | | | | | | <p>コロナウイルス感染症の影響を受け、視察や研修、イノベーションツアー、サテライトオフィス試験設置などの一連の利用者が一時全て途絶えた上に、現在も予防対策として施設の利用者数を抑制せざるを得ない状況の中、民間主導によるオンライン研修や映像通信機器の活用により、コワーキングスペースが新たな情報集積や交流の拠点となってきたことから、これらを踏まえ、回復・促進に向けて目標人数を再設定した。</p> | 政策 |
| | | | ○コワーキングスペース利用者数の拡大 (17) 1,500人→(22) 3,000人 | 1,900人 | 2,300人 | 2,700人 | 3,000人 | ○コワーキングスペース利用者数の拡大 (17) 1,500人→(22) 1,700人 | 1,900人 | 2,300人 | 850人 | 1,700人 | | | |
| | | | ○新たなイノベーション集積拠点の創出市町村数 (17) → (22) 4市町村 | | | | 4市町村 | | | | | | | | |

ターゲット1 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

主要事業実施工程表（1-1 移住交流拡大！深化する地方創生）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | |
|----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--|-----------|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | |
| 新規 | 1-1-1 | | | | | | | ●「コンセプト泊」を発展し、地域活性化はもとより、新たなビジネスモデル創出に繋げていくため、イベント・レジャーへの参加や宿泊施設・コワーキングスペースなどの利活用に寄与する、徳島ならではの「ワーケーションニアワーケーション」を推進します。＜政策＞ | 推進 | | | | | アワーケーションの取組を推進することにより、イベントや宿泊だけでなく、サテライトオフィスやリモートワークを通して、新たなビジネスモデルとして徳島をPRすることができることも、来県者と地域が繋がることで、更なる地域の活性化が図られるため | 政策 |
| | | | | | | | | ○地域での社会貢献活動を行う企業数(累計) (17) → (22) 20社 | | | | 10社 | 20社 | | |
| 8 | 1-1-1 | 75 | ● 高等教育の充実・発展や地域の活性化を図るため、「とくしま産学官連携プラットフォーム [※] 」を核として、地域で必要とされる人材の育成や、県内の課題解決につながる実践的な取組みを推進します。＜政策＞ | 推進 | | | | ● 高等教育の充実・発展や地域の活性化を図るため、県が参画する「とくしま産学官連携プラットフォーム [※] 」、「コンソーシアムとくしま」を核に実施する、地域で必要とされる人材の育成や、県内の課題解決につながる実践的な取組みを、積極的にオンラインを活用した、ニューノーマルに対応した形式で推進します。＜政策＞ | | | | | | 「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大防止を図りつつ、人材育成や県内の課題解決につながる取組みを行うため。 | 政策 |
| | | | ○プラットフォームを核として実施する事業数 (17) → (19) ~ (22) 年間8件 | 8件 | 8件 | 8件 | 8件 | | | | | | | | |
| 10 | 1-1-1 | 76 | ● 人口減少社会においても持続的発展が見込まれる農山漁村を創造するため、地域と行政が一体となり、農山漁村地域に存在する資源を活用した将来像の作成とその実現に向けて取り組みます。＜農林＞ | 推進 | | | | ● 人口減少社会においても持続的発展が見込まれる農山漁村を創造するため、地域と行政が一体となり、農山漁村地域に存在する資源を活用した将来像の作成とその実現に向けて感染症対策を徹底し取り組みます。＜農林＞ | | | | | | 新型コロナウイルス感染症の影響により、地域住民が集う「将来ビジョン作成」のワークショップ開催が制限される中、「未来ある農山漁村づくり」に向けた活動を推進するため、感染症対策を講じた上で、棚田などの地域資源を活用する地区も指標に加えることとし、目標を見直す。 | 農林 |
| | | | ○「未来ある農山漁村づくり」に向けたビジョンの作成地区数(累計) (17) 9地区 → (22) 24地区 | 15地区 | 18地区 | 21地区 | 24地区 | ○「未来ある農山漁村づくり」に向けたビジョンの作成・実践地区数(累計) (17) 9地区 → (22) 28地区 | 15地区 | 18地区 | 22地区 | 28地区 | | | |
| 13 | 1-1-2 | 76 | ● 本県の担い手不足解消や優れた技術・経営ノウハウの伝承、事業承継を契機とした新ビジネスの創出を図るため、商工団体や金融機関、行政等で構成する「とくしま移住×創業ネットワーク [※] 」と「徳島県事業承継ネットワーク [※] 」の連携のもと、本県への移住・就労・起業・事業承継を一体的に推進する体制を整備します。＜政策・商工＞ | 創設・ 推進 | | | | ● 本県の担い手不足解消や優れた技術・経営ノウハウの伝承、ニューノーマルへの対応や事業承継を契機とした新ビジネスの創出を図るため、商工団体や金融機関、行政等で構成する「とくしま移住×創業ネットワーク [※] 」と「徳島県事業承継ネットワーク [※] 」の連携のもと、本県への移住・就労・起業・事業承継を一体的に推進する体制を整備します。＜政策・商工＞ | | | | | | 関係機関の連携により、新型コロナウイルスの感染症の拡大に対応した、新しい生活様式を取り入れた新ビジネスの創出の推進を図るため。 | 政策・ 商工 |
| | | | ○「移住・就労・起業・事業承継パッケージ」の創設 (19) 創設 | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○ふるさと起業家支援プロジェクト件数(累計) (17) → (22) 15件 | 6件 | 9件 | 12件 | 15件 | | | | | | | | |
| 14 | 1-1-2 | 76 | ● 独自の技術や知識、能力、経験等を活かして県内で新たに創業する者を支援するため、創業支援機関等と連携して、事業計画等の策定支援や融資、フォローアップ、各種支援を行います。また、女性の創業を促進するため、創業の段階に応じたきめ細やかな支援を行います。＜商工＞ | 推進 | | | | ● 独自の技術や知識、能力、経験等を活かして県内で新たに創業する者を支援するため、創業支援機関等と連携して、事業計画等の策定支援や融資、フォローアップ、オンラインによる相談やセミナー開催など各種支援を行います。また、女性の創業を促進するため、創業の段階に応じたきめ細やかな支援を行います。＜商工＞ | | | | | | 新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、これまでの対面による支援体制に加え、新しい生活様式に対応し、「オンライン」を活用した支援を実施するため。 | 商工 |
| | | | ○事業計画等の支援件数 (17) 69件 → (19) ~ (22) 年間75件 | 75件 | 75件 | 75件 | 75件 | | | | | | | | |
| | | | ○女性の創業に対する事業計画等の認定件数 (17) 18件 → (19) ~ (22) 年間18件 | 18件 | 18件 | 18件 | 18件 | | | | | | | | |
| | | | ○創業者に対する新規融資件数 (17) 96件* → (19) ~ (22) 年間95件 *過去3年平均 | 95件 | 95件 | 95件 | 95件 | | | | | | | | |
| | | | ○「徳島のSOHO事業者サイト」登録事業者数 (17) 105社 → (22) 130社(累計) | 115社 | 120社 | 125社 | 130社 | | | | | | | | |

ターゲット1 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

主要事業実施工程表（1-1 移住交流拡大！深化する地方創生）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 15 | 1-1-2 | 77 | <ul style="list-style-type: none"> 独自の技術やサービスを活かした新たな事業活動に取り組む企業の経営革新の達成に向けた取組みを支援します。＜商工＞ | 実施 | | | | <ul style="list-style-type: none"> 独自の技術やサービスを活かすとともに、デジタル社会の到来を見据えた新たな事業活動に取り組む企業の経営革新の達成に向けた取組みを支援します。＜商工＞ | | | | | <p>コロナ禍を克服し、地域経済の再成長を目指すには、DX(デジタル・トランスフォーメーション)の加速化など、中長期的な視点での計画に基づく新たな事業展開を支援する必要があるため。</p> | 商工 |
| | | | ○経営革新計画達成割合 (’17) 64.7%→(’19)～(’22) 毎年60% | 60% | 60% | 60% | 60% | | | | | | | |
| 18 | 1-1-2 | 77 | <ul style="list-style-type: none"> 海部郡の特産である「施設キュウリ」等を核とした施設園芸の振興を図るため、「きゅうりタウン構想[※]」を推進し、移住促進による担い手確保や新規就農者の拡大に取り組めます。＜南部＞ | 推進 | | | | <ul style="list-style-type: none"> 海部郡の特産である「施設キュウリ」等を核とした施設園芸の振興を図るため、「きゅうりタウン構想[※]」を推進し、ニューノーマルに対応した研修やPRを拡充することにより、移住促進による担い手確保や新規就農者の拡大に取り組めます。＜南部＞ | | | | | <p>移住就農・新規就農希望者の利便性向上を図るため、人材募集・育成にオンライン体験ツアー、リモート面接、Web講習等を導入し、さらなる人材の発掘・育成に努める。</p> | 南部 |
| | | | ○JAかいの「交流拠点施設」を核とする体験交流ツアーや視察受入れ等の参加者数(累計) (’17) 1人→(’22) 1,000人 | 400人 | 600人 | 800人 | 1,000人 | | | | | | | |
| | | | ○施設キュウリ栽培における新規就農者数(累計) (’17) 9人→(’22) 32人 | 20人 | 24人 | 28人 | 32人 | | | | | | | |
| 19 | 1-1-2 | 77 | <ul style="list-style-type: none"> 地域ならではの新しいビジネスの創出を図るため、サテライトオフィスや大学等国内外の企業関係者を県西部圏域(にし阿波)に呼び込み、地元企業をはじめとした多様な主体との連携によるビジネスマッチングを推進します。＜西部＞ | 推進 | | | | <ul style="list-style-type: none"> 県西部圏域(にし阿波)の関係人口や移住者の増加・定住化に繋げるため、大学やサテライトオフィス等国内外の企業関係者を県西部圏域(にし阿波)に呼び込み、地元企業をはじめとした多様な主体との連携によるビジネスマッチングを推進し、地域ならではの新しいビジネスの創出を図るとともに、地域産業の担い手となる次世代人材の「育成・自立型支援」を行います。＜西部＞ | | | | | <p>新型コロナウイルス感染症拡大により、地方への移住など「地方回帰の機運」が高まる中、先輩移住者等の成功事例を検証の上、移住希望者についてオーダーメイドの「移住計画」を策定し、起業等につながる研修を実施することにより、担い手不足に悩む地域産業の新たな担い手となっていただくとともに、定住につなげる。</p> | 西部 |
| | | | ○にし阿波ならではの新しいビジネス等の創出件数 (’17) 年間1件→(’19)～(’22) 年間1件以上 | 1件 | 1件 | 1件 | 1件 | | | | | | | |
| 新規 | | | | | | | | ○地元企業への就職や起業に向けた支援者数 (’17) 1人→(’22) 年間20人以上 | | | 20人 | 20人 | | |

ターゲット1 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

主要事業実施工程表（1-1 移住交流拡大！深化する地方創生）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 20 | 1-1-2 | 77 | <p>● 県西部圏域（にし阿波）が、日本農業の原点である「世界農業遺産」や「食と農の景勝地」に認定されたことを契機に、持続力のある地域経済を実現するため、国内外への情報発信、伝統食材を活用した「もうかる農業」への取組み、農泊の活性化及び次世代への継承を推進します。＜西部＞</p> | 推進 | | | | <p>● 県西部圏域（にし阿波）が、日本農業の原点である「世界農業遺産」や「食と農の景勝地」に認定されたことを契機に、持続力のある地域経済を実現するため、<u>オンライン等を活用して、万全の衛生対策を行うとともに、ニューノーマルに対応した</u>国内外への情報発信を効果的に行い、伝統食材を活用した「もうかる農業」、農泊の活性化及び次世代への継承を推進します。＜西部＞</p> | | | | | <p>令和2年度の実績(R2.12.28認証件数(累計)81件)が令和4年度の数値目標を大きく上回るため、さらなる「世界農業遺産ブランド」の認知度向上を目指し、認証件数の数値目標を上方修正する。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、観光に対する社会的ニーズが変化しているため、「とくしま農林漁家民宿の宿泊者数(西部圏域)」を廃止し、今後は、とくしま農林漁家民宿経営者への衛生対策やスキルアップ向上のための研修会等を実施することにより、より安全・安心な受入体制を整備する。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大により、地方回帰志向や農業への関心が高まる中、令和2年11月に創設された「にし阿波就農・移住応援隊」の機能を活用し、当地域の農業を支える新規就農者の育成に向けた農業研修を実施する。</p> | 西部 |
| | | | ○「世界農業遺産ブランド」認証件数(累計) (17) 1件→(22) 50件 | 20件 | 40件 | 45件 | 50件 | ○「世界農業遺産ブランド」認証件数(累計) (17) 1件→(22) <u>100件</u> | 20件 | 40件 | <u>90件</u> | <u>100件</u> | | |
| | | | ○とくしま農林漁家民宿の宿泊者数(西部圏域) (17) 2,265人→(22) 2,800人 | 2,500人 | 2,600人 | 2,700人 | 2,800人 | ○とくしま農林漁家民宿経営者への衛生対策等の 啓発回数 (17) 1回→(22) <u>年間3回以上</u> | | | <u>3回</u> | <u>3回</u> | | |
| | | | ○「世界農業遺産」戦略品目であるそば販売作付面積(累計) (17) 28.7ha→(22) 33ha | 30ha | 31ha | 32ha | 33ha | | | | | | | |
| | | | ○「世界農業遺産」戦略品目であるごうしゅいちを栽培する農林漁家民宿等の数(累計) (17) 25戸→(22) 50戸 | 35戸 | 40戸 | 45戸 | 50戸 | | | | | | | |
| | | | ○世界農業遺産フォーラム等の開催回数(累計) (17) 1回→(22) 3回 | | 1回 | 2回 | 3回 | ○オンライン等を活用した 世界農業遺産フォーラム等の開催回数(累計) (17) 1回→(22) <u>3回</u> | | | | | | |
| | | | ○にし阿波新規就農サポートチーム(仮称)の創設 (17) 1回→(20)創設 | | | | | ○「にし阿波就農・移住応援隊」の創設 (17) 1回→(20)創設 | | | | | | |
| 新規 | | | | | | | | ○オンライン等を活用した 「にし阿波就農・移住応援隊」による 農業研修支援者数 (17) 1人→(22) <u>年間5人以上</u> | | | <u>5人</u> | <u>5人</u> | | |
| 21 | 1-1-2 | 78 | <p>● 本県農林水産業の成長産業化を実現するため、徳島大学「生物資源産業学部」をはじめとする高等教育研究機関や産業界との連携強化により、「サイエンスゾーン※」等を拠点とし、新技術の開発や人材の育成に一体的に取り組みます。＜農林＞</p> | 推進 | | | | <p>● 本県農林水産業の成長産業化を実現するため、徳島大学「生物資源産業学部」をはじめとする高等教育研究機関や産業界との連携強化により、「サイエンスゾーン※」等を拠点とし、<u>ニューノーマルに対応した</u>新技術の開発や人材の育成、<u>オンラインによる情報交換と直接体験とを組み合わせたインターンシップ</u>に一体的に取り組みます。＜農林＞</p> | 推進 | | | | <p>農業インターンシップでは、新型コロナの影響により、既存の直接体験の実施が制約を受けることから、それらと併せて、オンラインによる徳島農業の魅力発信、就業相談、農家との意見交換等と組み合わせたニューノーマル対応のインターンシップを推進することとしたため、目標を見直す。</p> <p>人材育成及び技術開発に向けた連携協定への参画については、令和元年度に複数の企業が参画する連携協定の締結に至ったことから、数値目標を上方修正する。</p> | 農林 |
| | | | ○新技術の開発に向けた 大学・企業との共同研究数 (17) 12件→(19)～(22) 年間12件 | 12件 | 12件 | 12件 | 12件 | | | | | | | |
| | | | ○農業系大学生等による インターンシップ参加者数 (17) 176人→(19)～(22) 年間180人 | 180人 | 180人 | 180人 | 180人 | ○農業系大学生等を対象としたオンラインと直接体験を 組み合わせたインターンシップ参加者数 (17) 176人→(22) <u>400人</u> | 180人 | 180人 | <u>300人</u> | <u>400人</u> | | |
| | | | ○新技術開発、人材育成等に向けた 新たな連携協定参画企業等数(累計) (17) 2件→(22) 7件 | 4件 | 5件 | 6件 | 7件 | ○新技術開発、人材育成等に向けた 新たな連携協定参画企業等数(累計) (17) 2件→(22) <u>10件</u> | 4件 | 5件 | <u>9件</u> | <u>10件</u> | | |

ターゲット1 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

主要事業実施工程表（1-1 移住交流拡大！深化する地方創生）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | |
|------|--------------|-----|--|--------------|-----------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|-------------|--|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | |
| 22 | 1-1-3 | 78 | <p>● 地方創生の動きを更に加速させるため、全国屈指の光ブロードバンド環境や立地優遇制度を活かし、大都市圏等から、成長分野関連企業、情報通信関連産業、サテライトオフィス等の誘致や本社機能移転を推進し、本県経済の活性化及び雇用機会の確保を図ります。＜政策・商工・南部・西部＞</p> | 推進 | | | | <p>● 全国屈指の光ブロードバンド環境やオーダーメイド型立地優遇制度を活かし、<u>コロナ禍における地方分散の流れや工場拠点化を加速させるため、経営や雇用に深刻な影響を受けた企業に対する要件緩和や、DX投資促進のための改正を行う</u>など、大都市圏等から、成長分野関連企業、情報通信関連産業、サテライトオフィス等の誘致や本社機能移転を推進し、本県経済の活性化及び雇用機会の確保を図ります。＜政策・商工・南部・西部＞</p> | | | | | <p>新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい経営環境下においても、県内経済の持続的な成長と雇用を創出する企業の投資計画を支援するため、「企業立地優遇制度」の奨励指定及び補助要件を緩和し、立地企業の安定的かつ持続的な操業を支援する。</p> | 政策・商工・南部・西部 | |
| | | | ○本県への本社機能誘致（累計） ('17) 4社→('22) 12社 | 8社 | 9社 | 10社 | 12社 | | | | | | | | |
| | | | ○成長分野関連企業等の奨励指定における立地数（累計） ('17) 69社→('22) 110社 | 92社 | 98社 | 104社 | 110社 | | | | | | | | |
| 23 | 1-1-3 | 78 | <p>● 「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」に基づき、消費者庁等による新たな恒常的拠点である「消費者庁新未来創造戦略本部」の発足に向けて全面的に協力するとともに、新たな拠点が、地方創生に資する新たなひとの流れを創出し、消費者行政の発展・創造のためにふさわしいものとなるよう、「機能の充実」と「規模の拡大」を目指すとともに、消費者庁が消費者行政を一元的に推進できる消費者省へと移行されるよう後押しする中で、本県への全面的移転につなげていきます。＜危機・政策＞</p> | 移転方針決定 | 恒常的 拠点 発足 | 推進 | 全面的 移転 | <p>● <u>令和2年7月に徳島県庁に開設された消費者庁の新たな恒常的拠点「消費者庁新未来創造戦略本部」</u>が、地方創生に資する新たなひとの流れを創出し、消費者行政の発展・創造のためにふさわしいものとなるよう、「機能の充実」と「規模の拡大」を目指すとともに、消費者庁が消費者行政を一元的に推進できる消費者省へと移行されるよう後押しする中で、本県への全面的移転につなげていきます。＜危機・政策＞</p> | | | | | <p>「消費者庁新未来創造戦略本部」が開設されたことによる時点修正</p> | 危機・政策 | |
| | | | ○消費者庁等の徳島移転 ('17) 試験移転→('22) 全面的移転 | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○G20消費者政策国際会合の徳島開催 ('19) 開催 | | | | | | | | | | | | |
| 2301 | 1-1-3 | 78 | <p>● 「G20消費者政策国際会合」を契機として、国内外との連携を進め、本県の消費者行政・消費者教育の一層の発展と、本県を「消費者行政先進県」として世界へ発信し、新たな人の流れを創出します。＜危機＞</p> | 推進 | | | | <p>● 「G20消費者政策国際会合」を契機として、国内外と<u>ニューノーマルに対応した</u>連携を進め、本県の消費者行政・消費者教育の一層の発展と、本県を「消費者行政先進県」として世界へ発信し、新たな人の流れを創出します。＜危機＞</p> | | | | | <p>新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、ニューノーマルに対応した取組を推進する。</p> | 危機 | |
| | | | ○ネットワーク会議・フォーラム参加者数（累計） ('17) → ('22) 600人 | | 200人 | 400人 | 600人 | | | | | | | | |

ターゲット1 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

主要事業実施工程表（1-1 移住交流拡大！深化する地方創生）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | | |
|----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|----|--|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | | |
| 24 | 1-1-4 | 79 | <ul style="list-style-type: none"> ● 少子高齢化による地域の担い手不足を解消し、新たな「とくしま帰郷」の流れを加速させるため、東京本部・関西本部の拠点機能や、県人会等との人的ネットワークを生かすとともに、「地域」と「徳島に興味を持つ方」とのマッチング支援の充実を図るなど、徳島に想いを寄せて活動する「徳島ファン」を創出します。(再掲) <政策> | 推進 | | | | | | | | | | | <p>コロナ禍において、感染症対策をしつつイベントを開催するために、徳島とファンをオンラインで繋ぎ、オンライン交流による新たな取組により、徳島ファンの創出を図る。</p> <p>また、首都圏及び関西圏においても、「徳島ファン」創出・拡大を図るため、ニューノーマルに対応したイベントを開催する。</p> | 政策 |
| | | | ○県外交流拠点での交流イベント参加者数(累計) (17) → (22) 150人 | | 50人 | 100人 | 150人 | ○県外交流拠点を活用したニューノーマル対応交流会参加者数(累計) (17) → (22) 150人 | | | | 100人 | 150人 | | | |
| | | | ○「徳島ファンバンク」の創設 (19) 創設 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○「徳島ファンバンク」へのファン登録者数 (17) → (22) 40人 | | 20人 | 30人 | 40人 | | | | | | | | | |
| | | | ○「徳島ファン・ドラフト会議イベント」の開催 (19) 開催 | | | | | ○徳島ファン創出オンラインイベントの開催 (21)(22) 開催 | | | | | | | | |
| | | | ○「「まるごと徳島」体感フェス」の開催 (19) 東京圏開催 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○「とくしまっせ〜ぎゅぎゅっと徳島体験フェス〜」の開催 (19) 開催 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○首都圏及び関西圏での「徳島ファン」創出・拡大イベントの開催 (20) 開催 | | | | | ○首都圏及び関西圏でのニューノーマルに対応した「徳島ファン」創出・拡大イベントの開催 (21)(22) 開催 | | | | | | | | |
| 26 | 1-1-4 | 79 | <ul style="list-style-type: none"> ● 徳島県が打ち出した共通コンセプト「vs東京」の実践に向けて、その情報発信の核として、豊かな自然や文化の魅力から、多くのクリエイターを惹きつけるという本県の存在感を打ち出すために、世界の映像クリエイターにとって魅力のある地域となることを目指した「実践の場」として、「徳島国際映画祭」を開催します。 <政策> | 推進 | | | | | | | | | | | <p>コロナ禍において、映画だけにとらわれない密を避けた新生活様式イベントとしてリスタートする。、映画祭については、オフライン(屋外開放型)とオンラインのブレンド開催とする。</p> | 政策 |
| | | | ○徳島国際映画祭ゆかりの作品の県内外イベント等での上映 (17) 4回→(22) 8回 | 5回 | 6回 | 7回 | 8回 | ○「徳島国際映画祭」及び「#徳島ニューノーマル映画祭」ゆかりの作品の県内外イベント等での上映 (17) 4回→(22) 8回 | 5回 | 6回 | 7回 | 8回 | | | | |
| 27 | 1-1-4 | 79 | <ul style="list-style-type: none"> ● 地方と都市、双方のよさを体験することで、地方居住者と都市居住者の双方の視点に立った考え方のできる人材を育成する「デュアルスクール」を推進します。(再掲) <教育> | 推進 | | | | | | | | | | | <p>都市部における新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を鑑み、7月下旬まで実施を見合わせていた。8月以降、「GOT Oトラベル」が運用されるなど、社会経済活動の再開を契機に、デュアルスクールの受付を再開したが、本年度は実施を見送った希望者もあり、当初の目標値を大きく下回ることとなったため、数値目標を下方修正する。令和3年度からは、ニューノーマルに対応したオンライン体験ツアーなどの新たな発信手法を取り入れて事業の推進を図る。</p> | 教育 |
| | | | ○「デュアルスクール」実施回数(累計) (17) 7回→(22) 36回 | 18回 | 24回 | 30回 | 36回 | ○「デュアルスクール」実施回数(累計) (17) 7回→(22) 30回 | 18回 | 24回 | 24回 | 30回 | | | | |

ターゲット1 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

主要事業実施工程表（1-1 移住交流拡大！深化する地方創生）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | |
|----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|---|--------------|--------------|--------------|--|----------------------------------|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | |
| 28 | 1-1-4 | 80 | ●夏の阿波おどりはもとより、春、秋の「阿波おどり」の更なる充実や、冬の「阿波おどり」の定着、有名連の練習風景の観光資源化など、阿波おどりの通年活用に取り組むとともに、本場徳島をPRする「世界阿波おどりサミット」の開催を契機とし、世界の「阿波おどり連」との連携強化を図り、世界に発信することにより、「徳島ファン」の拡大を図り、国内外から本県を訪れる観光客の周遊と宿泊を促進します。<商工> | 推進 | | | | ●夏の阿波おどりはもとより、春、秋の「阿波おどり」の更なる充実や、冬の「阿波おどり」の定着、有名連の練習風景の観光資源化など、阿波おどりの通年活用に取り組むとともに、 <u>ニューノーマルに対応した新たな阿波おどりを実装し</u> 、本場徳島をPRする「世界阿波おどりサミット」の開催を契機とし、世界の「阿波おどり連」との連携強化を図り、世界に発信することにより、「徳島ファン」の拡大を図り、 <u>オンライン配信等による魅力発信を行うことにより</u> 、国内外から本県を訪れる観光客の周遊と宿泊を促進します。<商工> | | | | | 各国の渡航制限等により、海外公演や指導者派遣が難しいため、リモート配信や現地関係者を活用した阿波おどりの魅力発信の回数を数値目標に含めることとし、目標の達成に取り組む。 | 商工 | |
| | | | ○「世界阿波おどりサミット」の開催 ('19) 開催 | | | | | ○各国大使館等と連携した「阿波おどり」の海外公演、指導者派遣や <u>オンライン配信等による魅力発信回数</u> (累計) ('17) 4回→('22) 30回 | 15回 | 20回 | 25回 | 30回 | | | |
| 30 | 1-1-4 | 80 | ●「阿波藍」「阿波人形浄瑠璃」「阿波おどり」「ベートーヴェン第九」の「4大モチーフ」をはじめとする「あわ文化」の継承・発展に向けた取組みを進めるとともに、積極的に観光資源としても活用し、「あわ文化」の魅力を広げ発信します。<未来> | 推進 | | | | ●「阿波藍」「阿波人形浄瑠璃」「阿波おどり」「ベートーヴェン第九」の「4大モチーフ」をはじめとする「あわ文化」の継承・発展に向け、 <u>ニューノーマルに対応した取組みを進めるとともに、積極的に観光資源としても活用し</u> 、「あわ文化」の魅力を広げ発信します。<未来> | | | | | アフターコロナを見据え、ニューノーマルに対応した公演等を実施するため、文言を修正する。 | 未来 | |
| | | | ○徳島版「とくしま文化プログラム」の開催 ('19)～('21) 開催 | | | | | ○徳島版「とくしま文化プログラム」の <u>実施</u> ('19)～('21) <u>実施</u> | | | | | | | |
| | | | ○「藍色展2020」の開催 ('19) 開催 | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○阿波人形浄瑠璃「人形座」の海外派遣 ('19) 派遣 | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○阿波人形浄瑠璃公演等入場者数 ('17) 36,343人→('22) 38,000人 | | 36,500人 | 37,000人 | 37,500人 | 38,000人 | | | | | | | |
| 新規 | | | | | | | | ● <u>県民の文化活動の更なる促進や次世代の人材育成をはじめ、優れた文化芸術の鑑賞機会の提供やにぎわいの創出を図り、希望あふれる徳島の未来を創生するため、県市協調により県都のランドマークとなる「新ホール」の整備を推進します。<未来></u> | | | | 推進 | | 県市協調による新ホール整備に着手したことに伴い、項目を追加する。 | 未来 |
| | | | | | | | | ○文化芸術の拠点となる新ホールの整備 ('21)～設計・施工 | | | | | | | |
| 31 | 1-1-4 | 80 | ●3大国際スポーツ大会におけるキャンプ地誘致や競技大会開催を通じて創造される「レガシー」を県民の誰もが実感できるよう、国内外からのスポーツ大会誘致や国際スポーツ交流を実施します。<未来> | 推進 | | | | ●3大国際スポーツ大会におけるキャンプ地誘致や競技大会開催を通じて創造される「レガシー」を県民の誰もが実感できるよう、 <u>「徳島県スポーツコミッション」を核とする国内外からのスポーツ大会・合宿誘致とともに、ニューノーマルな国際スポーツ交流を実施します。<未来></u> | | | | | 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、2020年度の実施を目指していた交流会は全て中止となったが、令和元年度実績値が数値目標を上回ったこと、及び令和2年8月に徳島県スポーツコミッションを設立し、スポーツツーリズムの推進体制を強化したことから、県内開催件数を上方修正する。 | 未来 | |
| | | | ○国際的及び全国的スポーツ大会や合宿、交流会の県内開催件数(累計) ('17) 一→('22) 20件 | | 5件 | 10件 | 15件 | 20件 | ○国際的及び全国的スポーツ大会や合宿、交流会の県内開催件数(累計) ('17) 一→('22) <u>40件</u> | 5件 | 10件 | <u>30件</u> | <u>40件</u> | | |

ターゲット1 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

主要事業実施工程表（1-1 移住交流拡大！深化する地方創生）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 35 | 1-1-5 | 81 | ●路線バス、鉄道、フェリー等公共交通事業者や関係機関と連携し、外国人旅行者などを対象とした企画乗車券の発行やノーカーデーをはじめ、各種キャンペーンの開催などにより、公共交通の利用を促進します。＜県土＞ | 促進 | | | | ●路線バス、鉄道、フェリー等公共交通事業者の安全安心な運行への支援や、利用需要を喚起する情報発信などにより、WITHコロナ期、アフターコロナ期における公共交通の利用促進を図ります。＜県土＞ | | | | | 新型コロナの影響により、利用者が大きく落ち込んだ公共交通の需要を回復させる取組みが重要であることから、所要の見直しを行う。 | 県土 |
| 新規 | 1-1-5 | | | | | | | ●県内外から新ホールを利用しやすい環境を創出するとともに、周辺施設への「利便性向上」を図ることにより、新ホールを核とした「魅力あるまちづくり」を整げるため、JR全岐線への「新駅設備」の実現に取り組みます。＜県土＞ | | | 推進 | | 新ホールや周辺施設への「利便性向上」を図るため、新駅設置に取り組む。 | 県土 |

ターゲット1 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

主要事業実施工程表（1-2 学び直しを支援！「リカレント教育」本格展開）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 41 | 1-2-1 | 83 | <p>●「徳島県立総合大学校（まなびーあ徳島）」において、生涯学習に関するワンストップでの情報提供や、県民ニーズや社会情勢を捉えた講座の充実により、ライフステージに応じたリカレント教育をはじめ、県民の生涯学習の一層の充実・強化を図ります。＜政策＞</p> <p>○主催講座受講者数 ('17) 96,668人 → ('22) 100,000人 *過去4年平均</p> <p>○「とくしまリカレント教育支援センター」の設置 ('19) 設置</p> <p>○高等教育機関と連携して開発するリカレント教育プログラム数 ('17) → ('22) 14件（累計）</p> | 推進 | | | | <p>●「徳島県立総合大学校（まなびーあ徳島）」において、オンライン等を活用した講座の充実や感染予防策の徹底など、ニューノーマル形式に対応するとともに、生涯学習に関するワンストップでの情報提供や、県民ニーズや社会情勢を捉えた講座の充実により、ライフステージに応じたリカレント教育をはじめ、県民の生涯学習の一層の充実・強化を図ります。＜政策＞</p> | | | | | <p>コロナ下における生涯学習環境を整備するため、オンライン等を活用した講座の積極的な導入により、対面とオンライン双方の良さを活かした講座への取り組みを強化し、県民誰もが安心して自由に利用できる環境づくりを推進する。</p> | 政策 |
| 47 | 1-2-1 | 84 | <p>●高齢者の生きがいづくりと介護現場の負担軽減を図るため、現役職員と元気高齢者が業務をシェアする「徳島県版『介護助手』制度」の普及・定着を図ります。＜保健＞</p> <p>○モデル事業による「介護助手」雇用施設数（累計） ('17) 12施設 → ('22) 125施設</p> | 推進 | | | | <p>●高齢者の生きがいづくりと介護現場の負担軽減を図るため、現役職員と元気高齢者が業務をシェアする「徳島県版『介護助手』制度」の普及・定着を図ります。また、休業期間の柔軟化、感染症対策の徹底、広報の強化を図り、元気高齢者がニューノーマルな働き方ができるよう支援します。＜保健＞</p> | | | | | <p>徳島県版『介護助手』制度は、元気高齢者に適した業務（介護周辺業務）を切り分け、現役職員と高齢者の「業務シェア」を図るものである。就労を希望する元気高齢者を、介護施設において「介護助手」として有期雇用（3か月）し、その期間中にOJT研修を実施。介護の知識・経験がない方でも参入でき、円滑な就労及びその定着を図っている。 今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響からくる不安を解消し、元気高齢者の方の生きがいづくりと介護現場の負担軽減に貢献するため、つぎの3点の改善について実施した。</p> <p>・応募期間の柔軟化 応募期間を拡大し、通年にすることで、元気高齢者の応募者がコロナ禍での変化しやすい状況に対応できるようにした。</p> <p>・感染症対策の徹底 選定施設並びに元気高齢者の応募者に感染症対策を周知するとともに、元気高齢者の応募者に向けた集合での事業説明会を取りやめ、応募者に個別での事業説明会を実施した。</p> <p>・広報の強化 イベントや研修等、集合の機会が減少した代わりに、Webでの広報を強化した。</p> <p>次年度以降もこの3点について強化を図り、元気高齢者がニューノーマルな働き方ができるよう支援する。</p> | 保健 |
| 54 | 1-2-2 | 85 | <p>●出産・育児等により離職せざるを得なかった女性の再就職準備や就労を支援するため、就職に関する情報の提供やスキルアップに向けた講座等を実施するとともに、管理職や起業を目指す女性などを対象に、キャリアアップに向けたセミナーや県内大学と連携した「ウーマンビジネススクール」を開催します。＜商工＞</p> <p>○女性の再就職や就労を支援する講座等における就業率 ('17) 32% → ('22) 60%以上</p> <p>○「ウーマンビジネススクール」の参加者数（累計） ('17) 20人 → ('22) 70人</p> | 推進 | | | | <p>●出産・育児等により離職せざるを得なかった女性の再就職準備や就労を支援するため、就職に関する情報の提供やスキルアップに向けた講座等や、管理職、起業を目指す女性などを対象に、キャリアアップに向けたセミナーや県内大学と連携した「ウーマンビジネススクール」をニューノーマルに対応した形式で開催します。＜商工＞</p> | | | | | <p>「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大防止を図りつつ、女性の活躍支援に取り組む。</p> | 商工 |

ターゲット1 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

主要事業実施工程表（1-3 人生100年時代！健康寿命延伸へ「フレイル対策」展開）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現 行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | | |
|----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|----|--|--|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | | |
| 56 | 1-3-1 | 86 | <p>●「すべての県民が共に支え合い、心身ともに健康で幸せに暮らせる徳島づくり」を実現するため、適切な生活習慣の定着促進や、糖尿病患者が効果的・効率的な治療・指導を円滑に受けられる体制整備の充実を図り、糖尿病をはじめとする生活習慣病対策を推進します。<保健></p> | 推進 | | | | <p>●「すべての県民が共に支え合い、心身ともに健康で幸せに暮らせる徳島づくり」を実現するため、適切な生活習慣の定着促進による糖尿病等の併発予防や、糖尿病等患者が効果的・効率的な治療・指導を円滑に受けられる体制整備の充実を図り、新型コロナウイルス感染症の重症化リスクが高いと言われる糖尿病をはじめとする生活習慣病対策を推進します。<保健></p> | | | | | <p>糖尿病をはじめとする生活習慣病は、新型コロナウイルス感染症の重症化リスクが高いと言われることから、生活習慣病対策の推進を図る。</p> | 保健 | | |
| | | | ○健康寿命（暦年） ('16) 男性：71.34歳 女性：74.04歳 →('22) 延伸 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○糖尿病粗死亡率（暦年） ('17) 全国最下位→('22) 全国最下位からの脱出 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○糖尿病の診療を行っている医療施設（327施設）のうち、「糖尿病連携手帳」を活用している施設数 ('17) 202施設→('22) 225施設 | 210施設 | 215施設 | 220施設 | 225施設 | | | | | | | | | |
| | | | ○肺年齢測定器による肺年齢チェック実施者数（累計） ('17) 2,700人→('22) 10,200人 | 5,700人 | 7,200人 | 8,700人 | 10,200人 | | | | | | | | | |
| | | | ○スマホアプリ活用「健康ポイント」の創設 ('19) 創設 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○スマホアプリ参加者数 ('17) →→('22) 25,000人 | | 15,000人 | 20,000人 | 25,000人 | | | | | | | | | |
| 57 | 1-3-1 | 86 | <p>●人生100年時代をリードする「健康寿命先進県」の実装を図るため、県民総ぐるみによる「フレイル予防作戦」を展開するとともに、アクティブシニアが主役となる「集いの場」の創出を推進します。<保健></p> | 推進 | | | | <p>●人生100年時代をリードする「健康寿命先進県」の実装を図るため、県民総ぐるみによる「フレイル予防作戦」を展開するとともに、アクティブシニアが主役となる「集いの場」の創出を新しい日常のもとで推進します。<保健></p> | | | | | <p>名称が確定したため、「フレイル予防プログラム(仮称)」から「フレイル予防実践ガイドブック」に修正する。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策として、各施設において外部からの面会禁止等の措置がとられる中でのシニアフィットネスの開催は困難であることから、ウイズ・アフターコロナ下においても、開催可能な形態(例えば、施設外広場・リモート開催等)により実施し、糖尿病をはじめとする生活習慣病等の疾病予防・重症化予防の推進を図る。</p> | 保健 | | |
| | | | ○「フレイル予防プログラム(仮称)」の作成 ('20) 作成 | | | | | ○「フレイル予防 実践ガイドブック 」の作成 ('20) 作成 | | | | | | | | |
| | | | ○「フレイルサポーター」養成数(累計) ('17) →→('22) 200人 | 50人 | 100人 | 150人 | 200人 | | | | | | | | | |
| | | | ○「フレイルトレーナー」養成数(累計) ('17) →→('22) 40人 | 10人 | 20人 | 30人 | 40人 | | | | | | | | | |
| | | | ○介護保険施設における「健康にぎわいの場」実施施設数(累計) ('17) →→('22) 16施設 | 4施設 | 8施設 | 12施設 | 16施設 | ○介護保険施設における「健康にぎわいの場」実施施設数(累計) ('17) →→('22) 12施設 | 4施設 | 8施設 | 8施設 | 12施設 | | | | |
| 新規 | | | | | | | | ○シニアフィットネスの開催市町村数(累計) ('17) →→('22) 8市町村 | | | 4市町村 | 8市町村 | | | | |

ターゲット1 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

主要事業実施工程表（1-3 人生100年時代！健康寿命延伸へ「フレイル対策」展開）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 58 | 1-3-1 | 87 | <p>●「元氣なあわっ子憲章」のもと、子どもたちが健康について学び、自ら考え、実践できるよう、学校・家庭・地域・専門機関等が連携して取り組みます。特に、子どもたちの望ましい生活習慣の定着を図るため、すべての小中高校で生活習慣改善計画を策定し、実践に取り組むことにより、肥満予防・肥満対策、生活習慣病予防対策を推進します。さらに、地場産物を活用した学校給食の推進や、食に関する指導の充実のために、栄養教諭の配置を拡充し、徳島の産物や食文化への理解を深めるなど、徳島ならではの魅力ある食育を推進します。＜教育＞</p> | 推進 | | | | <p>●「元氣なあわっ子憲章」のもと、子どもたちが健康について学び、自ら考え、実践できるよう、学校・家庭・地域・専門機関等が連携して取り組みます。特に、子どもたちの望ましい生活習慣の定着を図るため、すべての小中高校で生活習慣改善計画を策定し、タブレット端末を活用して、身長・体重を定期的に記録、グラフ化し、成長曲線と対比するなどの実践に取り組むことにより、肥満予防・肥満対策、生活習慣病予防対策を推進します。さらに、地場産物を活用した学校給食の推進や、食に関する指導の充実のために、栄養教諭の配置を拡充し、徳島の産物や食文化への理解を深めるなど、徳島ならではの魅力ある食育を推進します。＜教育＞</p> | | | | | <p>タブレット等の端末が一人一台導入されるのに伴い、タブレット等の端末を有効活用した生活習慣改善への取り組みを実施する。</p> | 教育 |
| | | | ○肥満傾向の児童生徒数（小中学校） ('17) 4,979人→('22) 2017年度比6%減 | 1.5%減 | 3%減 | 4.5%減 | 6%減 | | | | | | | |
| | | | ○学校給食に地場産物を活用する割合 ('17) 35%→('22) 35% | 35% | 35% | 35% | 35% | | | | | | | |
| | | | ○小中学校への栄養教諭の配置人数 ('17) 57人→('22) 64人 | 61人 | 62人 | 63人 | 64人 | | | | | | | |
| 60 | 1-3-1 | 87 | <p>●県民の健康な歯と口腔を保つため、「笑顔が踊るとくしま歯と口腔の健康づくり推進条例」に基づき「徳島県歯科口腔保健推進計画」を推進し、県民自らの日常生活における歯と口腔の健康づくりに係る取組みを促進するとともに、生涯にわたる充実した生活に向け、健康寿命の延伸を図るために、ライフステージに応じた歯科保健対策を推進します。＜保健＞</p> | 推進 | | | | | | | | | <p>目標の評価のための調査を令和2年度に予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、調査実施を令和3年度に変更したため。</p> | 保健 |
| | | | ○80歳で20歯以上の 自分の歯を有する者の増加 ('16) 36.7%→('20) 50.0% | | 50.0% | | | ○80歳で20歯以上の 自分の歯を有する者の増加 ('16) 36.7%→('21) 50.0% | | 50.0% | 50.0% | | | |
| | | | ○3歳児でう蝕のない者の増加 ('17) 82.9%→('22) 88.6% | 84.2% | 85.8% | 87.2% | 88.6% | | | | | | | |

ターゲット1 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

主要事業実施工程表（1-3 人生100年時代！健康寿命延伸へ「フレイル対策」展開）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | |
|----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--|--|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | |
| 62 | 1-3-1 | 88 | ●「健康・防災」のリバシブルな役割を担う西部健康防災公園を「健康づくりの拠点」とするため、障がいの有無にかかわらず、誰もが気軽にスポーツを楽しむことができる環境づくりを推進するとともに、防災や健康意識の醸成に向けた講座を積極的に開催するなど、公園の利活用拡大を図ります。＜西部＞ | 推進 | | | | ●「健康・防災」のリバシブルな役割を担う西部健康防災公園を「健康づくりの拠点」とするため、 オンライン等を活用し 、障がいの有無にかかわらず、誰もが気軽にスポーツを楽しむことができる環境づくりを推進するとともに、防災や健康意識の醸成に向けた講座を積極的に開催するなど、公園の利活用拡大を図ります。＜西部＞ | | | | | 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減少しているため大幅な減少を見込むが、令和3年度はニューノーマルに対応したスポーツ大会やイベント等が増加することにより、利用者数が8割程度まで回復し、令和4年度はコロナ禍前の目標値10万人以上の達成を目指す。 (R2年4月から9月の利用者数 25,390人) | 西部 | |
| | | | ○「西部健康防災公園」を活用したスポーツやレクリエーションでの利用者数 (‘17) 91,772人→(‘19)～(‘22) 年間10万人以上 | 10万人 | 10万人 | 10万人 | 10万人 | ○「西部健康防災公園」を活用したスポーツやレクリエーションでの利用者数 (‘17) 91,772人→(‘22) 10万人以上 | 10万人 | 10万人 | 8万人 | 10万人 | | | |
| | | | ○「西部健康防災公園」を活用した障がい者スポーツ交流会等への参加者数 (‘17) →→(‘19)～(‘22) 年間100人以上 | 100人 | 100人 | 100人 | 100人 | ○「西部健康防災公園」を活用した障がい者スポーツ交流会等への参加者数 (‘17) →→(‘21)～(‘22) 年間200人以上 | | | 200人 | 200人 | | また、障がい者スポーツ交流会等への参加者数については、「オンライン」を活用した交流イベントを開催し、新たにサテライト会場の設置やSNSによる情報発信などを行うことにより、令和3年度から目標値を「年間200人以上」に上方修正する。 | |
| | | | ○「防災」及び「健康増進」講座の実施回数 (‘17) →→(‘19)～(‘22) 年間45回以上 | 45回 | 45回 | 45回 | 45回 | | | | | | | | |
| 63 | 1-3-1 | 88 | ●介護予防に重点を置いた健康づくりを推進するため、介護予防リーダーの継続的な養成を図るとともに、「通いの場」の創設など介護予防リーダーの活動の場づくりを推進します。＜保健＞ | 推進 | | | | ●介護予防に重点を置いた健康づくりを推進するため、 また、高齢者の健康と人と人との繋がりを維持するため、感染症対策を徹底し 、介護予防リーダーの継続的な養成を図るとともに、「通いの場」の創設など介護予防リーダーの活動の場づくりや、 新しい日常のもとでの、オンラインを活用した交流を推進します。 ＜保健＞ | | | | | 高齢者にとっては、外出の機会が減少することで、不安や孤独感の増幅、「生活不活発」への懸念があることから、「事業の概要」に健康と地域での繋がりを維持するため、感染症対策をとりながら実施する旨、追記。 | 保健 | |
| | | | ○「介護予防リーダー」が活動している「通いの場」の数（累計） (‘17) 35箇所→(‘22) 140箇所 | 80箇所 | 100箇所 | 120箇所 | 140箇所 | | | | | | | | |
| 65 | 1-3-2 | 88 | ●高齢者の生きがいづくりと介護現場の負担軽減を図るため、現役職員と元気高齢者が業務をシェアする「徳島県版『介護助手』制度」の普及・定着を図ります。 (再掲)＜保健＞ | 推進 | | | | ●高齢者の生きがいづくりと介護現場の負担軽減を図るため、現役職員と元気高齢者が業務をシェアする「徳島県版『介護助手』制度」の普及・定着を図ります。 また、応募期間の柔軟化、感染症対策の徹底、広報の強化を図り、元気高齢者がニューノーマルな働き方ができるよう支援します。 (再掲)＜保健＞ | | | | | 徳島県版『介護助手』制度は、元気高齢者に適した業務(介護周辺業務)を切り分け、現役職員と高齢者の「業務シェア」を図るものである。就労を希望する元気高齢者を、介護施設において「介護助手」として有期雇用(3か月)し、その期間中にOJT研修を実施。介護の知識・経験がない方でも参入でき、円滑な就労及びその定着を図っている。 今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響からくる不安を解消し、元気高齢者の方の生きがいづくりと介護現場の負担軽減に貢献するため、つぎの3点の改善について実施した。 ・応募期間の柔軟化 応募期間を拡大し、通年にすることで、元気高齢者の応募者がコロナ禍での変化しやすい状況に対応できるようにした。 ・感染症対策の徹底 選定施設並びに元気高齢者の応募者に感染症対策を周知するとともに、元気高齢者の応募者に向けた集合での事業説明会を取りやめ、応募者に個別での事業説明会を実施した。 ・広報の強化 イベントや研修等、集合の機会が減少した代わりに、Webでの広報を強化した。 次年度以降もこの3点について強化を図り、元気高齢者がニューノーマルな働き方ができるよう支援する。 | 保健 | |
| | | | ○モデル事業による「介護助手」雇用施設数（累計） (‘17) 12施設→(‘22) 125施設 | 50施設 | 75施設 | 100施設 | 125施設 | | | | | | | | |

ターゲット1 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

主要事業実施工程表（1-3 人生100年時代！健康寿命延伸へ「フレイル対策」展開）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現 行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | |
|----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|---|--------------|--------------|---------------|--|----|--|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | |
| 67 | 1-3-2 | 89 | <p>●「徳島県立総合大学校（まなびーあ徳島）」において、生涯学習に関するワンストップでの情報提供や、県民ニーズや社会情勢を捉えた講座の充実により、ライフステージに応じたリカレント教育をはじめ、県民の生涯学習の一層の充実・強化を図ります。（再掲）＜政策＞</p> | 推進 | | | | <p>●「徳島県立総合大学校（まなびーあ徳島）」において、<u>オンライン等を活用した講座の充実や感染予防策の徹底など、ニューノーマル形式に対応するとともに</u>、生涯学習に関するワンストップでの情報提供や、県民ニーズや社会情勢を捉えた講座の充実により、ライフステージに応じたリカレント教育をはじめ、県民の生涯学習の一層の充実・強化を図ります。（再掲）＜政策＞</p> | | | | | <p>コロナ下における生涯学習環境を整備するため、オンライン等を活用した講座の積極的な導入により、対面とオンライン双方の良さを活かした講座への取り組みを強化し、県民誰もが安心して自由に利用できる環境づくりを推進する。</p> | 政策 | |
| | | | ○主催講座受講者数 (’17) 96,668人*→(’22) 100,000人 *過去4年平均 | | 100,000人 | 100,000人 | 100,000人 | 100,000人 | | | | | | | |
| | | | ○「とくしまリカレント教育支援センター」の設置 (’19) 設置 | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○高等教育機関と連携して開発するリカレント教育プログラム数 (’17) →(’22) 14件（累計） | | 8件 | 10件 | 12件 | 14件 | | | | | | | |
| 68 | 1-3-2 | 89 | <p>●高齢者自身が生きがいを持って豊かな高齢期を創造できるようにするため、生きがいづくり及び活動の場づくりを支援するとともに、地域福祉を推進するリーダーを養成します。＜未来＞</p> | 推進 | | | | <p>●高齢者自身が生きがいを持って豊かな高齢期を創造できるようにするため、<u>シルバー大学校・大学院において、ニューノーマルに対応した講座を実施することにより、地域福祉を推進するリーダーを養成するとともに、新たに「アクティブシニア地域活動支援センター」を開設し、生きがいづくり及び活動の場づくりを支援します。</u>＜未来＞</p> | | | | | <p>○アクティブシニアが活躍する生涯現役社会を実現するため、令和2年度に新たに「アクティブシニア地域活動支援センター」を開設し、地域貢献活動の担い手育成と活躍の場の創出を図る。</p> <p>○シルバー大学校大学院における資格取得者数 令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により、シルバー大学校大学院が開校できず、養成している資格取得者数はゼロとなっているため、今年度予定していた資格取得者数100名を除いた数値目標に修正することとする。</p> <p>○シルバー大学校・大学院WEB講座数 令和2年度から新型コロナ対策として、(公財)とくしまあいランド推進協議会のHPIに、シルバー大学校・大学院の「Web講座」を開設したため、新たに数値目標を設定する。</p> | 未来 | |
| | | | ○生きがいづくり推進員の活動延べ人数 (’17) 2,084人→(’22) 2,700人 | | 2,000人 | 2,500人 | 2,600人 | 2,700人 | | | | | | | |
| | | | ○シルバー大学校大学院における資格取得者数 (累計) (’17) 1,363人→(’22) 1,860人 | | 1,560人 | 1,660人 | 1,760人 | 1,860人 | <p>○シルバー大学校大学院における資格取得者数 (累計) (’17) 1,363人→(’22) <u>1,800人</u></p> <p><u>○シルバー大学校・大学院Web講座数(累計) (’17) →(’22) 40講座</u></p> | 1,560人 | 1,660人 | <u>1,700人</u> | <u>1,800人</u> | | |
| 新規 | | | | | | | | | | | | <u>35講座</u> | <u>40講座</u> | | |
| 69 | 1-3-2 | 89 | <p>●高齢者のスポーツ及び文化活動の推進を図るため、関係団体と連携し、県健康福祉祭等の開催や全国健康福祉祭、関西シニアマスターズ大会等への参加を推進します。＜未来＞</p> | 推進 | | | | <p>●高齢者のスポーツ及び文化活動の推進を図るため、関係団体と連携し、<u>ニューノーマルに対応した県健康福祉祭等の開催や全国健康福祉祭、関西シニアマスターズ大会等への参加を推進します。</u>＜未来＞</p> | | | | | <p>感染予防対策を徹底した安全・安心なスポーツ及び文化交流大会等の開催が求められるため、文言を修正する。</p> | 未来 | |
| | | | ○県健康福祉祭等のスポーツ及び文化交流大会等の参加者数 (’17) 4,184人→(’22) 5,000人 | | 4,800人 | 4,870人 | 4,940人 | 5,000人 | | | | | | | |

ターゲット1 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

主要事業実施工程表（1-3 人生100年時代！健康寿命延伸へ「フレイル対策」展開）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現 行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 71 | 1-3-3 | 89 | <p>● 質の高い介護サービスを適正に提供するため、十分な研修の機会を確保することにより、介護サービス従事者の育成・確保や専門性の向上を推進します。＜保健＞</p> | 推進 | | | | <p>● 質の高い介護サービスを適正に提供するため、新型コロナウイルス感染症の発生状況を踏まえ、会場を大きい場所へ変更、研修時期をずらすなどの感染症対策を実施した上で、十分な研修の機会を確保することにより、介護サービス従事者の育成・確保や専門性の向上を推進します。＜保健＞</p> | | | | | <p>主任介護支援専門員の資質向上のため、県が実施するフォローアップ研修のほか、各地域包括支援センターにおいても研修を実施している。県のフォローアップ研修がより専門性を重視したものであるのに対し、各地域包括支援センターの研修は地域の専門職との連携促進も目的とした内容となっており、それぞれに特性を活かした研修を実施している。</p> <p>今年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により、各地域包括支援センターが主催する研修の機会が例年に比べ減少していることから、県のフォローアップ研修に一部オンラインを取り入れ、定員数を増やし、研修機会を多く提供する予定としている。</p> <p>次年度以降は、それぞれにおいて例年規模の研修を実施することを前提としつつ、新型コロナの感染の状況と地域包括支援センターの実施状況を踏まえながら、必要に応じてフォローアップ研修の規模を確保することとする。</p> | 保健 |
| | | | ○介護に関する入門的研修全課程(2課程)修了者数(累計) (’17) →(’22) 300人 | 120人 | 180人 | 240人 | 300人 | | | | | | | |
| | | | ○主任介護支援専門員フォローアップ研修受講者数(累計) (’17) 39人→(’22) 240人 | 120人 | 160人 | 200人 | 240人 | ○主任介護支援専門員フォローアップ研修受講者数(累計) (’17) 39人→(’22) 300人 | 120人 | 160人 | 260人 | 300人 | | |
| 73 | 1-3-3 | 90 | <p>● 地域における高齢者支援の充実を図るため、認知症サポーターの拡大や介護予防リーダーの活躍の場づくりを推進します。＜保健＞</p> | 推進 | | | | <p>● 地域における高齢者支援の充実を図るため、また、高齢者の地域での繋がりを維持するため、感染症対策を徹底し、認知症サポーターの拡大や介護予防リーダーの活躍の場づくりを推進します。＜保健＞</p> | | | | | <p>外出機会の減少による孤立化を防ぐために、「事業の概要」に地域での繋がりを維持するため、感染症対策をとりながら実施する旨、追記。</p> | 保健 |
| | | | ○認知症サポーター数 (’17) 75,949人→(’22) 110,000人 | 93,500人 | 99,000人 | 104,500人 | 110,000人 | | | | | | | |
| | | | ○「介護予防リーダー」が活動している「通いの場」の数(累計)(再掲) (’17) 35箇所→(’22) 140箇所 | 80箇所 | 100箇所 | 120箇所 | 140箇所 | | | | | | | |

ターゲット1 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

主要事業実施工程表（1-4 県民総自己実現！「ダイバーシティとくしま」の推進）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | |
|----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------------------|--|--------------|--------------|--------------|--|---|-------|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | |
| 81 | 1-4-2 | 92 | <p>●障がい者の働く意欲と障がい特性に応じて働ける社会づくりを推進するため、就労支援事業所の生産品の販路拡大による事業所経営への支援等により、施設利用者の工賃のアップを図ります。＜保健＞</p> <p>○施設利用者の工賃（月額） ('17) 21,465円→('22) 23,300円 （全国('17) 15,603円）</p> <p>○施設利用者の平均工賃全国順位 ('17) 全国2位→('22) 全国1位</p> | 推進 | | | | | | | | | <p>工賃実績については2年連続全国第1位(平成30年度実績、令和元年度実績)を達成し、全国トップクラスの工賃水準となっている。</p> <p>一方で、今後は新型コロナウイルスの感染拡大の影響から、各種マルシェやイベントなどの、事業所が製作した就労製品の販売機会の減少が懸念される。</p> <p>この「WITHコロナ」下においても、全国トップクラスの工賃水準を維持し、目標達成に向けてさらに工賃を向上させるため、各事業所への工賃向上に向けたフォローアップ指導を実施することにより、県内で働く障がい者の自立と社会参加の一層の向上に取り組む。</p> <p>※令和2年度(12月末)実績：16回</p> | 保健 | |
| 87 | 1-4-2 | 92 | <p>●障がい福祉サービスを充実するための人材を養成します。＜保健＞</p> <p>○サービス管理責任者研修の修了者数（累計） ('17) 2,039人→('22) 3,200人</p> <p>○相談支援従事者研修の修了者数（累計） ('17) 2,823人→('22) 4,200人</p> | 推進 | | | | | <p>●障がい福祉サービスの充実を図るため、Web等を活用した研修を開催することにより、サービスの提供に携わる人材を養成します。＜保健＞</p> | | | 20回 | 24回 | <p>新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、Web等を活用しながら研修を実施し、人材の養成を図る。</p> | 保健 |
| 89 | 1-4-2 | 93 | <p>●「発達障がい者総合支援センターハナミズキ」及び「発達障がい者総合支援センターアイリス」を拠点とし、県下全域で発達障がい者（児）とその家族が抱える「不安の軽減」及び発達障がい者の「自立と社会参加」の促進のため、医療・福祉・教育・就労の各関係機関が連携しきめ細やかな発達障がい者（児）の支援を推進します。＜保健＞</p> <p>○「発達障がい者総合支援センター」の関係機関への助言件数 ('17) 61件→('22) 年間70件</p> <p>○「発達障がい者総合支援センター」の外部機関や地域住民への研修、啓発件数 ('17) 89件→('22) 年間110件</p> | 推進 | | | | | <p>●「発達障がい者総合支援センターハナミズキ」及び「発達障がい者総合支援センターアイリス」を拠点とし、県下全域で発達障がい者（児）とその家族が抱える「不安の軽減」及び発達障がい者の「自立と社会参加」の促進のため、Web等を活用しながら医療・福祉・教育・就労の各関係機関が連携しきめ細やかな発達障がい者（児）の支援を推進します。＜保健＞</p> | | | | <p>当センターの相談・助言は多重問題のある困難事例が多く、対面を原則としている。また研修においても顔の見える関係づくりを目的としているため、一堂に会しての形を取るが、感染予防のためには、Web等を活用した形態も取り入れながら、県民の利便性を図り支援を推進する。</p> | 保健 | |
| 91 | 1-4-3 | 93 | <p>●多様な外国人材が集う徳島の実現のため、県内在住や定住を希望する外国人に対する、就労支援、労働相談窓口の設置等、きめ細かな支援体制の整備を図ります。また、大学等の高等教育機関、産業界、県が一体となって外国人留学生の受入れ拡大を図るとともに、留学生等を対象とした企業説明会・マッチングフェアを開催するなど、県内定着支援の強化を図ります。＜政策・商工＞</p> <p>○定住外国人の就労を支援する講座等における就業率 ('17) 24%*→('22) 40%以上 *過去3年平均</p> <p>○すだちくんハローワーク「外国人労働相談窓口」の設置 ('20) 設置</p> <p>○県内大学等への留学生受入数 ('17) 399人→('22) 500人</p> | 充実・実施 | | | | | <p>●多様な外国人材が集う徳島の実現のため、県内在住や定住を希望する外国人に対する、就労支援、労働相談窓口の設置等、きめ細かな支援体制の整備を図ります。また、大学等の高等教育機関、産業界、県が一体となって外国人留学生の受入れ拡大を図るとともに、留学生等を対象とした企業説明会・マッチングフェアを「ニューノーマルに対応した形式で」開催するなど、県内定着支援の強化を図ります。＜政策・商工＞</p> | | | | | <p>ニューノーマルへの対応により、「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大を防止しながら、外国人材の県内定着支援の強化を図る。</p> | 政策・商工 |

ターゲット1 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

主要事業実施工程表（1-4 県民総自己実現！「ダイバーシティとくしま」の推進）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 93 | 1-4-3 | 94 | ●相談窓口の充実、生活支援講座の開設、市町村等と連携した多言語による情報提供や、在県外国人に対する日本文化の紹介、災害時の通訳、生活相談への対応等を行う専門ボランティアの養成を行うとともに、ボランティア、支援団体、行政機関による外国人支援のためのネットワークを形成します。<未来> | 推進 | | | | ●相談窓口の充実、生活支援講座の開設、市町村等と連携した多言語による情報提供や、在県外国人に対する日本文化の紹介、災害時の通訳、生活相談への対応等を行う専門ボランティアの養成をニューノーマルに対応した形で実施するとともに、ボランティア、支援団体、行政機関による外国人支援のためのネットワークを形成します。<未来> | | | | | 新型コロナの影響により、国際イベント等の開催が減少するとともに、専門ボランティアの養成講座も開催が困難となり、ボランティアの登録周知や養成講座を見直すこととし、ニューノーマルに対応した形で実施する。 | 未来 |
| | | | ○とくしま外国人支援ボランティア登録者数 (17) 303人→(22) 390人 | 360人 | 370人 | 380人 | 390人 | | | | | | | |
| 94 | 1-4-3 | 94 | ●日本人住民の異文化理解の一層の向上を図るとともに、多様な主体による交流イベント等の開催を支援し、国際化による多文化共生を推進します。<未来> | 推進 | | | | ●日本人住民の異文化理解の一層の向上を図るとともに、多様な主体によるニューノーマルに対応した交流イベント等の開催を支援し、国際化による多文化共生を推進します。<未来> | | | | | 新型コロナの影響により、国際理解支援講師の派遣要請が減少しているため、ニューノーマルに対応した形で派遣を行う。 | 未来 |
| | | | ○国際理解支援講師派遣の件数 (17) 66件→(22) 87件 | 75件 | 79件 | 83件 | 87件 | | | | | | | |
| 96 | 1-4-3 | 94 | ●県内に住む外国人が増加するなか、地震、台風、豪雨などの災害に不慣れな外国人に対して、災害時の対処方法に関する研修会を実施し、防災に関する啓発を推進します。<未来> | 推進 | | | | ●県内に住む外国人が増加するなか、地震、台風、豪雨などの災害に不慣れな外国人に対して、災害時の対処方法に関する研修会や災害訓練をニューノーマルに対応した形で実施し、防災に関する啓発を推進します。<未来> | | | | | 新型コロナの影響により、学校等で開催している防災出前講座が減少しているため、大規模災害訓練や市町村や支援関係機関・団体等への研修会をニューノーマルに対応した形で開催する。 | 未来 |
| | | | ○外国人向け防災研修会参加人数 (17) 195人→(22) 245人 | 215人 | 225人 | 235人 | 245人 | | | | | | | |
| 97 | 1-4-3 | 94 | ●多くの県民に県政を身近に感じ、親しみを持ってもらうとともに、県民からの意見・提言等を積極的に県政に反映させるため、県庁ふれあいセンター「すだちくんテラス」の活用や、AIを活用した多言語対応の全庁的なFAQ※システムの開設により、県政情報の効果的な発信などに取り組みます。<監察> | 推進 | | | | ●多くの県民に県政を身近に感じ、親しみを持ってもらうとともに、県民からの意見・提言等を積極的に県政に反映させるため、ニューノーマルに対応した県庁ふれあいセンター「すだちくんテラス」での広聴事業の実施、AIを活用した多言語対応の全庁的なFAQ※システムの開設により、県政情報の効果的な発信などに取り組みます。<監察> | | | | | 新型コロナウイルス感染防止対策を徹底の上、実施するため。 「とくしま丸ごとAIコンシェルジュ」に名称が確定したため。 | 監察 |
| | | | ○県庁舎見学参加者数 (17) 617名→(19)～(22)年間680名以上 | 680名 | 680名 | 680名 | 680名 | | | | | | | |
| | | | ○県庁ふれあいセンター「すだちくんテラス」 展示等件数 (17) 40件→(19)～(22)年間50件以上 | 50件 | 50件 | 50件 | 50件 | | | | | | | |
| | | | ○「とくしま丸ごとAIコンシェルジュ(仮称)」の 開設 (20) 開設 | | | | | ○「とくしま丸ごとAIコンシェルジュ」の開設 (20) 開設 | | | | | | |
| 99 | 1-4-4 | 95 | ●性別や国籍、障がいの有無など、お互いの違いを理解し、認め合うことのできる「共生社会」の実現に向け、県民の人権意識の高揚を図り、国際理解・多文化共生の取組みを推進するため、各種人権啓発事業を一体的・総合的に展開します。<未来> | 推進 | | | | ●性別や国籍、障がいの有無など、お互いの違いを理解し、認め合うことのできる「共生社会」の実現に向け、県民の人権意識の高揚を図り、国際理解・多文化共生の取組みを推進するため、各種人権啓発事業を一体的・総合的にニューノーマルに対応した展開を図ります。<未来> | | | | | 新型コロナによるニューノーマルに対応するため、オンラインを活用し人権啓発事業を実施することから文言を修正する。 | 未来 |
| | | | ○「とくしま共に生きるフェスタ」の開催 (19)～(22)開催 | | | | | | | | | | | |

ターゲット1 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

主要事業実施工程表（1-4 県民総自己実現！「ダイバーシティとくしま」の推進）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | | |
|-----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|----|--|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | | |
| 100 | 1-4-4 | 95 | <p>●「徳島県人権教育推進方針」に基づき、学校教育及び社会教育において、学習者の発達段階に応じ、あらゆる機会や場を捉えて人権教育を推進するとともに、その具体実践化を図ります。また、命や心に関する作品の募集やその活用・展示を通して、県民の人権意識の高揚を図ります。 <教育></p> | 推進・実践 | | | | | <p>●「徳島県人権教育推進方針」に基づき、学校教育及び社会教育において、学習者の発達段階に応じ、あらゆる機会や場を捉えて人権教育を推進するとともに、<u>人数制限やオンラインを活用した研究発表会を実施し</u>、その具体実践化を図ります。また、命や心に関する作品の募集やその活用・展示を通して、県民の人権意識の高揚を図ります。 <教育></p> | | | | | <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、人数制限やオンラインを活用するなど、ニューノーマルに対応した形式で研究発表会を実施する。</p> | 教育 | |
| | | | ○人権教育指定研究発表会への参加校(園)の割合 (‘17) 70%→(‘22) 72% | 71% | 71% | 72% | 72% | | | | | | | | | |
| | | | ○命や心に関する作品募集の応募作品数 (‘17) 5,000点→(‘22) 5,100点 | 5,000点 | 5,000点 | 5,100点 | 5,100点 | | | | | | | | | |
| 103 | 1-4-5 | 96 | <p>●「男女共同参画交流センター」を核として、社会情勢の変化や県民ニーズを踏まえた、講演会やセミナー、出前講座を開催するなど、総合的かつ計画的に男女共同参画を進めます。 また、さらなる女性活躍推進の加速化を図るため、「徳島県男女協調週間(7/7~13)」を、「徳島県男女協調月間(7月~8月)」に拡大させ、この期間に、女性も男性も対象とした「啓発の場」として、男女共同参画啓発フェスティバルの開催など、各種啓発事業を集中的に展開するとともに、政策・方針決定過程への参画拡大等に向けた「学びの場」である「とくしまフューチャアカデミー」により、女性活躍や次世代を担う人材の育成に取り組みます。 <未来></p> | 推進 | | | | | <p>●「男女共同参画交流センター」を核として、社会情勢の変化や県民ニーズを踏まえた、講演会やセミナー、出前講座を<u>オンラインを併用して</u>開催するなど、総合的かつ計画的に男女共同参画を進めます。 また、さらなる女性活躍推進の加速化を図るため、「徳島県男女協調週間(7/7~13)」を、「徳島県男女協調月間(7月~8月)」に拡大させ、この期間に、女性も男性も対象とした「啓発の場」として、男女共同参画啓発フェスティバルの開催など、各種啓発事業を集中的に展開するとともに、政策・方針決定過程への参画拡大等に向けた「学びの場」である「とくしまフューチャアカデミー」により、女性活躍や次世代を担う人材の育成に取り組みます。 <未来></p> | | | | | <p>ニューノーマルに対応したオンライン併用により講座等を実施することから、文言を修正する。</p> | 未来 | |
| | | | ○「フレアキャンパス」受講による実践的活動への参加意欲向上度 (‘17) 72%→(‘19) ~ (‘22) 80%以上 | 80% | 80% | 80% | 80% | | | | | | | | | |
| | | | ○「とくしまフューチャアカデミー」修了者数(累計) (‘17) → (‘22) 100人 | 40人 | 60人 | 80人 | 100人 | | | | | | | | | |
| 110 | 1-4-6 | 97 | <p>●性暴力被害者のためのワンストップ支援センターである「性暴力被害者支援センター『よりそいの樹とくしま(中央・南部・西部)』」の運営について、研修等による相談員の資質向上に努めるとともに、関係機関との連携強化、支援者の養成によるすそ野拡大などにより、更なる支援体制の充実を図ります。 <未来></p> | 推進 | | | | | <p>●性暴力被害者のためのワンストップ支援センターである「性暴力被害者支援センター『よりそいの樹とくしま(中央・南部・西部)』」の運営について、研修等による相談員の資質向上に努めるとともに、関係機関との連携強化、<u>ニューノーマルに対応した</u>支援者の養成によるすそ野拡大などにより、更なる支援体制の充実を図ります。 <未来></p> | | | | | <p>ニューノーマルに対応した手法を活用しながら支援者養成研修を行うため、文言を修正する。</p> | 未来 | |
| | | | ○性暴力被害者回復支援に係る研修受講者数(累計) (‘17) → (‘22) 170人 | 80人 | 110人 | 140人 | 170人 | | | | | | | | | |

ターゲット1 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

主要事業実施工程表（1-5 次代へつなぐ！少子化対策の推進）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 111 | 1-5-1 | 98 | <p>●結婚したい独身者の希望を叶えるため、「マリッサとくしま」を拠点とし、ICTや縁結びボランティアを活用した、きめ細やかな支援を実施します。また、独身者による結婚、出産、子育て等のライフデザインの形成を支援するため、研修会を開催します。<未来></p> <p>○結婚支援拠点が管理する男女の出逢いの場等への参加者数(累計) (’17) 2,310人→(’22) 10,000人</p> <p>○婚活支援応援企業・団体登録数 (’17) 260社→(’22) 400社</p> <p>○男女の出逢いの場等におけるカップル成立数(累計) (’17) 355組→(’22) 2,000組</p> <p>○「個別相談会」の開催 (’19)～(’22) 開催</p> <p>○企業・団体間交流イベントの開催 (’19)～(’22) 開催</p> | 推進 | | | | <p>●結婚したい独身者の希望を叶えるため、「マリッサとくしま」を拠点とし、ICTや縁結びボランティアを活用した、きめ細やかな支援を実施します。また、独身者による結婚、出産、子育て等のライフデザインの形成を支援するとともに、デジタル社会に対応した「オンライン婚活」を推進します。<未来></p> | | | | | <p>自宅でも婚活が手軽にできる環境を整備するため、登録者情報の自宅閲覧やオンラインお見合い機能の導入を図る。</p> | 未来 |
| 113 | 1-5-2 | 98 | <p>●不妊のある夫婦に対する助成を継続しつつ、若い世代に対して、妊娠・出産等の正しい知識の普及啓発を行います。<保健></p> <p>○研修会の参加人数 (’17) 190人→(’22) 240人</p> | 推進 | | | | <p>●不妊治療をしている方に対する助成の継続及び制度拡大により対象となった方々への助成制度の周知・活用推進を図りつつ、若い世代に対して、妊娠・出産等の正しい知識の普及啓発を行います。<保健></p> | | | | | <p>不妊治療費助成制度の制度拡大(令和3年1月1日～)による文言の追加</p> | 保健 |
| 114 | 1-5-2 | 98 | <p>●産前・産後の妊産婦の不安感の解消を図るため「交流イベント」を開催し、相談業務を強化します。<未来></p> <p>○交流イベントの参加組数(累計) (’17) 252組→(’22) 1,360組</p> | 推進 | | | | <p>●産前・産後の妊産婦の不安感の解消を図るため「交流イベント」を開催するとともに、オンラインや電話による相談業務を強化します。<未来></p> | | | | | <p>ニューノーマルに対応した手法を活用し、相談事業の充実を図るため、文言を修正する。</p> | 未来 |
| 115 | 1-5-2 | 99 | <p>●すべての子どもに適切な保育を保障し、質の高い幼児教育を提供できる環境を整えます。<未来></p> <p>○待機児童数 (’17) 94人→(’21) ゼロ</p> <p>○認定こども園*設置数 (’17) 46箇所→(’22) 84箇所</p> <p>○子育て支援員の認定数(累計) (’17) 638人→(’22) 1,600人</p> | 推進 | | | | <p>●すべての子どもに適切な保育を保障し、質の高い幼児教育を提供できる環境を整えます。また、ニューノーマルに対応した研修により、子育て支援員の養成を図ります。<未来></p> | | | | | <p>ニューノーマルに対応した手法を活用しながら研修を行うため、文言を修正する。</p> | 未来 |
| 119 | 1-5-2 | 99 | <p>●児童福祉業務に携わる人材の育成を総合的に図ります。<未来></p> <p>○研修会受講者数 (’17) 4,276人→(’22) 5,000人</p> | 推進 | | | | <p>●オンラインを活用した研修を導入し、児童福祉業務に携わる人材の育成を総合的に図ります。<未来></p> | | | | | <p>オンライン化をはじめ、ニューノーマル対応可能なものは、手法の見直しを行う。</p> | 未来 |

ターゲット1 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

主要事業実施工程表（1-5 次代へつなく！少子化対策の推進）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|-------|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 121 | 1-5-2 | 99 | ●育児や家庭について考える機運を高めるため、子育てを支える「家族」や「地域」の大切さをアピールする「いい育児の日」(11月19日)の普及を図るとともに、親子がふれあいを深める機会づくりを進めるため、妊婦や子育て世帯が施設や店舗で優遇サービスを受けられる子育て支援パスポート事業を全国で展開します。<未来> | 推進 | | | | ●育児や家庭について考える機運を高めるため、子育てを支える「家族」や「地域」の大切さをアピールする「いい育児の日」(11月19日)の普及を図るとともに、妊婦や子育て世帯が施設や店舗で優遇サービスを受けられる子育て支援パスポート事業について、 <u>対面によらない方法で展開を図ります。</u> <未来> | | | | | 子育て支援パスポートについて、ラジオや電話など、対面によらない方法で協賛依頼を実施する。 | 未来 |
| | | | ○子育て支援パスポート事業協賛店舗数 (‘17) 1,028店舗→(‘22) 1,240店舗 | 1,150 店舗 | 1,180 店舗 | 1,210 店舗 | 1,240 店舗 | | | | | | | |
| 123 | 1-5-2 | 100 | ●地域の絆を深め、地域で支え合う環境の充実を図るため、子どもや高齢者、障がい者などが集う「ユニバーサルカフェ(多世代交流・多機能型)」の普及促進を図ります。<未来> | 推進 | | | | ●地域の絆を深め、地域で支え合う環境の充実を図るため、 <u>ニューノーマルに対応した手法を活用しながら</u> 子どもや高齢者、障がい者などが集う「ユニバーサルカフェ(多世代交流・多機能型)」の普及促進を図ります。<未来> | | | | | オンライン化や、オンラインと対面のハイブリッド方式などにより、ニューノーマル対応可能なものは、手法の見直しを行う。 | 未来 |
| | | | ○ユニバーサルカフェ(多世代交流・多機能型)認定箇所数(累計) (‘17) 9箇所→(‘22) 20箇所 | 14箇所 | 16箇所 | 18箇所 | 20箇所 | | | | | | | |
| | | | ○子どもの未来応援コーディネーター [※] 養成研修終了者数(累計) (‘17) 20人→(‘22) 110人 | 80人 | 90人 | 100人 | 110人 | | | | | | | |
| 125 | 1-5-2 | 100 | ●小児医療電話相談事業(＃8000)の利用促進のための周知を図り、活用していただくことで、保護者が安心して子育てができる環境整備を図ります。<保健> | 推進 | | | | ●小児医療電話相談事業(＃8000) <u>と他の電話相談との連携を図りつつ</u> 、利用促進のための周知を図り、活用していただくことで、保護者が安心して子育てができる環境整備を図ります。<保健> | | | | | 令和元年12月から開始した徳島県救急医療電話相談(＃7119)や、新型コロナウイルス感染症の受診・相談センターへの案内を相互に行うことで、相談業務のより円滑な運営を行う。目標については、感染症対策の徹底による小児患者の減少により、相談減数が減少しているが、一時的なものと考えられるため修正は行わない。 | 保健 |
| | | | ○＃8000の相談実績 (‘17) 9,990件→(‘22) 11,300件 | 11,000 件 | 11,100 件 | 11,200 件 | 11,300 件 | | | | | | | |
| 129 | 1-5-3 | 100 | ●生まれ育った家庭の経済的な事情により進学を諦めたり、不安定な就労を余儀なくされたり、貧しい生活から抜け出せないという「貧困の連鎖」を断ち切り、次代を担う全ての子どもが、将来に夢と希望を持って成長できるよう、ひとり親家庭等に対する支援を充実させ、子どもの貧困対策を推進します。<未来・教育> | 推進 | | | | ●生まれ育った家庭の経済的な事情により進学を諦めたり、不安定な就労を余儀なくされたり、貧しい生活から抜け出せないという「貧困の連鎖」を断ち切り、次代を担う全ての子どもが、将来に夢と希望を持って成長できるよう、ひとり親家庭等に対する支援を充実させ、 <u>ニューノーマルに対応した手法を活用し</u> 、子どもの貧困対策を推進します。<未来・教育> | | | | | オンライン化や、オンラインと対面のハイブリッド方式などにより、ニューノーマル対応可能なものは、手法の見直しを行う。 | 未来・教育 |
| | | | ○「母子・父子自立支援プログラム」を活用した就職率 (‘17) 56%→(‘19) ~ (‘22) 56%以上 | 56% | 56% | 56% | 56% | | | | | | | |
| | | | ○子どもの未来応援コーディネーター養成研修終了者数(累計)(再掲) (‘17) 20人→(‘22) 110人 | 80人 | 90人 | 100人 | 110人 | | | | | | | |
| | | | ○ホームフレンド [※] 派遣回数 (‘17) 53回→(‘22) 100回 | 60回 | 70回 | 85回 | 100回 | | | | | | | |
| | | | ○スクールソーシャルワーカー配置数 (‘17) 22人→(‘22) 24人 | 23人 | 23人 | 24人 | 24人 | | | | | | | |

ターゲット1 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

主要事業実施工程表（1-5 次代へつなく！少子化対策の推進）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | |
|-----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|----|--|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | |
| 130 | 1-5-3 | 101 | <ul style="list-style-type: none"> ●児童相談所職員の専門的技術を高めるため、特に重要なスキルである家族面接技術、ケースマネジメント技術等に特化した研修を行うとともに、児童虐待予防のための保護者支援の取組みを強化します。＜未来＞ | 推進 | | | | | | | | | | | |
| | | | ○研修受講者数(累計) (’17) 37人→(’22) 180人 | 90人 | 120人 | 150人 | 180人 | ○研修受講者数(累計) (’17) 37人→(’22) 250人 | 90人 | 120人 | 220人 | 250人 | 令和2年度の実績見込みが目標値を大きく上回ると推計されるため、成果・効果の更なる向上を目指し、専門研修の研修受講者数(累計)の数値目標について上方修正する。 | 未来 | |
| | | | ○保護者支援講座等の実施回数 (’17) 2回→(’19)～(’22) 年間15回 | 15回 | 15回 | 15回 | 15回 | | | | | | | | |
| 133 | 1-5-3 | 101 | <ul style="list-style-type: none"> ●様々な困難を抱える子ども・若者やその家族を支援するため、地域における支援者を養成し、関係機関相互の連携を促進します。＜未来＞ | 推進 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ●様々な困難を抱える子ども・若者やその家族を支援するため、相談機能を充実させるとともに、地域における支援者を養成し、関係機関相互の連携を促進します。＜未来＞ | | | | | 子どもや若者の幅広い分野にまたがる問題に対応するため、現在整備中の「女性活躍ワンストップセンター(仮称)」に、適切な相談機関の紹介、その他の必要な情報の提供・助言を行う「子ども・若者相談窓口」を設置することにより、相談体制を強化する。 | 未来 | |
| | | | ○地域協議会及び支援者養成講習参加者数 (’17) 211人→(’19)～(’22) 250人 | 250人 | 250人 | 250人 | 250人 | | | | | | | | |

ターゲット2 「強靱とくしま・安全安心」の実装

主要事業実施工程表 (2-1 未知なる災害を迎え撃つ! 「事前復興」の推進)

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|---|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 135 | 2-1-1 | 104 | ● 消防学校・防災センター・南部防災館・西部防災館について、県庁災害対策本部の補完、支援物資の集配など、災害対策拠点としての機能の充実を図ります。また、防災センターにおける啓発及び地震体験車を活用した移動防災センターを通じて、県民の防災意識の向上を図ります。 <危機> | 推進 | | | | ● 消防学校・防災センター・南部防災館・西部防災館について、県庁災害対策本部の補完、支援物資の集配など、災害対策拠点としての機能の充実を図ります。また、防災センターにおける啓発及び地震体験車を活用した移動防災センターを通じて、県民の防災意識の向上を図るとともに、「インターネットを活用したパネル展」及び地域へ出向いて開催する「移動パネル展」に取り組み、ニューノーマルに対応した防災啓発を推進します。<危機> | | | | | 新型コロナウイルス感染症拡大の影響でセンター来館者が減少したこと等により、目標数を修正するとともに、インターネットを活用したパネル展や、南部や西部圏域においても移動パネル展を実施することで、防災啓発の充実を図る。 | 危機 |
| | | | ○防災センター利用者数(移動防災センター含む) (17) 53,217人→(19) ~ (22) 年間50,000人以上 | 5万人 | 5万人 | 5万人 | 5万人 | ○防災センター利用者数(移動防災センター含む) (17) 53,217人→(22) 50,000人以上 | 5万人 | 5万人 | 2万人 | 5万人 | | |
| 新規 | | | | | | | ○インターネットパネル展及び移動パネル展実施回数 (17) → (21) ~ (22) 年間15回以上 | | | 15回 | 15回 | | | |
| 新規 | 2-1-1 | 104 | | | | | ● マリンピア沖洲「旧印刷センター」について、災害時に全国からの支援物資を中継する「広域物資輸送拠点」を前提として、平時も県民が気軽に利用できる施設として改修します。<危機> | | 推進 | | | | 徳島新聞社から譲渡を受けた「旧印刷センター」について、災害時の防災拠点機能に加え、平時の利用を考慮した施設として改修を行うため。 | 危機 |
| | | | | | | | ○「広域物資輸送拠点」の整備 (21)整備・(22)供用 | | | | | | | |
| 新規 | 2-1-1 | | | | | | ● 災害時の警報等防災情報はもとより、平常時にも防災啓発情報等を提供する「とくしまゼロ作戦LINE公式アカウント」を開設し、県民の迅速な避難行動等に繋げ、安全・安心の確保を図ります。<危機> | | 推進 | | | | 災害時に必要な情報をしっかりと県民へ届けるため、新たに普段使いのLINEで防災情報を簡単に入手できる環境を整える。 | 危機 |
| | | | | | | | ○とくしまゼロ作戦LINE公式アカウントの開設 (21)開設 | | | | | | | |
| 160 | 2-1-2 | 108 | ● 県消防操法大会において、実践に即した水出し操法を実施するなど、市町村と連携して、県下の消防団員の技術力、迅速・的確な行動、規律、士気の向上を図ります。<危機> | 推進 | | | | | | | | | 「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大防止の観点から、主催者において大会の延期が決定された。 | 危機 |
| | | | ○消防操法大会の実施(隔年) (20) (22) 実施 | | | | | ○消防操法大会の実施(隔年) (21) 実施 (23) 実施 | | | | | | |
| 161 | 2-1-2 | 108 | ● 女性消防団員の活動の活性化を図るため、広報・研修を実施するとともに、「全国女性消防団員活性化徳島大会」を誘致するなど、消防団活動における女性の活躍推進を図ります。<危機> | 誘致 | 開催 | 推進 | | | | | | | 「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大防止の観点から、主催者において大会の延期が決定された。 | 危機 |
| | | | ○全国大会の開催 (20) 開催 | | | | | ○全国大会の開催 (21) 開催 | | | | | | |
| 163 | 2-1-2 | 108 | ● 津波や活断層地震などによるあらゆる被害を想定し、復興課題を把握するとともに「平時のまちづくり」と「復興まちづくり」を行える人材を各自治体に育成するため、「復興まちづくりイメージトレーニング」等を実施します。 <県土> | 推進 | | | | ● 津波や活断層地震などによるあらゆる被害を想定し、復興課題を把握するとともに「平時のまちづくり」と「復興まちづくり」を行える人材を各自治体に育成するため、「復興まちづくりイメージトレーニング」等をオンラインの活用を図りながら実施します。 <県土> | | | | | 新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、イメージトレーニング実施前の講演会など、オンラインの活用を図りながら参加を促す。 | 県土 |
| | | | ○「復興イメージトレーニング」等の参加者数(累計) (17) 118人→(22) 500人以上 | 240人 | 300人 | 400人 | 500人 | | | | | | | |

ターゲット2 「強靱とくしま・安全安心」の実装

主要事業実施工程表（2-1 未知なる災害を迎え撃つ！「事前復興」の推進）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | | | | |
|-----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|---|------|------|------|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | | | | |
| 164 | 2-1-2 | 108 | ● 県南部圏域における次世代の防災活動の担い手を育成するため、南部防災館と連携し、管内の学校等への防災出前講座を行い、防災教育を推進します。<南部> | 推進 | | | | ● 県南部圏域における次世代の防災活動の担い手を育成するため、南部防災館と連携し、管内の学校等で防災出前講座を開催するとともに、「家庭で学べる防災」の展開、防災関係動画の発信など、場所や時間にとらわれない啓発に積極的に取り組み、ニューノーマルに対応した防災教育を推進します。<南部> | | | | | 「家庭で学べる防災」の展開、場所や時間等の制約がない防災関係動画の発信など、新たな防災啓発を推進するために変更を行った。 | 南部 | | | | |
| | | | ○小・中・高校生を対象にした防災講座等実施回数 (‘17) 34回→(‘19)～(‘22) 年間40回以上 | 40回 | 40回 | 40回 | 40回 | | | | | | | | | | | |
| 165 | 2-1-2 | 108 | ● 「防災・健康」のリバーシブルな役割を担う西部健康防災公園を「広域防災・後方支援の拠点」とするため、関係機関と連携した図上訓練や、西部防災館における地域住民を対象とした防災や健康に関する講座を開催するなど、公園の利活用拡大を図ります。<西部> | 推進 | | | | ● 「防災・健康」のリバーシブルな役割を担う西部健康防災公園を「広域防災・後方支援の拠点」とするため、関係機関と連携した図上訓練や、オンライン等を活用し、西部防災館における地域住民を対象とした防災や健康に関する講座を開催するなど、公園の利活用拡大を図ります。<西部> | | | | | 「防災」の講座については、3密を避けるとともに、多くの人が参加しやすくなるため、「サテライト会場」の設定や「Web活用による配信」なども併用してさらなる利用促進を図る。 | 西部 | | | | |
| | | | ○「防災」及び「健康増進」講座の実施回数(再掲) (‘17) →(‘19)～(‘22) 年間45回以上 | 45回 | 45回 | 45回 | 45回 | ○オンライン等を活用した「防災」及び「健康増進」講座の実施回数(再掲) (‘17) →(‘19)～(‘22) 年間45回以上 | | | | | これまで実施してきた陸上自衛隊等の現地訓練(南海レスキュー、漕舟訓練)等の調整や支援に加え、新たな課題に対応した訓練にも取り組むため、上方修正する。 | | | | | |
| | | | ○西部健康防災公園を活用した物流・広域支援の現地訓練の実施回数 (‘17) →(‘19)～(‘22) 年間1回以上 | 1回 | 1回 | 1回 | 1回 | ○西部健康防災公園を活用した物流・広域支援の現地訓練の実施回数 (‘17) →(‘21)～(‘22) 年間2回以上 | | | 2回 | 2回 | | | | | | |
| 167 | 2-1-2 | 109 | ● 二次災害を軽減・防止し、住民の安全の確保を図るため、被災した建築物について、危険度判定を実施する被災建築物応急危険度判定士を育成し、発災時の判定業務を円滑に行えるよう、判定訓練などを実施します。<県土> | 推進 | | | | ○被災建築物応急危険度判定士(確保人数) (‘17) 542人→(‘22) 740人 | 680人 | 700人 | 720人 | 740人 | ○被災建築物応急危険度判定士(確保人数) (‘17) 542人→(‘22) 820人 | 680人 | 700人 | 815人 | 820人 | 県土 |
| 168 | 2-1-2 | 109 | ● 市町村が実施する自主防災組織の結成促進と活動活性化の支援、避難所運営リーダーの養成、県民の「防災意識」の向上を目的とした防災出前講座の開催など、地域防災力の強化促進を図ります。<危機> | 推進 | | | | ● 市町村が実施する自主防災組織の結成促進と活動活性化の支援、避難所運営リーダーの養成、県民の「防災意識」の向上を目的とした防災出前講座の開催に加え、オンライン受講を取り入れた防災講座の開催により、地域防災力の強化促進を図ります。<危機> | | | | | | 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で防災出前講座の実施件数が減少したことにより、目標数を修正するとともに、新たにオンライン防災講座を実施することで、受講機会の充実を図る。 | 危機 | | | |
| | | | ○「快適避難所運営リーダーカード」 交付者数(累計) (‘17) 224人→(‘22) 370人 | 280人 | 310人 | 340人 | 370人 | | | | | | | | | | | |
| | | | ○防災出前講座受講者数 (‘17) 26,384人* →(‘19)～(‘22) 年間25,000人以上 *過去3年平均 | 25,000人 | 25,000人 | 25,000人 | 25,000人 | ○防災出前講座受講者数 (‘17) 26,384人*→(‘22) 25,000人以上 *過去3年平均 | 25,000人 | 25,000人 | 16,000人 | 25,000人 | | | | | | |
| 新規 | | | | | | | | ○オンライン防災講座実施回数 (‘17) →(‘22) 5回以上 | | | 3回 | 5回 | | | | | | |
| | | | ○「防災啓発サポーター」活動回数 (‘17) 年間5回→(‘19)～(‘22) 年間5回 | 5回 | 5回 | 5回 | 5回 | | | | | | | | | | | |
| 新規 | 2-1-2 | | | | | | | ● 「平常時(いつも)の延長が災害時(もしも)も活かされる」という「フェーズフリー」の概念による取組を推進し、「県民防災力の強化」に繋がります。<危機> | | | | | 推進 | 従来の防災対策に加え、防災を「特別なモノ」と考えない普段づかいによる「フェーズフリー」の取組みを推進することで、県民防災力の更なる強化を図る。 | 危機 | | | |
| | | | | | | | | ○「e-防災ゲーム」コンテストの開催 (‘21)開催 | | | | | | | | | | |

ターゲット2 「強靱とくしま・安全安心」の実装

主要事業実施工程表 (2-1 未知なる災害を迎え撃つ! 「事前復興」の推進)

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | |
|-----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|---|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | |
| 173 | 2-1-2 | 109 | ● 災害発生時のボランティア活動は極めて重要であることから、関係機関と連携して、災害ボランティアに対する啓発の実施や、ボランティアの力が効果的に発揮されるよう活動環境の整備を促進します。<危機・保健> | 推進 | | | | ● 災害発生時のボランティア活動は極めて重要であることから、関係機関と連携して、災害ボランティアに対する啓発の実施や、 複合災害時においても 、ボランティアの力が効果的に発揮されるよう活動環境の整備を促進します。<危機・保健> | | | | | 新型コロナウイルス感染症と自然災害の複合災害発生時においても、ボランティアの方が安心して活動できるよう、PCR検査等の体制なども整備していく。 | 危機・保健 | |
| 176 | 2-1-3 | 110 | ● 災害派遣医療チーム(DMAT)、災害派遣精神医療チーム(DPAT)の養成や資質向上、要配慮者への支援の充実を図るとともに、病院BCPの策定を支援し、更なる災害医療体制の向上を図ります。<保健> | 推進 | | | | ● 災害派遣医療チーム(DMAT)、災害派遣精神医療チーム(DPAT)の養成や 自然災害と感染症との複合災害への対応を含む 資質向上、要配慮者への支援の充実を図るとともに、病院BCPの策定を支援し、更なる災害医療体制の向上を図ります。<保健> | | | | | DMATチーム数の確保と同時に、自然災害と感染症が同時に発生した場合の対応等も含め、資質の向上に努める。また、精神科医療機関における新型コロナウイルス感染症クラスター発生に備え、オンラインも活用し、実践的な内容について研修を実施することで、隊員の新型コロナウイルス感染症への対応力を向上させることにより、災害や事故に加え、感染症による危機にも対応できるよう、「DPAT」の即戦力をより高める。 | 保健 | |
| | | | ○DMATの体制整備 (17) 28チーム→(22) 32チーム | 29チーム | 30チーム | 31チーム | 32チーム | | | | | | | | |
| | | | ○「DPAT」(災害派遣精神医療チーム)の資質向上のための研修会の開催 (17) 2回→(19)~(22) 2回以上 | 2回 | 2回 | 2回 | 2回 | | | | | | | | |
| | | | ○BCP策定病院数 (17) 20病院→(22) 40病院 | 25病院 | 30病院 | 35病院 | 40病院 | | | | | | | | |
| 178 | 2-1-3 | 110 | ● 大規模災害時に迅速かつ適切に医薬品が供給できるよう、「災害時おくり供給車両 [※] 」の導入や各災害医療圏域に「災害リーダー薬局 [※] 」を設置し、医薬品供給調整体制の整備を促進します。<保健> | 促進 | | | | ● 大規模災害時に迅速かつ適切に医薬品が供給できるよう、「災害時おくり供給車両 [※] 」の導入や各災害医療圏域に「災害リーダー薬局 [※] 」を設置するとともに、 訓練や研修への参加・活用により、更なる医薬品供給調整体制の向上を図ります。 <保健> | 促進 | | | | | 「災害時おくり供給車両」の導入、各災害医療圏域における「災害リーダー薬局」の設置は、令和元年度に目標を達成したことから、その後の活用・推進について新たに目標を設定する。 | 保健 |
| | | | ○災害リーダー薬局の認定数(累計) (17) →(19) 20薬局 | 20薬局 | | | | | | | | | | | |
| 新規 | | | | | | | | ○災害リーダー薬局の資質向上のための研修・訓練の実施回数 (21)~(22)年間1回以上 | | | | 1回以上 | 1回以上 | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 新規 | | | | | | | | ○「災害時おくり供給車両」の研修・訓練での活用 (21)~(22)年間2回以上 | | | | 2回以上 | 2回以上 | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 新規 | 2-1-4 | 111 | | | | | | ● 「大規模災害」と「新型コロナ」の複合災害に備えるため、サブ避難所の確保やホテル・旅館の活用等「分散避難」を推進するとともに、避難所の3密を回避するため、 段ボールベッドやパーティション等の資機材を整備するなど、市町村と連携し、避難所における感染症対策を推進します。 また、災害時の「車避難(車中泊)」の在り方について検討し、「分散避難」につなげます。 <危機> | 推進 | | | | | ● 県政運営評価戦略会議において、「災害対策に『新しい生活様式』を踏まえた対応策を取り入れる」とのご提言をいただいております。新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中、大規模災害が発生した場合、避難所でのクラスターによる爆発的な感染拡大を防ぐため、避難所における感染防止対策を推進する。 | 危機 |
| | | | | | | | | ○サブ避難所の確保に着手した市町村数 (17) →(21) 19市町村 | | | | 19市町村 | | | |
| | | | | | | | | ○「災害時の『車避難(車中泊)』対応方針(仮称)」の策定 (21) 策定 | | | | | | | |

ターゲット2 「強靱とくしま・安全安心」の実装

主要事業実施工程表 (2-1 未知なる災害を迎え撃つ! 「事前復興」の推進)

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現 行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|-----------|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 181 | 2-1-4 | 111 | <p>●大規模災害時に、高齢者や障がい者等の要配慮者が、安心して避難生活を送るため、市町村における福祉施設、宿泊施設、公共施設の「福祉避難所」への指定や円滑な運営体制の整備を支援します。〈保健・商工〉</p> <p>○「福祉避難所」指定施設数 (17) 167施設→(22) 250施設</p> | 推進 | | | | <p>●大規模災害時に、高齢者や障がい者等の要配慮者が、安心して避難生活を送るため、市町村における福祉施設、宿泊施設、公共施設の「福祉避難所」への指定や円滑な運営体制の整備、感染症対策の強化を支援します。〈保健・商工〉</p> <p>○「福祉避難所」指定施設数 (17) 167施設→(22) 250施設</p> | | | | | 徳島県福祉避難所運営マニュアル作成指針～新型コロナウイルス感染症対策編～等を活用し、福祉避難所における感染症対策をさらに強化していく。 | 保健・ 商工 |
| 185 | 2-1-5 | 111 | <p>●地域防災力の向上を目指し、災害時の切り札となる自然エネルギーを活用した「自立・分散型電源」導入支援制度を創設します。〈危機〉</p> <p>○「自立・分散型電源」導入支援制度の創設 (19) 創設</p> | 推進 | | | | | | | | | 「自立・分散型電源」導入支援制度を引き続き実施し、災害に強い電力レジリエンスの向上に向けた事業者等の取組を支援する | 危機 |
| 新規 | | | | | | | | <p>○「自立・分散型電源」導入支援制度の取組支援数 (累計) (17) → (22) 15件</p> | | | 10件 | 15件 | | |
| 186 | 2-1-5 | 111 | <p>●地球温暖化対策や平時における電力の地産地消の推進、さらには災害時の非常電源として活用が期待できる水力発電の普及を図るため、溪流に設置可能なピコ水力発電機の実証実験や、先導的モデルとなる小水力発電所の整備に取り組みます。 これらの取組みや実験データを公表することによって、自然エネルギーの普及促進を図ります。〈企業〉</p> <p>○自立・分散型エネルギーの普及拡大 (19) ～(22) 小水力発電所の整備・運用</p> <p>○自然エネルギー地産地消モデルの普及促進 (19) ～(21) ピコ水力発電機の実証実験(2箇所)・ (22) 説明会の実施</p> <p>○自然エネルギー導入促進のための技術支援 (19) ～(22) 相談窓口による支援</p> | 推進 | | | | <p>●地球温暖化対策や平時における電力の地産地消の推進、さらには災害時の非常電源として活用が期待できる水力発電の普及を図るため、溪流に設置可能なピコ水力発電機の実証実験や、産学官の連携等により、先導的モデルとなる小水力発電の導入支援に積極的に取り組みます。 これらの取組みや実験データを公表することによって、自然エネルギーの普及促進を図ります。〈企業〉</p> <p>○自立・分散型エネルギーの普及拡大 (21) ～(22) 小水力発電の導入支援</p> | | | | | <p>・県政運営評価戦略会議において、「小水力発電については、引き続き施策を推進してもらいたい」との提言を受け、関連事業において、小水力発電導入の推進を図る。</p> <p>・小水力発電の導入を図るためには、地域における理解や協力、普及のための技術的・コスト的な課題解決が不可欠であり、地元自治体等の積極的な関わりや大学、民間企業等による地域に根ざした開発が必要であるため、企業局の持つ技術、知識、経営手法を最大限活用した導入支援により、産学官の連携等による先導的モデル構築を目指す。</p> | 企業 |

ターゲット2 「強靱とくしま・安全安心」の実装

主要事業実施工程表（2-2 国土強靱化を牽引！「災害列島」から「安全安心列島」へ）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | |
|-----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--|-----------|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | |
| 192 | 2-2-1 | 113 | <ul style="list-style-type: none"> 工法の見直しやコスト縮減を図り、救命救急や防災活動等を支援する緊急輸送道路などのインフラ整備を推進します。<農林・県土> | 推進 | | | | | | | | | | 海部郡北部の耐震強化岸壁の空白地帯を解消し、大規模災害発生時の緊急物資輸送拠点を確保するため、新たな目標を追加する。 | 農林・ 県土 |
| | | | ○海岸・河川堤防等の地震・津波対策の実施箇所数(累計) (17) 19箇所→(22) 27箇所(全59箇所中) | 23箇所 | 25箇所 | 26箇所 | 27箇所 | | | | | | | | |
| | | | ○河川水門の耐震化実施箇所数(累計) (17) 8箇所→(21) 13箇所 | 11箇所 | 12箇所 | 13箇所 | | | | | | | | | |
| | | | ○水門・樋門等の自動化・閉鎖率 (17) 45%→(22) 50% | 47% | 48% | 49% | 50% | | | | | | | | |
| | | | ○緊急輸送道路における重点整備区間(35箇所)の改良率 (17) 65%→(22) 75% | 66% | 67% | 68% | 75% | | | | | | | | |
| | | | ○緊急輸送道路における斜面対策の実施箇所数(累計) (17) 167箇所→(22) 183箇所 | 168箇所 | 173箇所 | 178箇所 | 183箇所 | | | | | | | | |
| | | | ○緊急輸送道路等における橋梁(15m以上)の耐震化率 (17) 85%→(22) 90% | 87% | 88% | 89% | 90% | | | | | | | | |
| | | | ○緊急輸送道路を補完する農林道の整備延長(累計) (17) 24km→(22) 29km | 26km | 27km | 28km | 29km | | | | | | | | |
| 新規 | | | | | | | | ○日和佐港(恵比須浜)の岸壁耐震化の推進 (17) →(22) 工事推進中 | | | | | | | |
| 204 | 2-2-2 | 115 | <ul style="list-style-type: none"> 近畿及び四国内の交流基盤となる四国横断自動車道(徳島JCT~阿南間)の整備を促進します。<県土> | 促進 | | | | | | | | | | インターチェンジの正式な名称が決定したため、修正する。 | 県土 |
| | | | ○四国横断自動車道(徳島JCT~徳島東間)の整備 (17) 工事促進中→(21) 供用 | | | | | ○四国横断自動車道(徳島JCT~徳島沖洲間)の整備 (17) 工事促進中→(21) 供用 | | | | | | | |
| | | | ○四国横断自動車道(徳島東~阿南間)の整備 (17) 工事施工中→(22) 工事促進中 (20) 部分供用 徳島東~津田間) | | | | | ○四国横断自動車道(徳島沖洲~阿南間)の整備 (17) 工事施工中→(22) 工事促進中 (20) 部分供用 徳島沖洲~徳島津田間) | | | | | | | |

ターゲット2 「強靱とくしま・安全安心」の実装

主要事業実施工程表（2-2 国土強靱化を牽引！「災害列島」から「安全安心列島」へ）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現 行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|---|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | |
| 205 | 2-2-2 | 115 | <p>● 高速道路ネットワークの機能強化を図るため、津田地区及び立江・檜洲地区への追加IC、阿南IC追加ランプを設置するとともに、徳島自動車道における暫定二車線区間の4車線化など、道路を賢く使う取組みを推進します。<県土></p> | 推進 | | | | | | | | | | <p>○津田地区への追加IC設置 徳島津田ICにおいて、南向きランプ(阿南方面)の連結許可をR2年10月に取得したため、新たな目標を追加する。</p> <p>○徳島自動車道(土成IC～脇町IC 延長7.7km)の付加車線設置 徳島自動車道において、「土成IC～脇町IC間」の7.7kmの付加車線設置が事業許可されたため、新たな目標を追加する。</p> | 県土 |
| 新規 | | | ○津田地区への追加IC設置 (17) 工事施工中→(20) 設置 | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○阿南ICへの追加ランプ設置 (17) 調査設計中→(22) 工事推進中 | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○立江・檜洲地区への追加IC設置 (17) 調査設計中→(22) 工事推進中 | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○徳島自動車道(阿波PA付近 延長7.5km)の付加車線設置 (17) 工事促進中→(20) 供用 | | | | | | | | | | | | |
| 新規 | | | ○徳島自動車道(脇町IC～美馬IC 延長4.8km)の付加車線設置 (17) →(19) 事業着手・(22) 工事促進中 | | | | | | | | | | | | |
| 214 | 2-2-3 | 117 | <p>● 気候変動に伴う水害の頻発・激甚化に対して、住民の避難行動を促し、人的被害をなくすため、分かりやすい水位・映像情報の発信や洪水浸水想定区域・洪水タイムライン・ファミリータイムラインの周知を推進します。<県土></p> | 推進 | | | | | | | | | | <p>○河川監視カメラの整備(累計) 県政運営評価戦略会議にて採択された意見を踏まえ、「逃げ遅れ・ゼロ」実現に向け、「リアルタイムで切迫感」のある映像を提供する「河川監視カメラ」の整備について、新たに目標値を設定することし、洪水による被害軽減の取組みを推進する。</p> <p>○アンダーパスや潜水橋の冠水対策(累計) 豪雨時における通行車両の安全・安心を確保するため、潜水橋や吉野川アンダーパスへの監視カメラの設置といった安全対策を、その他のアンダーパスにも拡大し、これらの箇所を計画に位置づけ、積極的に冠水対策を推進する。</p> | 県土 |
| | | | ○危機管理型水位計の整備(累計) (17) →(20) 50箇所 | 30箇所 | 50箇所 | | | | | | | | | | |
| | | | ○洪水浸水想定区域図の作成 (17) →(19) 16河川 | 16河川 | | | | | | | | | | | |
| | | | ○洪水タイムラインの作成 (17) 1河川→(19) 16河川 | 16河川 | | | | | | | | | | | |
| | | | ○ファミリータイムラインの作成(累計) (17) →(22) 7地区 | 1地区 | 3地区 | 5地区 | 7地区 | | | | | | | | |
| 新規 | | | | | | | | | | | 18箇所 | 28箇所 | | | |
| 新規 | | | | | | | | | | | 9箇所 | 22箇所 | | | |

ターゲット2 「強靱とくしま・安全安心」の実装

主要事業実施工程表（2-2 国土強靱化を牽引！「災害列島」から「安全安心列島」へ）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|-----------|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 215 | 2-2-3 | 118 | <ul style="list-style-type: none"> ●「徳島県治水及び利水等流域における水管理条例」に基づき、流域における水管理を総合的かつ計画的に推進するため、2018年度策定の県下全域を対象とする「とくしま流域水管理計画」に続き、流域単位で「流域水管理行動計画」を策定し、計画的な施策の推進を図ります。<県土> | 推進 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ●「徳島県治水及び利水等流域における水管理条例」に基づき、流域における水管理を総合的かつ計画的に推進するため、2018年度策定の県下全域を対象とする「とくしま流域水管理計画」に続き、流域単位で「流域水管理行動計画」を策定し、オンラインなどを活用した計画的な施策の推進を図ります。<県土> | | | | | ○オンライン活用による水教育の普及に関する講座の開催数(累計) アフターコロナを見据え、オンライン活用による水教育の普及に関する講座の開催数について、新たに数値目標を設定し、新たなツールを通じた水管理に関する理解や関心の醸成に取り組む。 | 県土 |
| | | | ○「流域水管理行動計画」の策定('22)策定(2流域水管理行動計画) | | | | | | | | | | | |
| | | | ○「徳島県水防の日」関連行事の実施回数('17)2回→('19)~('22)年間10回以上 | 10回 | 10回 | 10回 | 10回 | | | | | | | |
| | | | ○利水サポート団体の認定数(累計)('17)5団体→('22)15団体 | 9団体 | 11団体 | 13団体 | 15団体 | | | | | | | |
| | | | ○水に関する出前講座・交流体験等への参加者数('17)694人→('19)~('22)年間800人以上 | 800人 | 800人 | 800人 | 800人 | | | | | | | |
| 新規 | | | | | | | | ○オンライン活用による水教育の普及に関する講座の開催数(累計)('17)二→('22)4回 | | | 2回 | 4回 | | |
| 225 | 2-2-4 | 119 | <ul style="list-style-type: none"> ●道路・河川施設をはじめとする、社会インフラの老朽化に備え、必要な機能を維持しつつ、将来の改良・更新コストを抑制するため、長寿命化計画に基づく老朽化対策を推進します。<農林・県土> | 推進 | | | | | | | | | 令和2年度の実績見込みが目標値を大きく上回ると推計されるため、成果・効果の更なる向上を目指し、老朽化対策に着手した施設数の目標数値について上方修正する。 | 農林・ 県土 |
| | | | ○老朽化対策に着手した施設数(橋梁、トンネル、排水機場、都市公園、港湾施設、漁港施設等)(累計)('17)384施設→('22)495施設 | 411施設 | 452施設 | 473施設 | 495施設 | ○老朽化対策に着手した施設数(橋梁、トンネル、排水機場、都市公園、港湾施設、漁港施設等)(累計)('17)384施設→('22)511施設 | 411施設 | 452施設 | 484施設 | 511施設 | | |

ターゲット2 「強靱とくしま・安全安心」の実装

主要事業実施工程表（2-3「命」と「健康」を守る！地域医療提供体制の充実強化）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|-------|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 233 | 2-3-1 | 121 | ● 団塊の世代が後期高齢者となり、医療や介護の需要が大幅に増加すると見込まれる2025年に向けて、さらなる在宅医療を推進するため、看護師、薬剤師等の医療従事者の質の向上を図ります。＜保健＞ | 推進 | | | | ● 団塊の世代が後期高齢者となり、医療や介護の需要が大幅に増加すると見込まれる2025年に向けて、さらなる在宅医療を推進するため、 オンライン研修も含めた感染防止対策も取り入れながら 看護師、薬剤師等の医療従事者の質の向上を図ります。＜保健＞ | | | | | 看護師の特定行為研修の受講については、県外での研修参加が困難な例もあるが、オンラインによる研修を取り入れるとともに、実習にあたっては十分な感染防止対策に努めながら実施する。 | 保健 |
| | | | ○特定行為研修を修了した看護師数(累計) (17) 11人→(22) 34人 | 19人 | 24人 | 29人 | 34人 | | | | | | がん、緩和医療を担う実践力のある薬剤師の養成については、在宅訪問現場で実地研修を行うことから、オンラインになじまないため、感染防止対策に十分留意しながら、引き続き人材育成に取り組む。 | |
| | | | ○在宅医療でのがん、緩和医療を担う薬剤師数(累計) (17) →(22) 80人 | 20人 | 40人 | 60人 | 80人 | | | | | | | |
| 235 | 2-3-1 | 122 | ● 少子高齢化が進むことから、血液製剤の安定供給の確保を図るため、これからの献血を支えていく若年層に対し、献血思想の普及を図ります。また、若年層に向けた各種啓発を実施し、献血者の増加を図ります。＜保健＞ | 支援 | | | | ● 少子高齢化が進むことから、血液製剤の安定供給の確保を図るため、これからの献血を支えていく若年層に対し、献血思想の普及を図ります。また、若年層への 献血セミナーやインターネット等を利用した 各種啓発を実施し、献血者の増加を図ります。＜保健＞ | 支援 | | | | 新型コロナの影響による献血セミナー参加者数の減少等により、高校生の献血率が大幅に減少する見込みである。今後は、献血推進動画(R2年度作成)を利用した中学生へのインターネットによる啓発活動の実施により、中学生に対する献血の必要性についての意識を高め、献血可能年齢となる高校生の献血希望者数の向上を図る。 | 保健 |
| | | | ○高校生の献血率 (17) 2.5%→(22) 2.9% | 2.6% | 2.7% | 2.8% | 2.9% | ○献血推進動画の視聴回数 (17) →(22) 3,500回 | | | | 2,000回 | 3,500回 | |
| 新規 | | | ○献血モバイル会員登録者数 (17) →(22) 11,000人 | 9,500人 | 10,000人 | 10,500人 | 11,000人 | | | | | | | |
| 236 | 2-3-1 | 122 | ● 救急車の適正利用や救急医療機関の受診の適正化等を図るため、急な病気やけがをした際、すぐに救急車を呼ぶべきか、医療機関を受診すべきかなど専門家である医師や看護師から助言を受けることができる「徳島県救急医療電話相談事業(＃7119)」の運用を開始し、利用促進を図ります。＜危機・保健＞ | 運用開始 | | | | ● 救急車の適正利用や救急医療機関の受診の適正化等を図るため、急な病気やけがをした際、すぐに救急車を呼ぶべきか、医療機関を受診すべきかなど専門家である医師や看護師から助言を受けることができる「徳島県救急医療電話相談事業(＃7119)」の運用を開始し、 他の電話相談との連携を図りつつ 利用促進を図ります。＜危機・保健＞ | | | | | 小児医療電話相談(＃8000)や、新型コロナウイルス感染症の受診・相談センターへの案内を相互に行うことで、相談業務のより円滑な運営を行う。また、相談実績に関する数値目標を設定する。 | 危機・保健 |
| | | | ○徳島県救急医療電話相談(＃7119)の運用開始 (19) 運用開始 | | | | | ○＃7119の相談実績 (17) →(22) 3,000件 | | | | 2,750件 | 3,000件 | |
| 新規 | | | | | | | | | | | | | | |
| 237 | 2-3-1 | 122 | ● 小児医療電話相談事業(＃8000)の利用促進のための周知を図り、活用していただくことで、保護者が安心して子育てができる環境整備を図ります。(再掲)＜保健＞ | 推進 | | | | ● 小児医療電話相談事業(＃8000)と 他の電話相談との連携を図りつつ 、利用促進のための周知を図り、活用していただくことで、保護者が安心して子育てができる環境整備を図ります。＜保健＞ | | | | | 令和元年12月から開始した徳島県救急医療電話相談(＃7119)や、新型コロナウイルス感染症の受診・相談センターへの案内を相互に行うことで、相談業務のより円滑な運営を行う。目標については、感染症対策の徹底による小児患者の減少により、相談減数が減少しているが、一時的なものと考えられるため修正は行わない。 | 保健 |
| | | | ○＃8000の相談実績 (17) 9,990件→(22) 11,300件 | 11,000件 | 11,100件 | 11,200件 | 11,300件 | | | | | | | |

ターゲット2 「強靱とくしま・安全安心」の実装

主要事業実施工程表（2-3「命」と「健康」を守る！地域医療提供体制の充実強化）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-------|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 24201 | 2-3-1 | 123 | 医療の質の向上や、患者及び医師の負担軽減を図るため、5Gを活用した県立病院間の遠隔診療・遠隔診断を実施します。<病院> | | 推進 | | | | | | | | 県立3病院において、「5G」通信基盤を整備し、令和3年度以降、病院間の遠隔医療に取り組む予定であるため。 | 病院 |
| | | | ○5Gを活用した遠隔医療の推進 (17) → (20) 中央病院・海部病院間で実施・推進 | | | | | ○5Gを活用した遠隔医療の推進 (17) → (20) 中央病院・海部病院間で実施・推進 (21) 県立3病院間で実施・推進 | | | | | | |
| 244 | 2-3-2 | 123 | ●避けられるがんを防ぐとともに、がんになっても尊厳を持って安心して暮らせる社会を構築するため、がん検診受診率の向上やがん診療連携拠点病院等における適切な医療の提供を図るとともに、AYA世代*のがん患者をはじめライフステージに応じた相談支援及び情報提供、緩和ケアの充実を推進します。<保健> | 推進 | | | | ●避けられるがんを防ぐとともに、がんになっても尊厳を持って暮らせる社会を構築するため、 感染予防対策の徹底など安心して検診や治療を受けられる体制を整備することにより 、がん検診受診率の向上やがん診療連携拠点病院等における適切な医療の提供を図るとともに、AYA世代*のがん患者をはじめライフステージに応じた相談支援及び情報提供、緩和ケアの充実を推進します。<保健> | | | | | がん死亡率減少を推進するためには、新型コロナウイルス感染症の影響による、検診や治療の受診控えを防止する必要があることから、感染予防対策の徹底・周知を図ることにより、安心して検診や治療を受けられる体制を整備し、がん検診受診率の向上やがん診療連携拠点病院等における適切な医療の提供を図る。 | 保健 |
| | | | ○がんの75歳未満年齢調整死亡率（人口10万対） (暦年) (16) 73.3→(22) 減少 | | | | | | | | | | | |
| | | | ○がん検診受診率の向上（暦年） (16) 胃34.8%、肺41.2%、大腸33.5%、乳41.3%、子宮39.0%→(22) 48.3% | 43.1% | | | 48.3% | | | | | | | |
| | | | ○拠点病院におけるがん診療に携わる医師の緩和ケア研修修了者の割合 (17) 94.6%→(22) 98.6% | 95.3% | 96.4% | 97.5% | 98.6% | | | | | | | |
| 新規 | 2-3-3 | 123 | | | | | | ● 感染拡大防止を図るため、県民への迅速かつ的確な情報提供や、相談体制を充実させるとともに、検体採取機関の拡充や検査能力の強化を行うなど、新型コロナウイルス感染症対策を推進します。<保健> | 推進 | | | | 新たな感染症である「新型コロナウイルス感染症」に対応し、県民の安心安全につながる相談体制や検査体制の充実を図る必要があるため。 | 保健 |
| 新規 | 2-3-4 | | | | | | | ● 移動が困難な難病患者等が、自宅や病院にいなから、イベントや会議、学校の授業・課外活動などへ参加できる社会をつくるため、遠隔操作可能な「コミュニケーションロボット」を活用した新たな社会参加手法の検証を推進します。<保健> | | | 推進 | | コロナ禍においては、難病患者等が、医療機関の受診をはじめ、イベントや会議、学校の授業や課外活動などの社会参加の機会への影響が懸念される。一方で、コロナ禍においても、自宅や病院にいなから、難病患者等が安心して社会参加できる社会の実現に向けた新たな取り組みを推進する。 | 保健 |

ターゲット2 「強靱とくしま・安全安心」の実装

主要事業実施工程表（2-4 みんなで守り育てる！「安全安心な地域づくり」の推進）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | |
|-------|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|-------|--|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | |
| 251 | 2-4-1 | 125 | <p>●「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」に基づき、消費者庁等による新たな恒常的拠点である「消費者庁新未来創造戦略本部」の発足に向けて全面的に協力するとともに、新たな拠点が、地方創生に資する新たなひとの流れを創出し、消費者庁の発展・創造のためにふさわしいものとなるよう、「機能の充実」と「規模の拡大」を目指すとともに、消費者庁が消費者行政を一元的に推進できる消費者省へと移行されるよう後押しする中で、本県への全面的移転につなげていきます。(再掲)〈危機・政策〉</p> | 移転方針決定 | 恒常的拠点発定 | 推進 | 全面的移転 | <p>●令和2年7月に徳島県庁に開設された消費者庁の新たな恒常的拠点「消費者庁新未来創造戦略本部」が、地方創生に資する新たなひとの流れを創出し、消費者庁の発展・創造のためにふさわしいものとなるよう、「機能の充実」と「規模の拡大」を目指すとともに、消費者庁が消費者行政を一元的に推進できる消費者省へと移行されるよう後押しする中で、本県への全面的移転につなげていきます。</p> <p><危機・政策></p> | | | | | 「消費者庁新未来創造戦略本部」が開設されたことによる時点修正 | 危機・政策 | |
| | | | ○消費者庁等の徳島移転 (‘17) 試験移転→(‘22) 全面的移転 | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○G20消費者政策国際会合の徳島開催 (‘19) 開催 | | | | | | | | | | | | |
| 25101 | 2-4-1 | 125 | <p>●「G20消費者政策国際会合」を契機として、国内外との連携を進め、本県の消費者行政・消費者教育の一層の発展と、本県を「消費者行政先進県」として世界へ発信し、新たな人の流れを創出します。(再掲)〈危機〉</p> | | 推進 | | | <p>●「G20消費者政策国際会合」を契機として、国内外とニューノーマルに対応した連携を進め、本県の消費者行政・消費者教育の一層の発展と、本県を「消費者行政先進県」として世界へ発信し、新たな人の流れを創出します。</p> <p><危機></p> | | | | | 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、ニューノーマルに対応した取組を推進する。 | 危機 | |
| | | | ○ネットワーク会議・フォーラム参加者数(累計) (‘17)→(‘22)600人 | | 200人 | 400人 | 600人 | | | | | | | | |
| 257 | 2-4-2 | 126 | <p>●「徳島県自殺対策基本計画」に基づき、行政及び民間団体における相談機能の強化・連携体制の充実や、「徳島県自殺予防サポーター」(ゲートキーパー※、傾聴ボランティアなど自殺予防、傾聴の研修受講者)の更なる養成に努めるなど、県民総ぐるみで地域における自殺対策の推進を図ります。 <保健></p> | 推進 | | | | <p>●「徳島県自殺対策基本計画」に基づき、行政及び民間団体における相談機能の強化・連携体制の充実や、「徳島県自殺予防サポーター」(ゲートキーパー※、傾聴ボランティアなど自殺予防、傾聴の研修受講者)の更なる養成に努めることと、自殺統計データやICTを活用し、地域の特性に合った具体的な取組を強化するなど、県民総ぐるみで地域における自殺対策の推進を図ります。 <保健></p> | | | | | 「自殺対策総合大綱」において、自殺死亡率の数値目標をR8までにH27と比べて30%以上減少させ、「13.0以下」とすることが示されているが、徳島県はH30に全国平均値よりも低い数値(12.0)となっている状況を踏まえ、数値目標をR5の計画見直しまで「13.0以下」を維持することを目標としており、目標達成に向け取組の充実・強化を図ることとする。 数値目標達成のために、「徳島県自殺対策基本計画」に基づいた取組を継続すると共に、自殺統計データを活用し、増加傾向にある対象や原因・動機への集中的な取組強化や、ICTを活用した相談機能の拡充などにより、自殺対策の更なる推進を図る。 | 保健 | |
| | | | ○自殺死亡率(人口10万人当たり自殺者数) (‘17) 16.4→(‘22) 13.0以下 | 13.0以下 | 13.0以下 | 13.0以下 | 13.0以下 | | | | | | | | |
| | | | ○自殺予防サポーター数(累計) (‘17) 32,750人→(‘22) 53,000人 | 41千人 | 45千人 | 49千人 | 53千人 | | | | | | | | |
| 258 | 2-4-2 | 126 | <p>●地域の絆を深め、地域で支え合う環境の充実を図るため、子どもや高齢者、障がい者などが集う「ユニバーサルカフェ(多世代交流・多機能型)」の普及促進を図ります。 (再掲)〈未来〉</p> | 推進 | | | | <p>●地域の絆を深め、地域で支え合う環境の充実を図るため、ニューノーマルに対応した手法を活用しながら子どもや高齢者、障がい者などが集う「ユニバーサルカフェ(多世代交流・多機能型)」の普及促進を図ります。(再掲)〈未来〉</p> | | | | | オンライン化や、オンラインと対面のハイブリッド方式などにより、ニューノーマル対応可能なものは、手法の見直しを行う。 | 未来 | |
| | | | ○ユニバーサルカフェ(多世代交流・多機能型)認定箇所数(累計) (‘17) 9箇所→(‘22) 20箇所 | 14箇所 | 16箇所 | 18箇所 | 20箇所 | | | | | | | | |

ターゲット2 「強靱とくしま・安全安心」の実装

主要事業実施工程表（2-4 みんなで守り育てる！「安全安心な地域づくり」の推進）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現 行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | | | | | |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--|--------|--------|--|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | | | | | |
| 259 | 2-4-2 | 126 | <p>● 地域における生活保護受給者等の自立を促進するため、生活保護受給者等就労自立促進事業等を展開するとともに、自立相談支援機関等に「アウトリーチ支援員（仮称）」や「企業開拓員（仮称）」を配置し、相談支援体制の充実を図り、関係機関連携の下、生活保護になる前の段階において、生活困窮者の就労自立等を促進します。＜保健＞</p> <p>○生活保護世帯のうち働くことのできる「その他世帯率」 (17) 9.3%→(22) 8.5%</p> | 推進 | | | | | | | | | | <p>新型コロナウイルス感染症の影響による離職等により、生活保護申請の増加が見込まれている。</p> <p>この方たちは、申請前は働いており、働くことができる者がいる世帯として整理されることから、「その他世帯」の割合が高まることも想定される。</p> <p>一方、生活保護になる前の段階で支援を行う、生活困窮者自立支援事業においては、相談が増加することが考えられる。このことから、生活保護になる前に支援を行い、早期に自立を促すことは重要との考えの下、自立相談支援機関における対象者に係る「自立支援プランの策定」を新しく目標として支援を実施していく。</p> | 保健 | | | | |
| 新規 | | | | | 8.9% | 8.8% | 8.7% | 8.5% | | | | 80件 | 90件 | | | | | | |
| 261 | 2-4-2 | 127 | <p>● ひきこもり状態にある本人や家族の社会的参加を促進するために、医療、福祉、教育等専門職、大学院生等を対象とした「ひきこもり支援サポーター」を養成するなど、ひきこもりに関する相談体制を充実するとともに、新たに「サテライト相談拠点」を設置し、相談業務や支援ネットワーク、居場所づくりの推進・強化に取り組みます。＜保健＞</p> <p>○ひきこもり支援サポーター登録者数（累計） (17) 83人→(22) 130人</p> | 推進 | | | | | <p>● ひきこもり状態にある本人や家族の社会的参加を促進するために、医療、福祉、教育等専門職、大学院生等を対象とした「ひきこもり支援サポーター」を養成するなど、ひきこもりに関する相談体制を充実するとともに、「サテライト相談拠点」の設置や、WITHコロナ時代に即したオンラインによる相談業務や支援ネットワーク、居場所づくりの推進・強化に取り組みます。＜保健＞</p> | | | | | | <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止しつつ、ひきこもりの当事者及び家族への支援を、切れ目なく行う。</p> | 保健 | | | |
| 266 | 2-4-4 | 128 | <p>● 消費者・事業者・行政が連携して、食の信頼関係を確保するため、消費者・事業者の自主的な取組みを支援するとともに、消費者庁や研究機関等と連携して、リスクコミュニケーションの養成や県民参加型の食の安全安心を推進する事業を展開します。＜危機＞</p> <p>○リスクコミュニケーションとしての意見交換会等参加者数 (17) 841人*→(19) ~ (22) 年間900人以上 *過去3年平均</p> | 推進 | | | | | <p>● 消費者・事業者・行政が連携して、食の信頼関係を確保するため、消費者・事業者の自主的な取組みを支援するとともに、消費者庁や研究機関等と連携して、オンラインも活用するなど、ニューノーマルに対応したリスクコミュニケーションの養成や県民参加型の食の安全安心を推進する事業を展開します。＜危機＞</p> | | | | | | <p>新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、ニューノーマルに対応した取組を推進する。</p> | 危機 | | | |
| 267 | 2-4-4 | 128 | <p>● 経済のグローバル化に柔軟かつ適切に対応し、本県畜産業の持続的発展を図るため、国内外から評価される安全安心な本県畜産物の輸出促進に向け、農場HACCP、JGAP*家畜・畜産物*等の認証取得を推進します。＜農林＞</p> <p>○農場HACCP認証等取得件数（累計） (17) 6件→(22) 14件</p> <p>○とくしま三ツ星ビーフ**認定生産者件数（累計） (17) 1件→(22) 5件</p> | 推進 | | | | | <p>○畜産GAP・農場HACCP認証等取得件数（累計） (17) 6件→(22) 15件</p> | 11件 | 12件 | 13件 | 14件 | 11件 | 12件 | 14件 | 15件 | <p>安全・安心で高品質な県産畜産物の輸出拡大を図るため、国際認証である畜産GAPの取得推進を明示するとともに、併せて目標を上回るペースで認証取得の取組が進んでいることから、目標を上方向修正する。</p> | 農林 |
| 273 | 2-4-4 | 129 | <p>● 食品関係事業者の食品表示責任者等に表示関連法令の啓発指導を行い、事業所における食品表示リーダーの養成を推進します。＜危機＞</p> <p>○食品表示責任者等講習会受講済数（累計） (17) 1,952人→(22) 2,600人</p> | 推進 | | | | | <p>● 動画配信による講習会を実施するなど、ニューノーマルに対応した形で、食品関係事業者の食品表示責任者等に表示関連法令の啓発指導を行い、事業所における食品表示リーダーの養成を推進します。＜危機＞</p> <p>○食品表示責任者講習会受講済数 (17) 1,952人→(22) 3,100人</p> | 2,300人 | 2,400人 | 2,500人 | 2,600人 | 2,300人 | 2,400人 | 2,900人 | 3,100人 | <p>新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、ニューノーマルに対応した取組を推進する。また、令和2年度の実績見込みが令和4年度の目標数値を上回ることから数値目標を上方向修正する。</p> | 危機 |

ターゲット2 「強靱とくしま・安全安心」の実装

主要事業実施工程表（2-4 みんなで守り育てる！「安全安心な地域づくり」の推進）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 276 | 2-4-5 | 129 | <p>● 県民の防犯意識の高揚を図り、地域の犯罪抑止機能を強化するため、街頭犯罪等の発生状況や不審者情報の提供及び地域の犯罪情勢に即した効果的な抑止対策とともに、特殊詐欺の撲滅に向けた取組みを推進します。＜警察＞</p> <p>○街頭犯罪発生件数（暦年） ('17) 1,141件→('22) 2017年対比で抑止（減少）</p> <p>○特殊詐欺の被害額件数（暦年） ('17) 63件→('22) 2017年対比で抑止（減少）</p> | 推進 | | | | <p>● 県民の防犯意識の高揚を図り、地域の犯罪抑止機能を強化するため、街頭犯罪等の発生状況や不審者情報の提供及び地域の犯罪情勢に即した効果的な抑止対策とともに、特殊詐欺の撲滅に向け、幅広い年齢層に対する取組みを推進します。＜警察＞</p> | | | | | <p>特殊詐欺については、高齢者のみならず、幅広い年齢層で被害が発生していることから、撲滅に向け、幅広い年齢層に対する取組を行う。</p> | 警察 |

ターゲット3 「発展とくしま・革新創造」の実装

主要事業実施工程表（3-1 全国を先導！第4次産業革命の実装）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | |
|-------|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | |
| 294 | 3-1-1 | 136 | <ul style="list-style-type: none"> 地域の課題解決や産業の振興を図るため、第5世代移動通信システム（5G）によるイノベーションの創出や社会実装に向けた取組みを推進します。 また、5Gの実用化促進を図るため、万代庁舎をはじめ県内各所において、ローカル5G環境を整備します。 <政策・経営> | 推進 | | | | | | | | | 「新たな日常」を支える通信インフラとして、急増するネットワークトラフィックに対応するため、ローカル5G環境を活用した県域高速ネットワークを構築し、医療分野や企業誘致等に魅力的な環境を整備する。 | 政策・経営 | |
| | | | ○5G活用事例数（累計） ('17) → ('22) 4件 | 1件 | 2件 | 3件 | 4件 | | | | | | | | |
| 新規 | | | | | | | | ○ローカル5G環境を活用した県域高速ネットワークの構築 ('21) 構築 | | | | | | | |
| 新規 | | | | | | | | ○県庁スケッチブック計画対応5G端末（累計） ('17) → ('22) 650台 | | | 50台 | 650台 | | | |
| 29402 | 3-1-1 | 136 | <ul style="list-style-type: none"> 医療の質の向上や、患者及び医師の負担軽減を図るため、5Gを活用した県立病院間の遠隔診療・遠隔診断を実施します。（再掲）<病院> | | 推進 | | | | | | | | | 県立3病院において、「5G」通信基盤を整備し、令和3年度以降、病院間の遠隔医療に取り組む予定であるため。 | 病院 |
| | | | ○5Gを活用した遠隔医療の推進 ('17) → ('20) 中央病院・海部病院間で実施・推進 | | | | | ○5Gを活用した遠隔医療の推進 ('17) → ('20) 中央病院・海部病院間で実施・推進 ('21) 県立3病院間で実施・推進 | | | | | | | |
| 295 | 3-1-1 | 136 | <ul style="list-style-type: none"> Society5.0を支える社会インフラとなる「マイナンバーカード」の利便性を広く県民に周知するとともに、「自治体ポイント」を県下全域に広め、利用可能店舗やサービスの拡充を図ります。<政策> | 推進 | | | | <ul style="list-style-type: none"> Society5.0を支える社会インフラとなる「マイナンバーカード」の取得を促進するため、健康保険証利用のメリットはじめ、利便性を広く県民に周知するとともに、「自治体ポイント」を県下全域に広め、利用可能店舗やサービスの拡充を図ります。<政策> | | | | | デジタル社会のパスポートであるマイナンバーカードについては、国において、令和4年度末までにほぼ全国民に行き渡ることを目指すとしている。このため、県としては、高齢者や障がい者等がデジタル化の波に取り残されることがないように、カードの取得を支援し、利便性の高いデジタル社会の実現に向けて取り組む。 | 政策 | |
| | | | ○マイナンバーカード交付率（累計） ('17) 8.8% → ('22) 50% | 20% | 40% | 45% | 50% | ○マイナンバーカード交付率（累計） ('17) 8.8% → ('22) 100% | 20% | 40% | 70% | 100% | また、令和3年3月から開始予定のマイナンバーカードの健康保険証利用については、被保険者・医療機関双方にとってメリットがあることから、そのメリットの周知を行うことにより、マイナンバーカードの取得促進につなげる。 | | |

ターゲット3 「発展とくしま・革新創造」の実装

主要事業実施工程表 (3-1 全国を先導！第4次産業革命の実装)

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現 行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 298 | 3-1-1 | 137 | <ul style="list-style-type: none"> ● 本県ものづくり企業の競争力を高めるため、徳島県の強みを活かし、産学官連携により、育児・介護分野を中心にロボットテクノロジーの実用化を推進するとともに、高機能素材などを活用した付加価値の高い製品開発を推進します。<商工> | 推進 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ● 本県ものづくり企業の競争力を高めるため、<u>生産性向上や業務効率化に資する未来技術の活用やDXを推進すること</u>とともに、<u>産学官連携により徳島県の強みや高機能素材などを活用した付加価値の高い製品開発を推進します。</u><商工> | | | | | 県内ものづくり企業における、AI、IoT、ロボット等の未来技術の導入・活用、DX(デジタルトランスフォーメーション)を積極的に推進し、ニューノーマルの実装を進めることで、生産性の向上や業務の効率化による高付加価値の製品・サービスの創出を実現し、持続性のある競争力と収益力の強化を図る。 | 商工 |
| | | | ○育児・介護現場でのAIロボットの技術開発 (21) 技術開発 | | | | | | | | | | | |
| | | | ○新素材活用の検討テーマ数 (17) 3テーマ→(19)～(22) 毎年2テーマ | 2テーマ | 2テーマ | 2テーマ | 2テーマ | | | | | | | |
| | | | ○高機能素材活用コンソーシアム参画企業の新規雇用者数 (17) 2人→(22) 9人 | 6人 | 7人 | 8人 | 9人 | | | | | | | |
| | | | ○高機能素材活用製品の試作品数 (17) 11個→(19)～(22) 毎年10個 | 10個 | 10個 | 10個 | 10個 | | | | | | | |
| | | | ○「とくしま高機能素材活用コンソーシアム※」の新規参画機関数 (17) 7機関→(19)～(22) 毎年5機関 | 5機関 | 5機関 | 5機関 | 5機関 | | | | | | | |
| | | | ○5G技術活用支援拠点開設による新技術・製品開発の支援 (20) 開設 | | | | | | | | | | | |
| 新規 | | | | | | | | ○未来技術活用製品等開発支援件数(累計) (17) → (22) 8件 | | | 4件 | 8件 | | |
| 299 | 3-1-1 | 137 | <ul style="list-style-type: none"> ● イノベーションを創出し、新たな時代をリードする企業人の育成のため、第4次産業革命にも対応する「強い組織」づくりの核となる人材育成を推進します。<商工> | 推進 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ● イノベーションを創出し、新たな時代をリードする企業人の育成のため、<u>利便性の高いオンライン研修を基本に、県内企業を支援する各種講座を実施することにより、技術革新の進む「デジタル社会」にも対応する「強い組織」づくりの核となる人材育成を推進します。</u><商工> | | | | | 県内企業の新型コロナウイルス感染症の克服と、将来を見据えた持続的発展の実現に向け、企業におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)活用人材の育成を図る。また、研修の実施にあたっては、新しい生活様式に対応し、オンラインの活用により、感染拡大の防止を徹底する。 | 商工 |
| | | | ○企業人材育成研修の受講者数 ※平成長久館および長久館連携講座を合わせた受講者数 (17) 6,355人→(22) 6,800人 | 6,500人 | 6,600人 | 6,700人 | 6,800人 | | | | | | | |
| | | | ○「第4次産業革命関連講座」の受講者数 (17) 227人→(22) 350人 | 260人 | 290人 | 320人 | 350人 | ○「第4次産業革命・DX関連講座」の受講者数 (17) 227人→(22) 350人 | 260人 | 290人 | 320人 | 350人 | | |
| | | | ○平成長久館「特別塾」の開講 (20) 開講 | | | | | | | | | | | |
| 300 | 3-1-1 | 137 | <ul style="list-style-type: none"> ● 中小企業において常態化しつつある深刻な人手不足の解消や第4次産業革命への対応に向け、生産性向上につながる設備等の導入を支援するため、中小企業向け融資制度において「生産性革命応援資金」を創設し、資金調達の円滑化を図ります。<商工> | 推進 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ● 中小企業において常態化しつつある深刻な人手不足の解消や第4次産業革命への対応に向け、生産性向上につながる設備等の導入を支援する「生産性革命応援資金」や<u>DXの取り組みを支援する「DX促進資金」等により、資金調達の円滑化を図ります。</u><商工> | 推進 | | | | 感染拡大防止に配慮しながら、「リアル開催」による実体験と「オンライン開催」による利便性を兼ね備えた映画祭とするとともに、インターネット上にバーチャルな展示・イベント会場となる「3D・VRショールーム」を構築し、イベントを開催するとともに、「最先端映像技術を駆使した映像作品」や「県内企業の優れた製品等」を紹介するなど、付加価値の高い、新たな情報発信を展開する。 | 商工 |
| | | | ○「生産性革命応援資金」の創設 (19) 創設 | | | | | ○「DX・生産性向上関連資金」の新規融資件数 (17) → (22) 70件 | | | 80件 | 70件 | | |
| 新規 | | | | | | | | | | | | | | |

ターゲット3 「発展とくしま・革新創造」の実装

主要事業実施工程表 (3-1 全国を先導！第4次産業革命の実装)

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | | | | |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--|--------------|--------------|--------------|---|-----|-----|-----|-----|---|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | | | | |
| 301 | 3-1-1 | 137 | <p>● 本県農林水産業の競争力を強化し、成長産業化の実現を図るため、IoT、ビッグデータ、AIなどの革新技術を活用した超省力・低コスト化技術や気候変動にも対応した品種の開発を推進するとともに、新技術導入促進に向けた情報収集、実演会をはじめ情報提供により、現場への速やかな普及を図ります。＜農林＞</p> <p>○若手農林漁業者への支援創設（スマート農林水産業） ('19) 創設</p> <p>○農林水産物の新品種・新技術の開発・導入数（累計） ('17) 12件→('22) 42件</p> <p>○スマート化技術導入経営体数（累計） ('17) 10経営体→('22) 60経営体</p> | 推進 | | | | | | | | | | 農林 | | | | |
| 新規 | | | | | | | | | | | | | ○スマート農業支援サービス組織数（累計） ('17) → ('22) 6組織 | | | 3組織 | 6組織 | スマート農業の普及拡大を図るため、ドローンによる農薬散布などの作業代行やスマート農機のレンタル・シェアリングなど、スマート農業技術を活用した支援サービスを提供する組織数に関する新たな目標を設定する。 |
| 新規 | 3-1-1 | | | | | | | ● 自然災害や感染症への対応などいかなる状況下においても、電気事業を継続するため、IoT等を導入し施設のスマート化を推進します。＜企業＞ | | | | | | 推進 | | | | 昨今の自然災害の激甚化、感染症の流行に対応した施設の保守体制の充実を図り、ライフラインである電気の供給事業を継続し、県民、企業の安全安心につなげるため。 |
| | | | | | | | | ○Webカメラ等を活用した、スマート化施設数（累計） ('17) → ('22) 2施設 | | | | | | 1施設 | 2施設 | | | |
| 306 | 3-1-1 | 138 | <p>● ビッグデータを活用したe-learning等のICTによる個に応じた学習を推進するとともに、プログラミング的思考等の情報活用能力を育成する学習活動の充実を図ります。＜教育＞</p> <p>○ビッグデータ実証事業における活ユーザー数 ('17) 140人→('22) 600人</p> | 推進 | | | | | ● ビッグデータを活用したe-learning等のICTによる個に応じた学習を推進するとともに、プログラミング的思考等の情報活用能力を育成する学習活動の充実を図ります。また、児童生徒の学力や学習意欲、さらには教員の指導力等本県の総合的な教育力を向上させ、新しい未来を創造できる人材の育成に役立てるため、ビッグデータの分析・活用方法について学習活動の充実を図ります。＜教育＞ | | | | | | | | | ビッグデータを活用したe-learning等による個に応じた学習の推進と、プログラミング的思考力を含む情報活用能力の育成が必要であることが明らかとなったことから、両方の力を育成できるビッグデータの分析・活用に係る学びを充実させることにより、生徒及び教員の情報活用能力の向上を図るため、新たな数値目標を設定する。 |
| | | | | | | | | ○「高校生ビッグデータ活用コンテスト」参加校数 ('17) → ('22) 6校 | | | | | | | 3校 | 6校 | | |
| 307 | 3-1-1 | 138 | <p>● 県内の小・中・高校生に対して理数分野への興味・関心を一層高める先端技術をテーマにした体験型の講座などの機会を提供します。また、科学技術に関し、広く県民の関心と理解を深めることにより、本県の科学技術の振興を図るため、「とくしま科学技術月間」期間を中心に科学技術関連行事を実施します。＜政策＞</p> <p>○徳島県内「科学技術」関連イベント数 ('17) 290回→('19) ~('22) 毎年350回</p> | 推進 | | | | | ● 県内の小・中・高校生に対して理数分野への興味・関心を一層高める先端技術をテーマにした実践的な学習の機会を体験とオンラインを効果的に組み合わせ、提供します。また、科学技術に関し、広く県民の関心と理解を深めることにより、本県の科学技術の振興を図るため、「とくしま科学技術月間」期間を中心にオンラインによる開催等を含めた科学技術関連行事を実施します。＜政策＞ | | | | | | | | | 新型コロナウイルス感染拡大に伴う新たな生活様式への移行に対応し、県民が科学技術に触れる機会を確保するため、「オンライン配信」等を活用した講座やイベントを実施する。 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

ターゲット3 「発展とくしま・革新創造」の実装

主要事業実施工程表 (3-1 全国を先導！第4次産業革命の実装)

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 308 | 3-1-2 | 139 | ●全国屈指の光ブロードバンド環境をはじめとする、本県の強みを最大限に活かし、地域経済の活性化を図るため、コールセンターやAI、ビッグデータ等の情報通信関連企業の誘致を推進します。〈商工〉 | 推進 | | | | ●全国屈指の光ブロードバンド環境や オーダーメイド型立地優遇制度 をはじめとする、本県の強みを最大限に活かし、地域経済の活性化を図るため、コールセンターやAI、ビッグデータ等の情報通信関連企業の誘致を推進します。〈商工〉 | | | | | 新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい経営環境下において、県内経済の持続的な成長と雇用を創出する企業の投資計画を支援するため、「企業立地優遇制度」の奨励指定及び補助要件を緩和し、立地企業の安定的かつ持続的な操業を支援する。 | 商工 |
| | | | ○情報通信関連企業（コールセンター、AI、ビッグデータ等）の奨励指定による集積数 (17) 38事業所→(22) 54事業所 | 45 事業所 | 48 事業所 | 51 事業所 | 54 事業所 | | | | | | | |
| 309 | 3-1-2 | 139 | ●クリエイティブ企業やクリエイターの更なる集積を図るため、産学官が連携した人材育成に取り組むとともに、クリエイティブ企業の誘致や創業等、県内企業のデジタルコンテンツ分野への進出支援を積極的に推進します。〈商工〉 | 推進 | | | | ●クリエイティブ企業やクリエイターの更なる集積を図るため、産学官が連携した オンライン受講を取り入れた 人材育成に取り組むとともに、クリエイティブ企業の誘致や創業等、県内企業のデジタルコンテンツ分野への進出支援を積極的に推進します。〈商工〉 | | | | | 新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、これまでの対面による講座に加え、新しい生活様式に対応し、「オンライン」を活用した講座を実施する。 | 商工 |
| | | | ○クリエイティブ関連企業数 (17) 241社(者)→(22)315社(者)(累計) | 270社 | 285社 | 300社 | 315社 | | | | | | | |
| | | | ○LEDデジタルアート常設展示への支援制度の創設 (19) 創設 | | | | | | | | | | | |
| 310 | 3-1-2 | 139 | ●4KやVR(ヴァーチャルリアリティ)等の優れた映像クリエイターや関連事業者を徳島へ集積させるため、「映像先進地徳島」の国内外への発信に取り組みます。〈商工〉 | 推進 | | | | ●4KやVR(ヴァーチャルリアリティ)等の優れた映像クリエイターや関連事業者を徳島へ集積させるため、 オンライン配信などにより 、「映像先進地徳島」の国内外への発信に取り組みます。〈商工〉 | | | | | 感染拡大防止に配慮しながら、「リアル開催」による実体験と「オンライン開催」による利便性を兼ね備えた映画祭とするとともに、インターネット上にバーチャルな展示・イベント会場となる「3D・VRショールーム」を構築し、イベントを開催するとともに、「最先端映像技術を駆使した映像作品」や「県内企業の優れた製品等」を紹介するなど、付加価値の高い、新たな情報発信を展開する。 | 商工 |
| | | | ○4K・VR関連企業(者)数 (17) 14社(者)→(22) 24社(者) | 18社 | 20社 | 22社 | 24社 | | | | | | | |
| | | | ○4K・VR映画祭における「あわ文化振興部門」の創設 (19) 創設 | | | | | | | | | | | |
| | | | ○4K・VR映画祭の開催 (18) 拡大→(19) ~継続 | | | | | | | | | | | |
| 新規 | | | | | | | | ○3D・VRショールームでの展示・イベント実施件数 (17) →(22) 3件 | | | 2件 | 3件 | | |
| 311 | 3-1-2 | 139 | ●AI、ビッグデータ等革新技術の活用が増える中、IT技術者の需要増加による県内企業の人材不足を解消するため、海外からの人材を確保する支援を行います。〈商工〉 | 推進 | | | | ●AI、ビッグデータ等革新技術の活用が増える中、IT技術者の需要増加による県内企業の人材不足を解消するため、 オンラインなどを活用し 、海外からの人材を確保する支援を行います。〈商工〉 | | | | | 新型コロナウイルスの世界的流行に伴う海外との往来自粛・渡航制限の影響を受け、2020年度の実施を予定していた事業は中止となり、目指していた受入れは困難となったが、引き続き、海外からの人材確保に向け、取り組む。 | 商工 |
| | | | ○県内企業における外国人ICT技術者の受入れ (20) 受入れ | | | | | | | | | | | |
| 312 | 3-1-2 | 139 | ●実践的なICT人材の育成や地場ICT産業の持続的な発展、徳島を拠点としたワーキングスタイルの確立につなげるため、県内最大のデジタルコンテンツ表彰を行う「ICT(愛して)とくしま大賞」や徳島の強みを活かした効果的なICTイベントを実施します。〈政策〉 | 推進 | | | | ● 実践的なデジタル人材の育成や地場産業の持続的な発展、徳島を拠点としたワーキングスタイルの確立に向け、徳島ならではのDXを生み出す土壌を醸成するため、県内最大のデジタルコンテンツ表彰を行う「デジタルとくしま大賞(仮称)」や徳島の強みを活かした効果的なデジタル関連イベントを実施します。〈政策〉 | | | | | 誰もがデジタル化の恩恵を享受できる真のデジタル社会を実現するためには、ツールとしてのICTの利活用だけでなく、社会全体の最適化や新たな価値の創造をもたらすDX(デジタルトランスフォーメーション)を強く推進していく必要があることから、従来の取組みの見直しを行う。また、これまでの実績を踏まえ、数値目標を上方向修正する。 | 政策 |
| | | | ○ICTとくしま大賞応募作品の利活用件数(累計) (17) 45件→(22) 135件 | 75件 | 95件 | 115件 | 135件 | ○ICTとくしま大賞 及びデジタルとくしま大賞(仮称) 応募作品の利活用件数(累計) (17) 45件→(22) 160件 | 75件 | 95件 | 140件 | 160件 | | |

ターゲット3 「発展とくしま・革新創造」の実装

主要事業実施工程表（3-1 全国を先導！第4次産業革命の実装）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|---------------------|---------------------|--|-----------|--|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | |
| 313 | 3-1-3 | 140 | <p>●多くの県民に県政を身近に感じ、親しみを持ってもらうとともに、県民からの意見・提言等を積極的に県政に反映させるため、県庁ふれあいセンター「すだちくんテラス」の活用や、AIを活用した多言語対応の全庁的なFAQシステムの開設により、県政情報の効果的な発信などに取り組みます。(再掲) <監察></p> | 推進 | | | | <p>●多くの県民に県政を身近に感じ、親しみを持ってもらうとともに、県民からの意見・提言等を積極的に県政に反映させるため、<u>ニューノーマルに対応した県庁ふれあいセンター「すだちくんテラス」での広聴事業の実施</u>、AIを活用した多言語対応の全庁的なFAQシステムの開設により、県政情報の効果的な発信などに取り組みます。(再掲) <監察></p> | | | | | <p>新型コロナウイルス感染防止対策を徹底の上、実施するため。 「とくしま丸ごとAIコンシェルジュ」に名称が確定したため。</p> | 監察 | |
| | | | ○県庁舎見学参加者数 (’17) 617名→(’22) 年間680名以上 | 680名 | 680名 | 680名 | 680名 | | | | | | | | |
| | | | ○県庁ふれあいセンター「すだちくんテラス」 展示等件数 (’17) 40件→(’19) ~ (’22) 年間50件以上 | 50件 | 50件 | 50件 | 50件 | | | | | | | | |
| | | | ○「とくしま丸ごとAIコンシェルジュ(仮称)」の 開設 (’20) 開設 | | | | | ○「とくしま丸ごとAIコンシェルジュ」の開設 (’20) 開設 | | | | | | | |
| 314 | 3-1-3 | 140 | <p>●申請・届出等の行政手続きの簡素化やオンライン対応、AI・RPA等の革新技術の活用を進めることにより、業務の効率化とともに、県民の利便性の向上を図ります。また、公文書の電子決裁化を進めることで、文書管理の適正化と行政運営の効率化を目指します。 <経営・出納></p> | 推進 | | | | <p>●<u>デジタル社会実現に向けた取組を強力に推進するため、「アクションプラン」を策定し、申請・届出・入札等の行政手続きの簡素化やオンライン対応、公文書の電子化、AI・RPA等の革新技術の活用などを推進することにより、行政システムを変革し、県民の利便性向上を図ります。</u> また、公文書の電子決裁化を進めることで、文書管理の適正化と行政運営の効率化を目指します。 <経営・出納></p> | | | | | <p>今般の新型コロナウイルス感染症の拡大は、感染症対策の実施を通じて、各種給付金の受給申請手続・支給作業の一部に遅れや混乱が生じるなど、特に行政分野におけるデジタル化・オンライン化の遅れが明らかとなった。そこで、これまで本県のICT施策を推進してきた「ICT推進本部」を改組し「デジタル社会推進本部」を設置、「アクションプラン」の策定・推進を行うことにより、行政分野のデジタル化・オンライン化などデジタル社会実現に向けた取組をより強力に推進する。</p> | 経営・ 出納 | |
| | | | ○電子申請利用件数 (’17) 9,317件→(’22) 14,000件 | 11,000 件 | 12,000 件 | 13,000 件 | 14,000 件 | ○電子申請利用件数 (’17) 9,317件→(’22) <u>22,000件</u> | 11,000 件 | 12,000 件 | <u>20,000 件</u> | <u>22,000 件</u> | | | |
| | | | ○電子決裁システムの利用促進 利用率 (’17) 84%→(’22) 100% | | | | 100% | | | | | | | | |
| | | | ○定型業務にRPAを適用 (’19) RPA本格実装・(’20) RPA適用業務の拡充 | | | | | | | | | | | | |
| 新規 | | | | | | | | ○物品の調達等に係る電子入札システム (’21) 構築 | | | | | | | |
| 新規 | | | | | | | | ○職員向けデジタル関係研修受講者数 (’17) 197人→(’22) 500人 | | | 460人 | 500人 | | | |
| 新規 | | | | | | | | ○WEB会議設備常設県庁会議室数(累計) (’17) → (’22) 5室 | | | 5室 | 5室 | | | |

ターゲット3 「発展とくしま・革新創造」の実装

主要事業実施工程表（3-2 千載一遇！攻めのインバウンド誘客）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現 行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 316 | 3-2-1 | 141 | <p>● 東アジアを重点地域として、チャーター便や定期便の誘致による観光誘客に取り組むとともに、国際スポーツ大会等の開催に合わせて、県内DMOや県域を越えた広域的なDMOと連携した周遊観光や徳島の魅力を生かしたニューツーリズムを推進することにより、外国人観光客の誘客を促進します。</p> <p>また、本県を代表する伝統文化「阿波おどり」の海外公演や指導者派遣を行うことにより、徳島の認知度向上並びに「徳島ファン」の拡大を図り、本県の観光誘客に繋がります。＜商工＞</p> | 推進 | | | | <p>● 徳島に「行きたい」「体験したい」意欲の増進を図るため、DMOや県内観光事業者と連携し、オンラインを積極的に活用した観光プロモーションを展開します。</p> <p>また、本県を代表する伝統文化「阿波おどり」のオンライン配信等により、徳島の認知度向上並びに「徳島ファン」の拡大を図り、本県の観光誘客に繋がります。＜商工＞</p> | | | | | <p>オンラインを積極的に活用した観光プロモーション等を促進することにより、2025年大阪・関西万博の開催等を見据えた観光誘客に繋げる。</p> | 商工 |
| | | | ○県内への外国人延べ宿泊者数（暦年） ('17) 102,810人→('22) 168,000人 | 117,000人 | 134,000人 | 151,000人 | 168,000人 | ○県内への外国人延べ宿泊者数（暦年） ('17) 102,810人→('20) 134,000人 | 117,000人 | 134,000人 | ＝ | ＝ | | |
| 新規 | | | | | | | | ○ニューノーマルに対応した観光プロモーション（観光セミナー・商談会等）実施回数（累計） ('22) 60件 | | | | 30回 | 60回 | |
| | | | ○各国大使館等と連携した「阿波おどり」の海外公演及び指導者派遣回数（累計）（再掲） ('17) 4回→('22) 30回 | 15回 | 20回 | 25回 | 30回 | ○各国大使館等と連携した「阿波おどり」の海外公演、指導者派遣やオンライン配信等を活用した魅力発信回数（累計）（再掲） ('17) 4回→('22) 30回 | 15回 | 20回 | 25回 | 30回 | | |
| 318 | 3-2-1 | 141 | <p>● 持続可能な観光地域づくりを実現するため、舵取り役であるDMO（一般社団法人四国の右下観光局）を核とし、地域の多様な関係者を巻き込み、国際スポーツ大会のキャンプ地誘致や競技の開催を通じて訪日外国人観光客の受入態勢を充実強化し、県南の地域資源を活用した観光誘客を促進します。＜南部＞</p> | 推進 | | | | <p>● 「ポストコロナ」社会に向けたサステナブルな観光地域づくりを実現するため、舵取り役であるDMO（一般社団法人四国の右下観光局）を核とし、地域の多様な関係者を巻き込み、「新たな旅行スタイル」に対応した誘客や国際スポーツ大会の開催等を契機とした観光客の受入態勢を充実強化し、県南の地域資源を活用した観光誘客を促進します。＜南部＞</p> | | | | | <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、訪日旅行の需要回復の見通しが見えない中、来るべきインバウンド需要の回復を見据え、英語版SNSによる情報発信を行う。</p> | 南部 |
| | | | ○一般社団法人四国の右下観光局の日本版DMO法人への登録 ('19) 登録 | | | | | | | | | | | |
| | | | ○圏域内での外国人の年間延べ宿泊者数（暦年） ('17) 2,386人→('22) 11,000人 | 4,000人 | 6,000人 | 9,000人 | 11,000人 | ○圏域内での外国人の年間延べ宿泊者数（暦年） ('17) 2,386人→('20) 6,000人 | 4,000人 | 6,000人 | ＝ | ＝ | | |
| 新規 | | | | | | | | ○英語版SNSによる投稿回数 ('17) → ('22) 100回 | ＝ | ＝ | 100回 | 100回 | | |
| | | | ○来訪者の満足度(7段階評価中最高評価の割合) ('17) → ('19) ～ ('22) 25%以上 | 25% | 25% | 25% | 25% | | | | | | | |

ターゲット3 「発展とくしま・革新創造」の実装

主要事業実施工程表 (3-2 千載一遇！攻めのインバウンド誘客)

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 319 | 3-2-1 | 142 | ● 県西部圏域(にし阿波)への欧米豪など外国人観光客の誘致を促進するため、世界水準DMOの育成や圏域内での周遊ルートづくり等に取り組むとともに、AIやデジタルマーケティング*を活用した戦略的な情報発信を推進します。<西部> | 推進 | | | | ● 「徳島」及び「にし阿波」の認知度向上と、欧米豪など外国人観光客の誘致促進のため、世界水準DMOの育成や圏域内での周遊ルートづくり等に取り組むとともに、AIやデジタルマーケティング*、オンラインやSNS等を活用し、ニューノーマルに対応した戦略的な情報発信を推進します。<西部> | | | | | 新型コロナウイルス感染症の影響により、観光に対する社会的ニーズが変化しているため、「にし阿波」における外国人延べ宿泊者数(暦年)を廃止し、コロナ禍において、オンラインやSNS等を活用することにより、アフターコロナで外国人観光客を取り戻すため、「徳島・にし阿波」の魅力効果を効果的に情報発信し、その情報が確実に届いた外国人数を新たな指標とする。 | 西部 |
| | | | ○ 「にし阿波」における外国人延べ宿泊者数(暦年) (17) 28,824人→(22) 35,000人 | 30,000 人 | 31,500 人 | 33,000 人 | 35,000 人 | ○ 「にし阿波」における外国人延べ宿泊者数(暦年) (17) 28,824人→(20) 31,500人 | 30,000 人 | 31,500 人 | = | = | また、訪日旅行の再開時期が見通せない中、これまでの旅行会社との関係を継続するとともに、新規誘客開拓を図るため、リアルとオンラインのハイブリッド形式により、メディアや潜在旅行者に対し、「にし阿波」の魅力を効果的に発信する。 | |
| 新規 | | | | | | | | ○BtoCの取組みとして、オンラインやSNS等を活用し、にし阿波の情報を発信した延べ外国人人数 (17) →(22)17,000人 | = | = | 15,000 人 | 17,000 人 | | |
| 新規 | | | | | | | | ○BtoBの取組みとして、アフターコロナを見据え、海外の旅行会社、メディア等へのリアルとオンラインを活用したプロモーション・商談会の開催 (17) →(22)15回 | = | = | 15回 | 15回 | | |
| | | | ○来訪者の満足度(7段階評価中最高評価の割合) (17) 20%→(22) 25% | 22% | 24% | 25% | 25% | | | | | | | |
| 321 | 3-2-1 | 142 | ● 外国人誘客をはじめとした新たな観光需要の掘り起こしと地域活性化を図るため、宿泊施設と県内イベントとが連携した「コンセプト泊*」を推進します。<政策・商工> | 推進 | | | | ● 「コンセプト泊」を発展し、地域活性化はもとより、新たなビジネスモデル創出に繋げていくため、イベント・レジャーへの参加や宿泊施設・コワーキングスペースなどの利活用を寄与する、徳島ならではの「ワーケーションニアワーケーション」を推進します。<政策> | 推進 | | | | アワーケーションの取組を推進することにより、イベントや宿泊だけでなく、サテライトオフィスやリモートワークを通して、新たなビジネスモデルとして徳島をPRすることができることと、来県者と地域が繋がることで、更なる地域の活性化が図られるため | 政策 |
| 新規 | | | | | | | | ○地域での社会貢献活動を行う企業数(累計) (17) →(22) 20社 | | | 10社 | 20社 | | |
| 323 | 3-2-1 | 142 | ● 県西部圏域(にし阿波)において来訪者の滞在期間の延長や滞在施設の拡充を図るため、主要な観光地とアクティビティや世界農業遺産体験などを組み合わせた体験・滞在プログラムを開発することにより、「にし阿波」への誘客を推進します。<西部> | 推進 | | | | ● 国内外への「徳島」及び「にし阿波」の認知度向上と、観光誘客の促進及び滞在期間の延長を図るため、主要な観光地とアクティビティや世界農業遺産体験などを組み合わせた体験・滞在プログラムに開発やにし阿波の魅力を活かしたワーケーション誘致に取り組むとともに、オンラインやSNS等を活用し、ニューノーマルに対応した戦略的な情報発信を推進します。<西部> | | | | | リアルとオンラインを活用したハイブリッド型による体験・滞在プログラムやファミツアーを催行する。また、ファミツアー終了後は検診を行い、ブラッシュアップを図り、ツアーの魅力度を向上させ、にし阿波ニューノーマル・モデルコースとして、国内外に向け情報発信する。 | 西部 |
| | | | ○DMOが造成した体験・滞在プログラムの参加者数 (17) 703人→(22) 1,000人 | 820人 | 880人 | 940人 | 1,000人 | ○DMOが造成したリアルとオンラインによるハイブリッド型の体験・滞在プログラムの参加者数 (17) 703人→(22) 1,000人 | | | 940人 | 1,000人 | また、新型コロナウイルス感染症をきっかけに、テレワークが普及し働き方の多様化が進む中、「ワーケーション」が注目を集めていることから、これまでにし阿波が海外企業を中心に取り組んできた「ワーケーション」誘致をさらに発展させ、国内外からの幅広い誘致に取り組む。 | |
| 新規 | | | | | | | | ○ワーケーション等を実施する国内外企業数 (17) →(22) 15社 | | | 11社 | 15社 | | |
| 新規 | | | | | | | | ○リアルとオンラインを活用したハイブリッド型による体験・滞在プログラムのファミツアーの催行回数(累計) (17) →(22)6回 | | | 3回 | 6回 | 新型コロナウイルス感染症の影響により、観光に対する社会的ニーズが変化しているため、リアル「ホテル・旅館以外での体験型観光延べ受入泊数」は廃止し、リアルとオンラインを活用したハイブリッド型の体験・滞在プログラムやワーケーションの推進に関する新たな指標を追加する。 | |
| | | | ○ホテル・旅館以外での体験型観光延べ受入泊数 (17) 5,024泊→(22) 6,000泊 | 5,250泊 | 5,500泊 | 5,750泊 | 6,000泊 | ○ホテル・旅館以外での体験型観光延べ受入泊数 (17) 5,024泊→(20) 5,500泊 | 5,250泊 | 5,500泊 | = | = | | |

ターゲット3 「発展とくしま・革新創造」の実装

主要事業実施工程表 (3-2 千載一遇！攻めのインバウンド誘客)

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | |
|-----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | |
| 324 | 3-2-2 | 143 | <ul style="list-style-type: none"> 旅行形態の主流となっている「個人旅行者の誘客促進」、 「東京オリンピック・パラリンピック」等を見据えた「訪日外国人の誘客促進」、多くの宿泊者が見込まれる「コンベンションの誘客促進」、宿泊施設のキャパシティ拡大や魅力向上に繋がる投資促進施策など、官民一体となった戦略的な取組みを推進し、観光誘客、宿泊者数の増加を図ります。<商工> | 推進 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ニューノーマルに対応した観光スタイルとして、「安全・安心な観光地づくり」はもとより、徳島の強みを活かした「ワーケーション」や「プレジャー」による滞在型観光の推進、デジタルを活用した誘客促進、SNS等による「徳島の認知度向上」に繋がる魅力発信など、官民一体となった戦略的な取組みを推進し、観光誘客、宿泊者数の増加を図ります。<商工> | | | | | 徳島県観光審議会での審議を経た個別計画「徳島県観光振興基本計画(第3期)」の数値目標見直し案を反映。 数値目標見直し案は、2021年7月頃に新型コロナウイルス感染症が収束し、段階的に回復して2022年1月頃に2019年並みに回復する場合を想定して設定。 | 商工 | |
| | | | ○観光入込客数(暦年) (17) 1,951万人→(22) 2,070万人 | 1,995 万人 | 2,020 万人 | 2,045 万人 | 2,070 万人 | ○観光入込客数(暦年) (17) 1,951万人→(22) 1,980万人 | 1,995 万人 | 2,020 万人 | 1,360 万人 | 1,980 万人 | | | |
| | | | ○年間の延べ宿泊者数(暦年) (17) 230万人→(22) 300万人 | 255 万人 | 270 万人 | 285 万人 | 300 万人 | ○年間の国内延べ宿泊者数(暦年) (17) 220万人→(22) 260万人 | | | 180 万人 | 260 万人 | | | |
| | | | ○観光消費額(暦年) (17) 889億円→(22) 1,200億円 | 1,155 億円 | 1,170 億円 | 1,185 億円 | 1,200 億円 | ○観光消費額(暦年) (17) 889億円→(22) 1,090億円 | 1,155 億円 | 1,170 億円 | 750 億円 | 1,090 億円 | | | |
| 新規 | 3-2-2 | | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 県民の皆様へ「徳島の魅力」を再発見いただく「とくしま観光キャンペーン」を実施し、新型コロナウイルス感染症の影響により消失した観光需要の回復と、社会経済活動の引き上げを図ります。<商工> | 推進 | | | | | 新型コロナウイルス感染症により失われた観光需要の回復を図るとともに、県民の皆様へ徳島を再発見いただくことで、観光産業の成長産業化を図る。 | 商工 |
| | | | | | | | | ○「とくしま応援割」宿泊者数 (21) 3万人泊 | | | 3 万人泊 | | | | |
| 327 | 3-2-2 | 143 | <ul style="list-style-type: none"> 四国4県が連携して四国のグリーン・ツーリズム*を推進するとともに、インターネットを活用したPRを展開し、徳島の農山漁村への入り込み客数の増加を図り、活気あるむらづくりを進めます。<農林> | 推進 | | | | <ul style="list-style-type: none"> 農山漁村での生活や農林漁業体験ができる「とくしま農林漁家民宿」に対し、開業支援や新型コロナウイルス対策等のスキルアップを図ることにより、受入体制を整備し、徳島の農山漁村地域への誘客を促進します。<農林> | | | | | とくしま農林漁家民宿は、コロナ禍における移動自粛などの影響により、宿泊者が大幅に減少する中、アフターコロナ時代の円滑な宿泊者の受入に向けて、農泊ガイドラインを踏まえたニューノーマル対応の受入体制の整備を推進するため、目標を見直す。 | 農林 | |
| | | | ○とくしま農林漁家民宿数 (17) 49軒→(22) 75軒 | 60軒 | 65軒 | 70軒 | 75軒 | ○ニューノーマル対応とくしま農林漁家民宿数 (17) →(22) 40軒 | | | 30軒 | 40軒 | | | |
| | | | ○とくしま農林漁家民宿の宿泊者数 (17) 3,713人→(22) 6,000人 | 4,800人 | 5,200人 | 5,600人 | 6,000人 | ○ニューノーマル対応とくしま農林漁家民宿の宿泊者数 (17) →(22) 4,000人 | | | 2,000人 | 4,000人 | | | |
| 331 | 3-2-2 | 144 | <ul style="list-style-type: none"> 吉野川を今後さらに輝かせ、全国へ誇れる「徳島ならではの」魅力あるブランドとするため、「恵みの宝庫“吉野川”創造プロジェクト」により、吉野川における新たな観光資源の創出や吉野川の歴史・文化・環境・水とのふれあいに関する講座の開催などに取り組みます。<県土> | 推進 | | | | <ul style="list-style-type: none"> 吉野川を今後さらに輝かせ、全国へ誇れる「徳島ならではの」魅力あるブランドとするため、「恵みの宝庫“吉野川”創造プロジェクト」により、吉野川における新たな観光資源の創出や吉野川の歴史・文化・環境・水とのふれあいに関する講座の開催に加え、オンライン発信などに取り組みます。<県土> | | | | | 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、オンライン発信を導入するなど、吉野川の魅力向上に取り組む。 | 県土 | |
| | | | ○講座の受講者数 (17) 140人→(19) ~ (22) 年間150人以上 | 150人 | 150人 | 150人 | 150人 | | | | | | | | |
| 333 | 3-2-2 | 144 | <ul style="list-style-type: none"> 国内外からの観光誘客を図り、地域の活性化に繋げるため、県内に架かる橋をPRする「橋の博物館とくしま」のホームページや橋梁史の英語版を作成し、橋の魅力を広げ発信します。<県土> | 推進 | | | | <ul style="list-style-type: none"> 国内外からの観光誘客を図り、地域の活性化に繋げるため、県内に架かる橋をPRする「橋の博物館とくしま」のホームページの充実や橋梁史などを記載した「ブリッジカード」の英語版を作成するとともに、地域の景観や文化を感じながら自転車で橋を巡る「ブリッジサイクルツーリズム」を通して、橋の魅力を広げ発信します。<県土> | | | | | 9月議会での議論を踏まえ、「アフターコロナ時代」にも合う目標を具体的に記載するとともに、「新たな生活様式」を踏まえた自転車を活用する目標を追加する。 | 県土 | |

ターゲット3 「発展とくしま・革新創造」の実装

主要事業実施工程表 (3-2 千載一遇！攻めのインバウンド誘客)

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現 行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 334 | 3-2-3 | 145 | ●夏の阿波おどりはもとより、春、秋の「阿波おどり」の更なる充実や、冬の「阿波おどり」の定着、有名連の練習風景の観光資源化など、阿波おどりの通年活用に取り組むとともに、本場徳島をPRする「世界阿波おどりサミット」の開催を契機とし、世界の「阿波おどり連」との連携強化を図り、世界に発信することにより、「徳島ファン」の拡大を図り、国内外から本県を訪れる観光客の周遊と宿泊を促進します。(再掲) <商工> | 推進 | | | | ●夏の阿波おどりはもとより、春、秋の「阿波おどり」の更なる充実や、冬の「阿波おどり」の定着、有名連の練習風景の観光資源化など、阿波おどりの通年活用に取り組むとともに、 ニューノーマルに対応した新たな阿波おどりを実装し 、本場徳島をPRする「世界阿波おどりサミット」の開催を契機に、世界の「阿波おどり連」との連携強化を図り、 オンライン等を活用した魅力発信を行うにより 、「徳島ファン」の拡大を図り、国内外から本県を訪れる観光客の周遊と宿泊を促進します。(再掲) <商工> | | | | | 感染予防対策を徹底した安全安心の阿波おどりイベントを開催する必要があるとともに、海外との往来が困難な状況であるため、オンラインによる情報発信を含めることとした。 | 商工 |
| | | | ○「世界阿波おどりサミット」の開催 (19) 開催 | | | | | | | | | | | |
| 335 | 3-2-3 | 145 | ●国内外から注目を集める「マチ★アソビ」を核としたアニメイベントを開催することにより、徳島ならではの魅力を活かしたにぎわいの創出や新たな地域文化の創造と発信を図ります。(再掲) <商工> | 開催 | | | | ●国内外から注目を集める「マチ★アソビ」を核としたアニメイベントを、 参加者全員が安心して楽しめるニューノーマルに対応した形で 開催することにより、徳島ならではの魅力を活かしたにぎわいの創出や新たな地域文化の創造と発信を図ります。 <商工> | | | | | 「マチ★アソビ」の灯を消すことのないよう、参加者全員の安全・安心に配慮したアニメイベントを開催することにより、アフターコロナ後の徳島市中心市街地の活性化や観光交流の促進に繋げる必要があるため。 | 商工 |
| 336 | 3-2-3 | 145 | ●「アニメの聖地徳島」として、世界にアニメ文化を発信し、地域の活性化、観光誘客の促進を図るため、国内外のアニメファンが集う「マチ★アソビ」と、徳島の特色を活かした「LEDデジタルアート」との融合による「ナイトタイムイベント」の開催により、新次元の「驚きと感動体験」を実現します。 <商工> | 開催 | | | | ●「アニメの聖地徳島」として、世界にアニメ文化を発信し、地域の活性化、観光誘客の促進を図るため、国内外のアニメファンが集う「マチ★アソビ」と、徳島の特色を活かした「LEDデジタルアート」との融合による「ナイトタイムイベント」を AR技術を活用して開催することにより、感染拡大防止に配慮しながら 、新次元の「驚きと感動体験」を実現します。 <商工> | | | | | (20)は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため開催を見送ったが、(21)は、AR技術を活用し、スマートフォンを通じてデジタルアートを楽しむイベントとすることにより、感染拡大防止に配慮したイベントとして開催する。 | 商工 |
| | | | OLEDデジタルアートとの融合によるナイトタイムイベントの開催 (20) 開催 | | | | | | | | | | | |
| 337 | 3-2-3 | 145 | ●県内のスポーツ振興や、県民の健康増進を図るため、障がいを持つ方も参加できる関連イベントの開催など、参加者の満足度の高い、「おもてなしの心」あふれる「とくしまマラソン」を開催します。 <商工> | 開催 | | | | ●県内のスポーツ振興や、県民の健康増進を図るため、 スタッフやボランティアなどを合わせた参加者全員の安全・安心に配慮しつつ 、ランナー以外の方も参加できる関連イベントを実施するなど、参加者の満足度の高い、「おもてなしの心」あふれる「とくしまマラソン」を開催します。 <商工> | | | | | ランナーはもとより、スタッフやボランティアなど大会に関わる方の安全・安心に配慮した、新しい生活様式に対応したマラソン大会の運営に取り組む。 | 商工 |
| | | | ○ランナー満足度 (17) 76.8点→(22) 85.0点 | | 80.5点 | 82.0点 | 83.5点 | 85.0点 | | | | | | |
| 338 | 3-2-3 | 145 | ●「ナイトタイムエコノミー [*] 」の活性化を図るため、「ナイトイベント」を誘致し、宿泊者数及び夜間の観光消費額の増加を図ります。また、ナイトイベントの開催場所として県有施設の活用を図ります。 <商工> | 促進 | | | | ●「ナイトタイムエコノミー [*] 」の活性化を図るため、 ニューノーマルに対応した「ナイトイベント」の開催を支援し 、宿泊者数及び夜間の観光消費額の増加を図ります。また、ナイトイベントの開催場所として県有施設の活用を図ります。 <商工> | | | | | コロナ禍において、イベント実施に際し、感染症対策を徹底する必要があるため。 | 商工 |

ターゲット3 「発展とくしま・革新創造」の実装

主要事業実施工程表（3-2 千載一遇！攻めのインバウンド誘客）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | | | | |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|---------|--|----|---|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | | | | |
| 339 | 3-2-3 | 145 | <p>●「渦の道」、「あすたむらんど徳島」、「美馬野外交流の郷」などの交流拠点の魅力を高めるとともに、交流拠点を活用したイベントの充実を図り、また、来場者へのアンケートを実施し、意見を踏まえた取組みやサービスを提供することで満足度の向上を図ります。〈商工〉</p> <p>○「渦の道」、「あすたむらんど徳島」及び「美馬野外交流の郷」の満足度数 (‘17) 70%→(‘22) 80%</p> | 推進 | | | | <p>●「渦の道」、「あすたむらんど徳島」、「美馬野外交流の郷」などにおいて、感染症対策を徹底し、安心して楽しめる交流拠点の魅力を発信し、ニューノーマルに対応したイベントの充実を図るとともに、来場者へのアンケートを実施し、意見を踏まえた取組みやサービスを提供することで満足度の向上を図ります。〈商工〉</p> | | | | | <p>コロナ禍においては、施設運営やイベント実施に際し、感染症対策を徹底する必要があるため。</p> | 商工 | | | | |
| 340 | 3-2-3 | 145 | <p>●本県への交流人口の増加を図るため、「とくしまコンベンション誘致推進協議会」を核として積極的な誘致活動を展開することにより、コンベンション参加者の増加を促進します。〈商工〉</p> <p>○コンベンション（中四国規模以上）の参加者数 (‘17) 107,764人→(‘22) 140,000人</p> | 推進 | | | | <p>●本県への交流人口の増加を図るため、「とくしまコンベンション誘致推進協議会」を核に、オンライン併用などのニューノーマルに対応した大会をはじめ、積極的なコンベンション誘致活動を展開します。〈商工〉</p> <p>○リアルとオンラインのハイブリッド会議等 (中四国規模以上)開催回数 (‘22) 45件</p> | | | 20回 | 45回 | <p>リアルとオンラインのハイブリッド開催や小規模開催の需要が増加し、誘致ターゲットとしていく必要があるため。</p> | 商工 | | | | |
| 342 | 3-2-3 | 146 | <p>●「防災・健康」のリバシブルな役割を担う西部健康防災公園を「にぎわい交流の拠点」とするため、広大なフィールドを活用した各種大会やスポーツ合宿等の誘致を行い、にぎわい創出を図ります。〈西部〉</p> <p>○「西部健康防災公園」を活用したスポーツやレクリエーションでの利用者数（再掲） (‘17) 91,772人→(‘19) ～(‘22) 年間10万人以上</p> | 推進 | | | | <p>●「防災・健康」のリバシブルな役割を担う西部健康防災公園を「にぎわい交流の拠点」とするため、広大なフィールドを活用し、ニューノーマルに対応した各種大会やスポーツ合宿等の誘致を行い、にぎわい創出を図ります。〈西部〉</p> <p>○「西部健康防災公園」を活用したスポーツやレクリエーションでの利用者数（再掲） (‘17) 91,772人→(‘22) 10万人以上</p> | 10万人 | 10万人 | 10万人 | 10万人 | 10万人 | 10万人 | <p>令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減少しているため大幅な減少を見込むが、令和3年度はニューノーマルに対応したスポーツ大会やイベント等が増加することにより、利用者数が8割程度まで回復し、令和4年度はコロナ禍前の目標値10万人以上の達成を目指す。 (R2年4月から9月の利用者数 25,390人)</p> | 西部 | | |
| 343 | 3-2-4 | 146 | <p>●観光消費の拡大や地域振興に大きな効果が見込まれるクルーズ客船の寄港を継続・拡大させるため、広域連携等による積極的な誘致活動や受入態勢の充実強化に取り組み、クルーズ来県者数の拡大を図ります。〈県土〉</p> <p>○「クルーズ来県者数」（直近4年の累計） (‘17) 26,636人 → (‘22) 70,000人</p> | 推進 | | | | <p>●アフターコロナを見据え、クルーズ船寄港時の観光モデルコースを構築し、船社や旅行代理店等に情報を発信するとともに、関係機関と連携し、WITHコロナにおける安全安心な寄港を実現するため、感染予防対策の徹底を図ります。〈県土〉</p> <p>○「クルーズ来県者数」（直近4年の累計） (‘17) 26,636人 → (‘20) 35,000人</p> <p>○「クルーズ船寄港時の観光モデルコースの構築」（累計） (‘17) → (‘22) 10コース</p> | 17,000人 | 35,000人 | 52,000人 | 70,000人 | 17,000人 | 35,000人 | 二 | 二 | <p>新型コロナウイルス感染症の影響を受け、全国において昨年10月までクルーズ船の運航が中止となっていた。関係ガイドラインが策定され11月から国内クルーズが再開されたが、感染拡大の影響により一部の運航が中止になり、また、外国クルーズの再開時期は未定であるなど、クルーズ市場の回復が予測できない。このため、アフターコロナの寄港を見据え、観光コースを構築、情報発信することにより、新たな寄港につなげる。</p> | 県土 |
| 新規 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 346 | 3-2-4 | 146 | <p>●徳島小松島港沖洲（外）地区複合一貫輸送ターミナルの利用促進のため、「港内の静穏」と「船舶航行の安全」の向上を図る、防波堤延伸整備の促進及び、アクセスを向上させる臨港道路整備を推進します。〈県土〉</p> <p>○防波堤の延伸整備 (‘17) 工事促進中→(‘19) 完成</p> <p>○徳島東ICと複合一貫輸送ターミナルとを直結し、経済活性化と防災の両面に資する臨港道路の整備 (‘17) 整備中→(‘21) 部分供用・(‘22) 完成</p> | 推進 | | | | <p>○徳島沖洲ICと複合一貫輸送ターミナルとを直結し、経済活性化と防災の両面に資する臨港道路の整備 (‘17) 整備中→(‘21) 部分供用・(‘22) 完成</p> | | | | | | | <p>インターチェンジの正式な名称が決定したため、修正する。</p> | 県土 | | |

ターゲット3 「発展とくしま・革新創造」の実装

主要事業実施工程表 (3-3 世界へ雄飛！進化する徳島ブランドの展開)

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 351 | 3-3-2 | 148 | <p>● 主食用米を中心とする水稲経営の安定化及び生産者の経営判断に基づく需要に応じた米づくりを実現するため、多収品種の導入による低コスト化、「あきさかり」をはじめ高温耐性品種の普及による高品質化、輸出用米や飼料用米など新規需要米の導入を推進します。＜農林＞</p> | 推進 | | | | | | | | | | 農林 |
| | | | ○水稲の多収品種の作付面積 (‘17) 780ha→(‘22) 2,830ha | 1,780ha | 2,130ha | 2,480ha | 2,830ha | | | | | | | |
| | | | ○高温耐性品種の作付面積 (‘17) 474ha→(‘22) 2,550ha | 1,500ha | 1,850ha | 2,200ha | 2,550ha | | | | | | | |
| | | | ○県産米輸出数量 (‘17) 79トン→(‘22) 92トン | 83トン | 86トン | 89トン | 92トン | ○県産米輸出数量 (‘17) 79トン→(‘22) <u>200トン</u> | 83トン | 86トン | <u>180トン</u> | <u>200トン</u> | | |
| 355 | 3-3-2 | 149 | <p>● 県西部圏域（にし阿波）が、日本農業の原点である「世界農業遺産」や「食と農の景勝地」に認定されたことを契機に、持続力のある地域経済を実現するため、国内外への情報発信、伝統食材を活用した「もうかる農業」への取組み、農泊の活性化及び次世代への継承を推進します。（再掲）＜西部＞</p> | 推進 | | | | <p>● 県西部圏域（にし阿波）が、日本農業の原点である「世界農業遺産」や「食と農の景勝地」に認定されたことを契機に、持続力のある地域経済を実現するため、<u>オンライン等を活用して、万全の衛生対策を行うとともに、ニューノーマルに対応した</u>国内外への情報発信を効果的に行い、伝統食材を活用した「もうかる農業」、農泊の活性化及び次世代への継承を推進します。（再掲）＜西部＞</p> | | | | | | 西部 |
| | | | ○「世界農業遺産ブランド」認証件数（累計） (‘17) →(‘22) 50件 | 20件 | 40件 | 45件 | 50件 | ○「世界農業遺産ブランド」認証件数（累計） (‘17) →(‘22) <u>100件</u> | 20件 | 40件 | <u>90件</u> | <u>100件</u> | 令和2年度の実績(R2.12.28認証件数(累計)81件)が令和4年度の数値目標を大きく上回るため、さらなる「世界農業遺産ブランド」の認知度向上を目指し、認証件数の数値目標を上方修正する。 | |
| | | | ○とくしま農林漁家民宿の宿泊者数（西部圏域） (‘17) 2,265人→(‘22) 2,800人 | 2,500人 | 2,600人 | 2,700人 | 2,800人 | ○とくしま農林漁家民宿経営者への衛生対策等の啓発回数 (‘17) →(‘22)年間3回以上 | | | <u>3回</u> | <u>3回</u> | 新型コロナウイルス感染症の影響により、観光に対する社会的ニーズが変化しているため、「とくしま農林漁家民宿の宿泊者数(西部圏域)」を廃止し、今後は、とくしま農林漁家民宿経営者への衛生対策やスキルアップ向上のための研修会等を実施することにより、より安全・安心な受入体制を整備する。 | |
| | | | ○「世界農業遺産」戦略品目であるそば販売作付面積（累計） (‘17) 28.7ha→(‘22) 33ha | 30ha | 31ha | 32ha | 33ha | | | | | | 新型コロナウイルス感染症拡大により、地方回帰志向や農業への関心が高まる中、令和2年11月に創設された「にし阿波就農・移住応援隊」の機能を活用し、当地域の農業を支える新規就農者の育成に向けた農業研修を実施する。 | |
| | | | ○「世界農業遺産」戦略品目であるごうしゅいもを栽培する農林漁家民宿等の数（累計） (‘17) 25戸→(‘22) 50戸 | 35戸 | 40戸 | 45戸 | 50戸 | | | | | | | |
| | | | ○世界農業遺産フォーラム等の開催回数（累計） (‘17) →(‘22) 3回 | | 1回 | 2回 | 3回 | ○オンライン等を活用した 世界農業遺産フォーラム等の開催回数（累計） (‘17) →(‘22) <u>3回</u> | | | | | | |
| | | | ○にし阿波新規就農サポートチーム(仮称)の創設 (‘17) →(‘20)創設 | | | | | ○「にし阿波就農・移住応援隊」の創設 (‘17) →(‘20)創設 | | | | | | |
| 新規 | | | | | | | | ○オンライン等を活用した 「にし阿波就農・移住応援隊」による 農業研修支援者数 (‘17) →(‘22)年間5人以上 | | | <u>5人</u> | <u>5人</u> | | |

ターゲット3 「発展とくしま・革新創造」の実装

主要事業実施工程表 (3-3 世界へ雄飛！進化する徳島ブランドの展開)

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現 行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | | |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|----|--|-----------|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | | |
| 361 | 3-3-2 | 150 | ● 県産農産物のブランディングを図るため、食の宝庫徳島の地域資源を活用した6次産業化を推進します。 <商工・農林> | 推進 | | | | ● 県産農産物のブランディングを図るため、食の宝庫徳島の地域資源を活用した6次産業化とオンライン等を活用した販路開拓を推進します。 <商工・農林> | | | | | | | 新型コロナウイルスの影響により、県産品の展示会、商談会等が中止・延期となる中、オンラインによる出展などニューノーマル時代に適した販路開拓を推進する。 | 商工・ 農林 |
| | | | ○ 農工商連携等による6次産業化商品開発事業数(累計) (17) 273件→(22) 550件 | 370件 | 430件 | 490件 | 550件 | | | | | | | | | |
| | | | ○ 戦略的な販路開拓のための展示会・商談会への出展数(累計) (17) 241出展→(22) 540出展 | 360出展 | 420出展 | 480出展 | 540出展 | | | | | | | | | |
| | | | ○ 6次産業化法による「総合化事業計画」の認定数(累計) (17) 36件→(22) 47件 | 40件 | 42件 | 44件 | 47件 | | | | | | | | | |
| | | | ○ 6次産業化法に基づく「総合化事業計画」策定事業者の売上額 (17) 8.6億円→(22) 10.6億円 | 9.4億円 | 9.8億円 | 10.2億円 | 10.6億円 | | | | | | | | | |
| | | | ○ 6次産業化研究施設の利用者数 (17) →(19) ~ (22) 年間300人 | 300人 | 300人 | 300人 | 300人 | | | | | | | | | |
| 364 | 3-3-3 | 150 | ● 首都圏における情報発信と交流の拠点「Turn Table」において、メディア、飲食、食品企業関係者などへ「阿波ふうど」の魅力や価値を発信し、県産品の認知度向上、販路拡大を図るとともに、観光や文化など本県の魅力を発信し、徳島県そのもののブランディングを推進します。<農林> | 推進 | | | | ● 首都圏における情報発信と交流の拠点「Turn Table」において、消費者はもとより、メディア、飲食関係者などへ「徳島の食」の魅力や価値を発信するとともに、観光や文化など本県の魅力を体感してもらうことで、徳島県そのもののブランディングを推進します。 さらに、マルシェの拡充など、ニューノーマルに対応し、県産品の認知度向上、販路開拓に取り組みます。<農林> | 推進 | | | | | | 新型コロナウイルスの影響により、ホステル休業や飲食部門の営業自粛等により、大幅に利用者数・売上額が減少する中、感染症対策やマルシェの拡充などのニューノーマル対応に取り組み、徳島を体感してもらう場と機会のさらなる充実・強化を図るため、目標を見直す。 | 農林 |
| | | | ○ 「Turn Table」での販売総売上額 (17) 0.1億円→(22) 2.5億円 | 2.0億円 | 2.3億円 | 2.4億円 | 2.5億円 | ○ 「Turn Table」での販売総売上額 (17) 0.1億円→(22) 2.5億円 | 2.0億円 | 2.3億円 | 2.4億円 | 2.5億円 | | | | |
| | | | ○ 「Turn Table」の利用者数 (17) 0.6万人→(22) 3.5万人 | 2.8万人 | 3.0万人 | 3.2万人 | 3.5万人 | ○ 「Turn Table」の利用者数 (17) 0.6万人→(22) 4.0万人 | 2.8万人 | 3.0万人 | 3.5万人 | 4.0万人 | | | | |
| 366 | 3-3-3 | 151 | ● 畜産物について、TPP11や日EU・EPA発効によるグローバル化に対応するため、GAP・HACCPの認証取得支援による輸出促進などの「攻め」、経営安定対策などの「守り」に関する取組みを展開し、阿波尾鶏をはじめとした本県畜産ブランドの生産促進、競争力強化を推進します。<農林> | 推進 | | | | ● 畜産物について、TPP11や日EU・EPA発効等によるグローバル化に対応するため、GAP・HACCPの認証取得支援による輸出促進などの「攻め」、経営安定対策、生産基盤強化などの「守り」に関する取組みを展開し、阿波尾鶏をはじめとした本県畜産ブランドの生産促進、競争力強化を推進します。<農林> | | | | | | | 県は、生産者団体や乳業企業と、酪農振興に関する協定を締結し、高度な衛生管理に基づく乳業工場の整備など、生産基盤の強化を進めている。生産者の輸送コストの削減や地産地消による安全安心な牛乳・乳飲料の安定供給を推進するため、県内で生産された生乳の県内工場での受入れ割合に関する新たな数値目標を設定する。 | 農林 |
| | | | ○ 「阿波尾鶏」出荷羽数(地鶏肉)全国順位 (17) 全国1位(20年連続) →(22) 全国1位(25年連続) | 1位 | 1位 | 1位 | 1位 | | | | | | | | | |
| | | | ○ 牛・豚経営安定対策加入率 (17) 84%→(22) 89% | 87% | 87% | 88% | 89% | | | | | | | | | |
| | | | ○ 畜産物の海外輸出货量 (17) 54 t→(22) 120 t | 90t | 108t | 115t | 120t | | | | | | | | | |
| 新規 | | | | | | | | ○ 県内乳業工場に仕向けられる生乳割合 (17) →(22) 40% | | | | 37% | 40% | | | |
| | | | ○ 県有和牛雄牛を用いた人工授精頭数(累計) (17) →(22) 330頭 | 30頭 | 130頭 | 230頭 | 330頭 | | | | | | | | | |

ターゲット3 「発展とくしま・革新創造」の実装

主要事業実施工程表 (3-3 世界へ雄飛！進化する徳島ブランドの展開)

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | |
| 367 | 3-3-3 | 151 | <p>●水産業の成長産業化を図るため、漁協等が行う共同利用施設の整備を支援するなど、水産物の生産・流通機能を強化する取組みを推進します。<農林></p> <p>○「徳島の活體PRキャンペーン」参加店舗数(累計) (17) 55店舗→(22) 400店舗</p> <p>○県産水産物を使用する料理教室への参加者数(累計) (17) 234人→(22) 1,200人</p> <p>○水産物の生産・流通機能を強化する施設等の整備(累計) (17) 11施設→(22) 16施設</p> | 推進 | | | | <p>●水産業の成長産業化を図るため、漁協等が行う共同利用施設の整備や感染症対策を徹底した県産水産物のPRを支援するなど、水産物の生産・流通機能を強化する取組みを推進します。<農林></p> <p>○「徳島の水産物キャンペーン」参加飲食店舗数(累計) (17) 55店舗 → (22) 300店舗</p> <p>○県産水産物を使用する料理教室への参加者数(累計) (17) 234人→(22) 1,000人</p> | 推進 | | | | <p>徳島の活體PRキャンペーンについては、コロナ禍の影響により旬の時期を逸したため、令和2年度は開催中止とした。その代わりに、時期をずらして、県産水産物全般を対象を拡充し、「食べて応援！徳島の水産物キャンペーン」として、県内飲食店で開催した。令和3年度以降、県外の料理店にも拡大し、県内外で県産水産物のキャンペーンを展開することとしたため、目標を見直す。</p> <p>料理教室については、コロナ禍の影響によりその多くが中止となったものの、令和3年度以降は新しい生活様式に対応した料理教室の開催に向けて準備することとしている。このため、令和2年度にやむを得ず中止となった分について下方修正する。</p> | 農林 | |
| 370 | 3-3-3 | 152 | <p>●本県農林水産業の競争力を強化し、成長産業化の実現を図るため、IoT、ビッグデータ、AIなどの革新技術を活用した超省力・低コスト化技術や気候変動にも対応した品種の開発、温暖化のメリットを生かした新品目へのチャレンジなどを推進するとともに、新技術導入促進に向けた情報収集、実演会をはじめ情報提供により、現場への速やかな普及を図ります。(再掲)<農林></p> <p>○若手農林漁業者への支援創設(スマート農林水産業) (19) 創設</p> <p>○農林水産物の新品種・新技術の開発・導入数(累計) (17) 12件→(22) 42件</p> <p>○スマート化技術導入経営体数(累計) (17) 10経営体→(22) 60経営体</p> | 推進 | | | | <p>○スマート農業支援サービス組織数(累計) (17) →(22) 6組織</p> | | | | | <p>スマート農業の普及拡大を図るため、ドローンによる農業散布などの作業代行やスマート農機のレンタル・シェアリングなど、スマート農業技術を活用した支援サービスを提供する組織数に関する新たな目標を設定する。</p> | 農林 | |
| 新規 | | | <p>○熱帯性果樹の栽培実証経営体数(累計) (17) →(22) 10経営体</p> | 1 経営体 | 4 経営体 | 7 経営体 | 10 経営体 | | | | | 3 組織 | 6 組織 | | |
| 373 | 3-3-3 | 152 | <p>●本県の特産品である、「藍」の振興を図るため、タテ藍の栽培における収穫・出荷調整作業の省力化、農福連携による生産体制の確立等、課題解決に向けた取組みを実施し、栽培面積の拡大に努めます。<農林></p> <p>○タテ藍の栽培面積 (17) 16ha→(22) 25ha</p> | 推進 | | | | <p>●本県の特産品である、「藍」の振興を図るため、タテ藍の専用収穫機導入による収穫・出荷調整作業の省力化、感染症対策を徹底した農福連携による生産体制の確立等、課題解決に向けた取組みを実施し、栽培面積の拡大と生産性の向上に努めます。<農林></p> <p>○タテ藍の収穫面積 (17) 16ha→(22) 34ha</p> | | | | | <p>17ha</p> <p>25ha</p> <p>29ha</p> <p>34ha</p> | <p>新型コロナウイルスの影響により、労働力の不足や作業効率の低下を招く中、藍の専用収穫機の導入による省力化や、感染症対策を徹底した生産体制の確立を推進し、2番刈りまで収穫回数を増やすなど、単位面積あたりの生産性向上に取り組みすることとしたため、目標を見直す。</p> | 農林 |
| 377 | 3-3-4 | 153 | <p>●経済のグローバル化に柔軟かつ適切に対応し、本県畜産業の持続的発展を図るため、国内外から評価される安全安心な本県畜産物の輸出促進に向け、農場HACCP、JGAP家畜・畜産物等の認証取得を推進します。(再掲)<農林></p> <p>○農場HACCP認証等取得件数(累計) (17) 6件→(22) 14件</p> <p>○とくしま三ツ星ビーフ認定生産者件数(累計) (17) →(22) 5件</p> | 推進 | | | | <p>○畜産GAP・農場HACCP認証等取得件数(累計) (17) 6件→(22) 15件</p> | | | | | <p>11件</p> <p>12件</p> <p>14件</p> <p>15件</p> | <p>安全・安心で高品質な県産畜産物の輸出拡大を図るため、国際認証である畜産GAPの取得推進を明示するとともに、併せて目標を上回るペースで認証取得の取組が進んでいることから、目標を上方修正する。</p> | 農林 |

ターゲット3 「発展とくしま・革新創造」の実装

主要事業実施工程表 (3-3 世界へ雄飛！進化する徳島ブランドの展開)

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現 行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | | | |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|----|--|--|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | | | |
| 388 | 3-3-6 | 155 | <ul style="list-style-type: none"> 県内企業の海外展開・販路拡大を促進するため、「徳島県経済グローバル化対応基本方針」に基づき、新たにワンストップ相談窓口を設置するとともに、国際ビジネスの即戦力となる人材育成、商談会開催や海外見本市への支援等を通じたビジネスチャンスの創出により、県内企業のグローバル展開を支援します。<商工> | 実施 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 県内企業の海外展開・販路拡大を促進するため、「徳島県経済グローバル化対応基本方針」に基づき、新たにワンストップ相談窓口を設置するとともに、国際ビジネスの即戦力となる人材育成に取り組みます。また、商談会開催や海外見本市への出展支援、WEBを活用したバーチャル商談会等を通じたビジネスチャンスの創出により、県内企業のグローバル展開を支援します。<商工> | | | | | | 新型コロナウイルス感染症拡大により、海外での商談・見本市が中止となるなど、商談機会の減少を余儀なくされている県内中小企業の販路拡大を、WEB商談等ニューノーマルの手法を活用した支援を行う。 | 商工 | |
| | | | ○徳島県の輸出額 (徳島県貿易・国際事業実態調査、中小企業分) (暦年) (16) 175億円→(22) 249億円 | | 212億円 | 224億円 | 236億円 | 249億円 | | | | | | | | | |
| | | | ○徳島県の輸出企業数 (徳島県貿易・国際事業実態調査、中小企業分) (暦年) (16) 116社→(22) 145社 | | 133社 | 137社 | 141社 | 145社 | | | | | | | | | |
| | | | ○EPA加盟国を対象にした商談会 (19)～(22) 開催 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○海外食品フェア・機械金属見本市 (19)～(22) 開催 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○「とくしま海外展開支援プラットフォーム」の構築 (19) 構築 | | | | | | | | | | | | | | |
| 389 | 3-3-6 | 155 | <ul style="list-style-type: none"> 国内外における県産品の認知度向上や販路拡大を図るため、「市場調査」、「商品開発」、「情報発信」、「販路拡大・販売促進」等を柱とした「とくしま県産品振興戦略(第3期)」に基づき、新たな視点での商品開発や各種フェアの開催、見本市への出展など戦略的に施策を推進し、県産品の売り上げ向上に取り組みます。<商工> | 推進 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 国内外における県産品の認知度向上や販路拡大を図るため、「市場調査」、「商品開発」、「情報発信」、「販路拡大・販売促進」等を柱とした「とくしま県産品振興戦略(第3期)」に基づき、新たな視点での商品開発やWEB商談会を含む各種フェアの開催、見本市への出展など戦略的に施策を推進し、県産品の売り上げ向上に取り組みます。<商工> | | | | | | | 新型コロナウイルス感染症拡大により、国内外における商談・見本市が中止となるなど、商談機会の減少を余儀なくされている県内中小企業に対し、WEB商談等ニューノーマルの手法を活用した支援を行う。 | 商工 |
| | | | ○県がサポートする県外・海外商談会及びフェアにおける成約・売上額 (17) 3.9億円→(22) 6.4億円 | | 4.8億円 | 5.3億円 | 5.8億円 | 6.4億円 | | | | | | | | | |
| 390 | 3-3-6 | 155 | <ul style="list-style-type: none"> 自由貿易圏の拡大を好機と捉え、県内企業の海外販路開拓・海外展開を支援するため、東アジア・東南アジアを重点エリアと定め、上海事務所を前線基地として活用し、商談機会の拡大や海外企業と本県企業との交流を推進します。<商工> | 推進 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 自由貿易圏の拡大を好機と捉え、県内企業の海外販路開拓・海外展開を支援するため、東アジア・東南アジアを重点エリアと定め、上海事務所を前線基地として活用するとともに、WEB商談会等のニューノーマルの手法を駆使し、商談機会の拡大や海外企業と本県企業との交流を推進します。<商工> | | | | | | | 渡航制限等の影響はあるが、WEB商談会等ニューノーマルの手法を取り入れ、目標達成に取り組む。 | 商工 |
| | | | ○商談会・フェア等延べ参加企業数 (17) 101社 →(22) 150社 | | 135社 | 140社 | 145社 | 150社 | | | | | | | | | |

ターゲット3 「発展とくしま・革新創造」の実装

主要事業実施工程表 (3-4 世界スタンダード！徳島未来教育の創造)

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 392 | 3-4-1 | 156 | <ul style="list-style-type: none"> 国際性豊かな児童生徒を育むため、日本人としてのアイデンティティの確立や英語教育の充実を図るとともに、外国人との交流や体験活動の機会の提供及び海外留学の支援により、異文化理解やコミュニケーション能力の育成などを推進します。＜教育＞ | 推進 | | | | <ul style="list-style-type: none"> オンライン交流をはじめ、ニューノーマルに対応した体験活動の形で、国際性豊かな児童生徒を育むため、日本人としてのアイデンティティの確立や英語教育の充実を図るとともに、外国人との交流や体験活動の機会の提供及び海外留学の支援により、異文化理解やコミュニケーション能力の育成などを推進します。＜教育＞ | | | | | 「新型コロナウイルス感染症」の影響を受け、令和2年度は夏休みに事業も実施できなかったことにより、秋以降に回数を減らし、人数を減らして実施している状況である。また、海外留学に関しては、諸外国との交流ができなため実施できていない。しかし来年度以降は、感染防止対策をしっかりと行った上で事業を実施し、海外の情勢を鑑みながら留学を促進していき、WITHコロナ時代の新しい手法として、GIGAスクール構想を取り入れたオンライン留学を進めていく。 | 教育 |
| | | | ○小学生の英語体験活動の年間参加者数(累計) (17) 371人→(22) 995人 | 590人 | 725人 | 860人 | 995人 | | | | | | | |
| | | | ○小学校3、4年生対象「親子で学ぶわくわくイングリッシュデイ」の創設 (19) 創設 | | | | | | | | | | | |
| | | | ○中学生の留学、英語体験宿泊活動の年間参加者数(累計) (17) 136人→(22) 480人 | 270人 | 340人 | 410人 | 480人 | | | | | | | |
| | | | ○高校生の留学(疑似留学体験、海外語学研修を含む)者数(7日以上) (17) 174人→(22) 240人 | 180人 | 200人 | 220人 | 240人 | | | | | | | |
| 398 | 3-4-2 | 157 | <ul style="list-style-type: none"> 子どもの学びの連続性を踏まえ、教育の質の向上を図るため、小・中学校間における教員の安定した人事交流を推進します。 また、グローバル人材の育成に向け、新しい教育課程に対応した英語教育の充実を図るため、小学校英語専科教員の配置を推進するとともに、小・中・高・特別支援学校の教員を対象に、英語教育充実のための研修を推進します。特に、小学校の教科化を踏まえ、小学校教員の受講者数を拡大します。＜教育＞ | 推進 | | | | <ul style="list-style-type: none"> 子どもの学びの連続性を踏まえ、教育の質の向上を図るため、小・中学校間における教員の安定した人事交流を推進します。 また、グローバル人材の育成に向け、新しい教育課程に対応した英語教育の充実を図るため、小学校英語専科教員の配置を推進するとともに、小・中・高・特別支援学校の教員を対象に、英語教育充実のためのオンラインを活用した手法を取り入れた研修を推進します。特に、小学校の教科化を踏まえ、小学校教員の受講者数を拡大します。＜教育＞ | | | | | 新型コロナウイルス感染症への対応等により、オンラインを含めた研修形態の見直しを行うことで、研修の質を落とすことなく、内容の充実と参加しやすい環境を整えていく。 | 教育 |
| | | | ○小・中学校間における教員の安定した人事交流の推進 (17) 18人→(22) 18人 | 18人 | 18人 | 18人 | 18人 | | | | | | | |
| | | | ○小学校英語専科教員の配置 (17) 10人→(22) 16人 | 14人 | 16人 | 16人 | 16人 | | | | | | | |
| | | | ○英語教育充実のための研修における小学校教員の受講者数(累計) (17) 436人→(22) 1,580人 | 830人 | 1080人 | 1330人 | 1580人 | | | | | | | |
| 399 | 3-4-2 | 157 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の社会的・職業的自立に向けた基礎的な能力の向上や勤労観・職業観の育成を図るため、インターンシップや資格取得を促進するなど、県下全域におけるキャリア教育を推進します。＜教育＞ | 推進 | | | | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の社会的・職業的自立に向けた基礎的な能力の向上や勤労観・職業観の育成を図るため、オンラインの活用等、多様な手法を取り入れたインターンシップや資格取得を促進するなど、県下全域におけるキャリア教育を推進します。＜教育＞ | | | | | コロナ禍においてインターンシップの実施が難しくなる中、多様な手法により、生徒の社会的・職業的自立に向けた基礎的な能力の向上や勤労観・職業観の育成を図っていく必要がある。 | 教育 |
| | | | ○高校におけるインターンシップの実施率(全日制・定時制) (17) 97.6%→(19) ~ (22) 100% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | | | | | | | |
| 402 | 3-4-2 | 158 | <ul style="list-style-type: none"> テレビ会議システム等のICTを活用した、公立学校での遠隔指導・授業や交流学習、研修、会議等を推進します。＜教育＞ | 推進 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ○高校での双方向遠隔授業・講座の実施回数 (17) 15回→(22) 70回 | 22回 | 24回 | 70回 | 70回 | 平成27年度より文部科学省の指定を受け、海部高校において小規模校における生徒の多様な学習ニーズへの対応を目的とした単位認定を伴う通年の遠隔授業の実証研究に取り組んできた。その研究成果を踏まえ、令和3年度より海部高校における遠隔授業を実施段階に移行するため、実施回数の上方向修正を行う。 | 教育 |
| | | | ○高校での双方向遠隔授業・講座の実施回数 (17) 15回→(22) 28回 | 22回 | 24回 | 26回 | 28回 | | | | | | | |

ターゲット3 「発展とくしま・革新創造」の実装

主要事業実施工程表（3-4 世界スタンダード！徳島未来教育の創造）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 403 | 3-4-2 | 158 | ●タブレット端末等を取り入れた指導ができるよう、教職員のICT活用指導力の向上を目指します。＜教育＞ | 推進 | | | | ●GIGAスクール構想の実現に向け、小中高一貫で整備した児童生徒1人1台端末をフル活用した授業が、全ての学校で実施できるよう、全教職員のICT活用指導力の向上を目指します。＜教育＞ | | | | | GIGAスクール構想の実現に向け、小中高一貫で整備した児童生徒1人1台端末をフル活用した授業が、全ての学校で実施できるよう、全教職員のICT活用指導力の向上を図るため、新たな数値目標を設定する。 | 教育 |
| | | | ○ICTを活用した授業実践の研修受講者数 (17) 400人→(22) 440人 | 410人 | 420人 | 430人 | 440人 | ○県内公立学校におけるGIGAスクール構想に関する研修の実施率 (17) →(22) 100% | | | 100% | 100% | | |
| 404 | 3-4-2 | 158 | ●ビッグデータを活用したe-learning等のICTによる個に応じた学習を推進するとともに、プログラミング的思考等の情報活用能力を育成する学習活動の充実を図ります。(再掲)＜教育＞ | 推進 | | | | ●ビッグデータを活用したe-learning等のICTによる個に応じた学習を推進するとともに、プログラミング的思考等の情報活用能力を育成する学習活動の充実を図ります。また、児童生徒の学力や学習意欲、さらには教員の指導力等本県の総合的な教育力を向上させ、新しい未来を創造できる人材の育成に役立てるため、ビッグデータの分析・活用方法について学習活動の充実を図ります。(再掲)＜教育＞ | | | | | ビッグデータを活用したe-learning等による個に応じた学習の推進と、プログラミング的思考力を含む情報活用能力の育成が必要であることが明らかとなったことから、両方の力を育成できるビッグデータの分析・活用に係る学びを充実させることにより、生徒及び教員の情報活用能力の向上を図るため、新たな数値目標を設定する。 | 教育 |
| | | | ○ビッグデータ実証事業における活用者数 (17) 140人→(22) 600人 | 400人 | 460人 | 530人 | 600人 | ○「高校生ビッグデータ活用コンテスト」参加校数 (17) →(22) 6校 | | | 3校 | 6校 | | |
| 新規 | | | | | | | | ●GIGAスクール構想で整備される環境を活用し、児童生徒1人1人に個別最適な学びや協働的な学び、先端技術を活用した学びを推進します。また、学校の臨時休業などの緊急時においても、子供たちの「学びの保障」と「教育の機会均等」を図るため、オンライン学習のための家庭の通信環境整備の支援を行います。＜教育＞ | | | 推進 | | 徳島県GIGAスクール構想に基づき、県内の小中高の児童生徒に1人1台整備されるタブレット端末を効果的に活用し、1人1人に個別最適化され、個々の資質能力を一層確実に育成できる学びを推進するとともに、学校の臨時休業などの緊急時においても、子供たちの「学びの保障」と「教育の機会均等」を図るため、新たな目標を設定する。 | 教育 |
| | | | | | | | | ○県内公立学校（特別支援学校を含む）における活用事例数（累計） (17) →(22) 200件 | | | 100件 | 200件 | | |
| | | | | | | | | ○県立高校における指導者用デジタル教科書の整備率 (17) →(22) 100% | | | 100% | 100% | | |
| | | | | | | | | ○AR・VR等デジタルコンテンツ授業実施回数（累計） (17) →(22) 30回 | | | 15回 | 30回 | | |
| | | | | | | | | ○ネット環境のない県立高校生世帯に対する貸出用モバイルルーター整備率 (17) →(22) 100% | | | 100% | 100% | | |
| 406 | 3-4-2 | 158 | ●農工商教育の活性化を図るため、第2期「徳島県農工商教育活性化方針」を策定し、高校における農工商教育の活性化に取り組むとともに、農工商が連携し、徳島ならではの地域資源を十分に生かした6次産業化教育を推進します。＜教育＞ | 推進 | | | | ●高校における農工商教育の活性化を図るため、農工商の学校間連携・生徒間協働活動において、オンライン会議の活用や、ニューノーマルに対応した形式での実習等を行うことで、徳島ならではの地域資源を十分に生かした6次産業化教育を推進します。＜教育＞ | | | | | 「新型コロナウイルス感染症」の影響により、5月20日まで臨時休業を行っており、学校間連携・生徒間協働活動及び地域の企業等との連携が十分に進めることができず、今年度の取組を次年度に向けての準備期間とすることで、成果・効果の更なる向上を目指し、6次産業化商品の開発目標数値について下方修正する。 | 教育 |
| | | | ○地域の企業等で販売される6次産業化商品の開発数 (累計) (17) →(22) 9商品 | | 3商品 | 6商品 | 9商品 | ○地域の企業等で販売される6次産業化商品の開発数 (累計) (17) →(22) 4商品 | | | 2商品 | 4商品 | | |
| 新規 | | | | | | | | ○ニューノーマルに対応した形式での販売実習・販売促進イベント回数（累計） (17) →(22) 4回 | | | 2回 | 4回 | | |

ターゲット3 「発展とくしま・革新創造」の実装

主要事業実施工程表 (3-4 世界スタンダード！徳島未来教育の創造)

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|---|--------------|--------------|---------------|--|---|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | |
| 新規 | | | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ● 新たなビジネスを創造し、地域の活性化及び地方創生を担う人材を育成するため、外部人材を活用した専門性の高い商業教育の実現及び本県ならではの特色ある商業教育を推進します。<教育> | | | 推進 | | 令和3年度当初予算案において、「ビジネス創造人材育成事業」を盛り込んだことから、主要事業及びそれに対する数値目標を追加する。 | 教育 | |
| | | | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 外部人材活用講座数(累計) —('17)→('22)3講座 | | | | 2講座 | 3講座 | | |
| 407 | 3-4-2 | 158 | <ul style="list-style-type: none"> ● 産業技術の進展や企業が求める人材の育成を図るため、産業界や大学と連携し、専門教育の充実に取り組むとともに、高校生の活動を広く県民にアピールします。<教育> | 推進 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ● 産業技術の進展や企業が求める人材の育成を図るため、産業界や大学と連携し、専門教育の充実に取り組むとともに、感染症対策の徹底などニューノーマルに対応した形式で高校生の活動を広く県民にアピールします。<教育> | | | | | | イベント時における3密の回避やオンラインを活用した開催が推進されており、新しい生活様式に合わせた効果的な開催へと繋げる。 | 教育 |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 高校生産業教育展における来場者数 ('17) 1,850人→('22) 2,100人 | | 1,950人 | 2,000人 | 2,050人 | 2,100人 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 高校生産業教育展における来場者数 ('17) 1,850人→('22) 1,200人 | 1,950人 | 2,000人 | 1,200人 | 1,200人 | | |
| 408 | 3-4-3 | 159 | <ul style="list-style-type: none"> ● すべての学校・園に学力向上検討委員会を設置し、学力向上推進員を中心に児童生徒の学力向上を図るとともに、各学校の取組みを情報発信します。<教育> | 全国平均正答率以上 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ● すべての学校・園に学力向上検討委員会を設置し、学力向上推進員を中心に児童生徒の学力向上を図るとともに、各学校の取組みを情報発信します。また、学校訪問により、一人一台端末を活用した授業改善への支援を行うとともに、大学と連携した学校訪問を充実させ、学力向上を図ります。<教育> | | | | | | タブレット等の端末が一人一台導入されるのに伴い、タブレット等の端末を有効活用して、児童生徒の資質・能力を伸ばしていく。端末利用の長所を見極めた授業展開や児童生徒の個々の状況に応じた学習を推進し、学力向上につなげる。 | 教育 |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「全国学力・学習状況調査」における県平均正答率 ('19)～('22) 調査で対象となっている国語・算数(数学)で全国平均正答率以上 | | | | | | | | | | | | |

ターゲット3 「発展とくしま・革新創造」の実装

主要事業実施工程表 (3-4 世界スタンダード！徳島未来教育の創造)

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現 行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し素) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 413 | 3-4-4 | 160 | ● 児童生徒の実態把握をもとに、学校・家庭・地域が連携した取組みを実施し、児童生徒の体力向上を図ります。また、「元気なあわっ子憲章」のもと、子どもたちが健康について学び、自ら考え、実践できるよう、学校・家庭・地域・専門機関等が連携して取り組みます。特に、子どもたちの望ましい生活習慣の定着を図るため、すべての小中高校で生活習慣改善計画を策定し、実践に取り組みることにより、肥満予防・肥満対策、生活習慣病予防対策を推進します。さらに、朝食摂取や生活習慣病予防など、発達段階に応じた望ましい食習慣の形成に向けた取組みとともに、飲酒・喫煙・薬物乱用に対する正しい知識理解を深め、望ましい行動選択ができる子どもの育成を目指します。 <教育> | 推進 | | | | ● 児童生徒の実態把握をもとに、学校・家庭・地域が連携した取組みを実施し、児童生徒の体力向上を図ります。また、「元気なあわっ子憲章」のもと、子どもたちが健康について学び、自ら考え、実践できるよう、学校・家庭・地域・専門機関等が連携して取り組みます。特に、子どもたちの望ましい生活習慣の定着を図るため、すべての小中高校で生活習慣改善計画を策定し、 タブレット端末を活用して、身長・体重を定期的に記録、グラフ化し、成長曲線と対比する などの実践に取り組みることにより、肥満予防・肥満対策、生活習慣病予防対策を推進します。さらに、朝食摂取や生活習慣病予防など、発達段階に応じた望ましい食習慣の形成に向けた取組みとともに、飲酒・喫煙・薬物乱用に対する正しい知識理解を深め、望ましい行動選択ができる子どもの育成を目指します。<教育> | | | | | タブレット等の端末が一人一台導入されるのに伴い、タブレット等の端末を有効活用した生活習慣改善への取組みを実施する。 | 教育 |
| | | | ○「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果において全国平均を上回る種目数 (17) 11種目→(19)～(22) 毎年17種目 | 17種目 | 17種目 | 17種目 | 17種目 | | | | | | | |
| | | | ○全ての公立学校児童生徒の学校保健情報を電子化 (17) →(22) 運用 | | | | | | | | | | | |
| | | | ○肥満傾向の児童生徒数(小中学校)(再掲) (17) 4,979人→(22) 2017年度比6%減 | 1.5%減 | 3%減 | 4.5%減 | 6%減 | | | | | | | |
| | | | ○小中学校への栄養教諭の配置人数(再掲) (17) 57人→(22) 64人 | 61人 | 62人 | 63人 | 64人 | | | | | | | |
| | | | ○栄養教諭・学校栄養職員による食に関する授業を半分以上の学年で実施する小・中学校の割合 (17) 100%→(19)～(22) 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | | | | | | | |
| | | | ○薬物乱用防止教室を開催する中・高等学校の割合 (17) 100%→(19)～(22) 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | | | | | | | |
| 415 | 3-4-4 | 160 | ● 牟岐少年自然の家を活用し、地域住民の参画を得て、地域の自然や文化活動を活かした自然体験、交流体験、食育等を推進します。<教育> | 推進 | | | | ● 牟岐少年自然の家を活用し、地域住民の参画を得て、地域の自然や文化活動を活かした自然体験 や出張授業による自然学習 、交流体験、食育等を推進します。<教育> | | | | | 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、牟岐少年自然の家の利用ができない学校等に向けて地元資源を活用した自然体験などの出前授業を実施しており、今後も積極的に取組を進めていくため、事業の概要に追記する。 | 教育 |
| | | | ○牟岐少年自然の家を拠点とし、地元住民との交流を含む自然体験・交流体験等への参加者数 (17) 800人→(19)～(22) 年間900人 | 900人 | 900人 | 900人 | 900人 | | | | | | | |
| 423 | 3-4-6 | 162 | ● 障がいのある子供とない子供が、共に学ぶインクルーシブ教育システムにおける多様な学びの場の充実を図るため、ポジティブな行動支援に取り組むことにより、県下全域におけるきめ細かな特別支援教育の充実を図ります。 <教育> | 推進 | | | | ● 障がいのある子供とない子供が、共に学ぶインクルーシブ教育システムにおける多様な学びの場の充実を図るため、 オンライン研修等を活用し、ポジティブな行動支援の理解を深め実践することにより、県下全域におけるきめ細かな特別支援教育の充実を図ります。 <教育> | | | | | 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、今後も状況によっては難しくなる場合があることが予測される。そこで、オンラインでの研修等を活用し、ポジティブな行動支援を実践する上での基本的な知識や技術をより多くの教員等に学んでもらい、ポジティブな行動支援の浸透を図る。 | 教育 |
| | | | ○「ポジティブな行動支援」に取り組んだ園・学校の割合 (17) →(22) 100% | 40% | 60% | 80% | 100% | | | | | | | |

ターゲット3 「発展とくしま・革新創造」の実装

主要事業実施工程表 (3-4 世界スタンダード！徳島未来教育の創造)

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | |
|-----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|----|--|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | |
| 429 | 3-4-7 | 162 | <ul style="list-style-type: none"> ● 高等教育の充実・発展や地域の活性化を図るため、「とくしま産学官連携プラットフォーム」を核として、地域で必要とされる人材の育成や、県内の課題解決につながる実践的な取組みを推進します。(再掲) <政策> | 推進 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ● 高等教育の充実・発展や地域の活性化を図るため、県が参画する「とくしま産学官連携プラットフォーム」、「コンソーシアムとくしま」を核に実施する、地域で必要とされる人材の育成や、県内の課題解決につながる実践的な取組みを、積極的にオンラインを活用した、ニューノーマルに対応した形式で推進します。(再掲) <政策> | | | | | 「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大防止を図りつつ、人材育成や県内の課題解決につながる取組みを行うため。 | 政策 | |
| | | | ○プラットフォームを核として実施する事業数 (’17) →(’19) ~ (’22) 年間8件 | 8件 | 8件 | 8件 | 8件 | | | | | | | | |
| 431 | 3-4-7 | 163 | <ul style="list-style-type: none"> ● 地方創生の若手リーダーを育成するため、若者が様々な立場の人と未来志向で対話する場を提供します。 <未来> | 推進 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ● 地方創生の若手リーダーを育成するため、ニューノーマルに対応した手法を活用しながら、若者が様々な立場の人と未来志向で対話する場を提供します。 <未来> | | | | | コロナの影響を受け、令和2年度は事業を中止したため、オンラインによる開催を推進する。 | 未来 | |
| | | | ○若者の対話の場への参加者数(累計) (’17) 480人→(’22) 1,000人 | 600人 | 700人 | 800人 | 1,000人 | | | | | | | | |
| 434 | 3-4-7 | 163 | <ul style="list-style-type: none"> ● 青少年の健全育成につながる様々な青少年活動の拠点として「徳島県青少年センター」の機能を発揮させるため、青少年のニーズやライフスタイルの多様化に対応した魅力的な管理運営を行い、更なる利用を促進します。 <未来> | 推進 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ● 青少年の健全育成につながる様々な青少年活動の拠点として「徳島県青少年センター」の機能を発揮させるため、青少年のニーズやライフスタイルの多様化に対応した魅力的な管理運営を行い、更なる利用を促進します。また、青少年のニーズやライフスタイルの多様化に対応し、県都のにぎわいを創出するため、青少年自らが行動し、未来を切り拓くために必要な場と機会を提供する拠点として「新たな青少年センター」を整備します。 <未来> | 推進 | | | | <p>アミコビルへ移転する新たな青少年センターについて、R4年度早期開館を予定しているため、現在の青少年センターの利用者数を修正するとともに、新たな目標を設定する。</p> | 未来 | |
| | | | ○徳島県青少年センター利用者数 (’17) 206,729人→(’19) ~ (’22) 年間23万人 | 23万人 | 23万人 | 23万人 | 23万人 | ○徳島県青少年センター利用者数 (’17) 206,729人→(’19) ~ (’21) 年間23万人 | 23万人 | 23万人 | 23万人 | = | | | |
| 新規 | | | | | | | | ○ 新たな青少年センターの整備 (’22) 開館 | | | | | | | |

ターゲット3 「発展とくしま・革新創造」の実装

主要事業実施工程表 (3-5 ポスト東京オリパラ！経済好循環へ)

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|-------------------------|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | |
| 435 | 3-5-1 | 164 | ● 中小企業の販路開拓を支援するため、企業への積極的な情報提供を行い、県内のみならず、関西広域やアジアをはじめとする海外市場での展示商談会での取引支援を通じて、ビジネスマッチングを図るとともに、下請取引の適正化にも取り組めます。〈商工〉 ○取引成立額 (‘17) 202百万円→(‘19) ~ (‘22) 年間220百万円 | 支援 | | | | | ● 中小企業の販路開拓を支援するため、企業への積極的な情報提供を行い、県内のみならず、関西広域やアジアをはじめとする海外市場での展示商談会や、WEB商談会での取引支援を通じて、ビジネスマッチングを図るとともに、下請取引の適正化にも取り組めます。〈商工〉 | | | | | 新型コロナウイルス感染症拡大により、国内外における商談・見本市が中止となるなど、商談機会の減少を余儀なくされている県内中小企業に対し、WEB商談等ニューノーマルの手法を活用した支援を行う。 | 商工 |
| | | | ○取引成立額 (‘17) 202百万円→(‘19) ~ (‘22) 年間220百万円 | 220 百万円 | 220 百万円 | 220 百万円 | 220 百万円 | | | | | | | | |
| 437 | 3-5-1 | 164 | ● 県内中小企業者の資金繰りの円滑化を推進するため、民間金融機関等との適切な連携のもとで、低金利・低保証料の融資制度の充実・強化を図ります。〈商工〉 ○低利・低保証料の融資制度の充実・強化 | 充実・ 強化 | | | | | ● 県内中小企業者の資金繰りの円滑化を推進するため、民間金融機関等との適切な連携のもとで、低金利・低保証料の融資制度の充実・強化を図ります。また、「保証料ゼロ・3年間無利子・信換え可能」な融資と運動した「融資運動型給付金」制度を創設し、新型コロナウイルス感染症の影響により、甚大な影響を受けた県内企業の事業継続を強力に支援します。〈商工〉 | | | | | 「新型コロナウイルス感染症」により、売上高の大幅な減少等、甚大な影響を被っている県内事業者の資金繰りと再起に向けた取組みを支援する。 | 商工 |
| | | | ○低利・低保証料の融資制度の充実・強化 | | | | | | | | | | | | |
| 438 | 3-5-1 | 164 | ● 県内企業の技術・経営資源を次世代に引き継ぐため、県内の各支援機関等からなる事業承継ネットワークを効果的に活用し、事業承継への意識啓発や支援を行います。〈商工〉 ○事業引継ぎ支援センター成約件数(累計) (‘17) 32件→(‘22) 64件 | 推進 | | | | | ○事業引継ぎ支援センター成約件数(累計) (‘17) 32件→(‘22) 100件 | | | | | 経営者の高齢化や地域の人口減少が進むなか、事業を長期的に継続していただくため、事業承継ネットワークの更なる連携強化やマッチングイベントの充実を図ることにより、成果・効果の更なる向上を目指し、目標値を上方修正する。 | 商工 |
| | | | ○事業引継ぎ支援センター成約件数(累計) (‘17) 32件→(‘22) 64件 | 44件 | 50件 | 57件 | 64件 | ○事業引継ぎ支援センター成約件数(累計) (‘17) 32件→(‘22) 100件 | 44件 | 50件 | 85件 | 100件 | | | |
| 443 | 3-5-1 | 165 | ● Society5.0を支える社会インフラとなる「マイナンバーカード」の利便性を広く県民に周知するとともに、「自治体ポイント」を県下全域に広め、利用可能店舗やサービスの拡充を図ります。(再掲)〈政策〉 ○マイナンバーカード交付率(累計) (‘17) 8.8%→(‘22) 50% | 推進 | | | | | ● Society5.0を支える社会インフラとなる「マイナンバーカード」の取得を促進するため、健康保険証利用のメリットをはじめ、利便性を広く県民に周知するとともに、「自治体ポイント」を県下全域に広め、利用可能店舗やサービスの拡充を図ります。(再掲)〈政策〉 | | | | | デジタル社会のパスポートであるマイナンバーカードについては、国において、令和4年度末までにほぼ全国民に行き渡ることを目指すとされている。このため、県としては、高齢者や障がい者等がデジタル化の波に取り残されることがないように、カードの取得を支援し、利便性の高いデジタル社会の実現に向けて取り組む。 また、令和3年3月から開始予定のマイナンバーカードの健康保険証利用については、被保険者・医療機関双方にとってメリットがあることから、そのメリットの周知を行うことにより、マイナンバーカードの取得促進につなげる。 | 政策 |
| | | | ○マイナンバーカード交付率(累計) (‘17) 8.8%→(‘22) 50% | 20% | 40% | 45% | 50% | ○マイナンバーカード交付率(累計) (‘17) 8.8%→(‘22) 100% | 20% | 40% | 70% | 100% | | | |
| 446 | 3-5-2 | 166 | ● 地方創生の動きを更に加速させるため、全国屈指の光ファイバー環境や立地優遇制度を活かし、大都市圏等から、成長分野関連企業、情報通信関連産業、サテライトオフィス等の誘致や本社機能移転を推進し、本県経済の活性化及び雇用機会の確保を図ります。(再掲)〈政策・商工・南部・西部〉 ○本県への本社機能誘致(累計) (‘17) 4社→(‘22) 12社 ○成長分野関連企業等の奨励指定における立地数(累計) (‘17) 69社→(‘22) 110社 | 推進 | | | | | ● 全国屈指の光ファイバー環境やオータム型立地優遇制度を活かし、コロナ禍における地方分散の流れや工場地点化を加速させるため、経営や雇用に深刻な影響を受けた企業に対する要件緩和や、DX投資促進のための改正を行うなど、大都市圏等から、成長分野関連企業、情報通信関連産業、サテライトオフィス等の誘致や本社機能移転を推進し、本県経済の活性化及び雇用機会の確保を図ります。(再掲)〈政策・商工・南部・西部〉 | | | | | 新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい経営環境下においても、県内経済の持続的な成長と雇用を創出する企業の投資計画を支援するため、「企業立地優遇制度」の奨励指定及び補助要件を緩和し、立地企業の安定的かつ持続的な操業を支援する。 | 政策・ 商工・ 南部・ 西部 |
| | | | ○本県への本社機能誘致(累計) (‘17) 4社→(‘22) 12社 | 8社 | 9社 | 10社 | 12社 | | | | | | | | |
| | | | ○成長分野関連企業等の奨励指定における立地数(累計) (‘17) 69社→(‘22) 110社 | 92社 | 98社 | 104社 | 110社 | | | | | | | | |

ターゲット3 「発展とくしま・革新創造」の実装

主要事業実施工程表 (3-5 ポスト東京オリパラ！経済好循環へ)

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現 行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | | | |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------------------------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|----|---|---|-----------|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | | | |
| 451 | 3-5-3 | 167 | <p>● 産業界との連携等により、テクノスクールの訓練内容の充実強化を図り、複数の技能を有する人材や5Gなどの最新技術に対応できる人材を育成します。また、子どもの頃から「ものづくり産業」に対する職業観の醸成を図るとともに、ドイツ手工業会講所との職業訓練交流及び徳島版マイスター制度**を推進します。〈商工〉</p> <p>○テクノスクール訓練生の技能照査**合格率 (17) 77.7%→(22) 81.0%</p> <p>○離職者等に対する職業訓練の設定コース数 (17) 39コース→(22) 47コース</p> | 推進 | | | | | | | | | | | <p>産業界が求める最新技術やDXに対応できる人材の育成を図るため、テクノスクールの職業訓練に「において、5G、センシング、AI、IoTなどに対応したコースやカリキュラムを実施することから、成果目標を新たに設定する。 なお「技能検定」や「技能五輪全国大会」「技能グランプリ」については、オンラインになじまず、厚生労働省において今後も3密回避など感染対策を行いながら実施されるため、見直しは行わない。</p> | 商工 | |
| | | | | 78% | 79% | 80% | 81% | | | | | | | | | | |
| | | | | 41 コース | 43 コース | 45 コース | 47 コース | | | | | | | | | | |
| 新規 | | | | | | | | ODXに対応できる技能者の養成数 (17) → (22) 85人 | | | | 70人 | 85人 | | | | |
| | | | | 1,330人 | 1,360人 | 1,400人 | 1,440人 | | | | | | | | | | |
| | | | ○技能検定受検者数 (17) 1,264人→(22) 1,440人 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○技能五輪全国大会、技能グランプリ等への出場者数 (17) 4人→(19) ~ (22) 年間10人 | 10人 | 10人 | 10人 | 10人 | | | | | | | | | | |
| | | | ○ドイツとの職業訓練交流における企業での実習日数 (17) → (19) ~ (22) 年間3日 | 3日 | 3日 | 3日 | 3日 | | | | | | | | | | |
| 453 | 3-5-3 | 167 | <p>● 出産・育児等により離職せざるを得なかった女性の再就職準備や就労を支援するため、就職に関する情報の提供やスキルアップに向けた講座等を実施するとともに、管理職や起業を目指す女性などを対象に、キャリアアップに向けたセミナーや県内大学と連携した「ウーマンビジネススクール」を開催します。(再掲)〈商工〉</p> <p>○女性の再就職や就労を支援する講座等における就業率 (17) 32%→(22) 60%以上</p> <p>○「ウーマンビジネススクール」の参加者数(累計) (17) 20人→(22) 70人</p> | 推進 | | | | | <p>● 出産・育児等により離職せざるを得なかった女性の再就職準備や就労を支援するため、就職に関する情報の提供やスキルアップに向けた講座等や、管理職、起業を目指す女性などを対象に、キャリアアップに向けたセミナーや県内大学と連携した「ウーマンビジネススクール」をニューノーマルに対応した形式で開催します。(再掲)〈商工〉</p> | | | | | | <p>「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大防止を図りつつ、女性の活躍支援に取り組む。</p> | 商工 | |
| | | | | 45% | 50% | 55% | 60% | | | | | | | | | | |
| | | | | 40人 | 50人 | 60人 | 70人 | | | | | | | | | | |
| 454 | 3-5-3 | 168 | <p>● 多様な外国人材が集う徳島の実現のため、県内在住や定住を希望する外国人に対する、就労支援、労働相談窓口の設置等、きめ細かな支援体制の整備を図ります。 また、大学等の高等教育機関、産業界、県が一体となって外国人留学生の受け入れ拡大を図るとともに、留学生等を対象とした企業説明会・マッチングフェアを開催するなど、県内定着支援の強化を図ります。(再掲)〈政策・商工〉</p> <p>○定住外国人の就労を支援する講座等における就業率 (17) 24%*→(22) 40%以上 *過去3年平均</p> <p>○すだちくんハローワーク「外国人労働相談窓口」の設置 (20) 設置</p> <p>○県内大学等への留学生受入数 (17) 399人→(22) 500人</p> | 充実・ 実施 | | | | | <p>● 多様な外国人材が集う徳島の実現のため、県内在住や定住を希望する外国人に対する、就労支援、労働相談窓口の設置等、きめ細かな支援体制の整備を図ります。 また、大学等の高等教育機関、産業界、県が一体となって外国人留学生の受け入れ拡大を図るとともに、留学生等を対象とした企業説明会・マッチングフェアを積極的にオンラインを活用した、ニューノーマルに対応した形式で開催するなど、県内定着支援の強化を図ります。 (再掲)〈政策・商工〉</p> | | | | | | | <p>ニューノーマルへの対応により、「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大を防止しながら、外国人材の県内定着支援の強化を図る。</p> | 政策・ 商工 |
| | | | | 28% | 32% | 36% | 40% | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 425人 | 450人 | 475人 | 500人 | | | | | | | | | | |

ターゲット3 「発展とくしま・革新創造」の実装

主要事業実施工程表（3-5 ポスト東京オリパラ！経済好循環へ）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現 行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 新規 | 3-5-3 | | | | | | | <p>● 新型コロナの影響で、非正規雇用者を中心に厳しい雇用情勢にあることから、幅広い世代を対象に、非正規雇用者を正社員化した企業等に対して助成を行うとともに、職場体験の実施、職業面接会の開催により企業と求職者のマッチングを図ることにより、「雇用の安定化」を促進する。 ＜商工＞</p> <p>○助成金の活用による徳島県内の正社員転換等人数 ('21)～('22) 毎年100人</p> | | 推進 | | | <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい雇用情勢にある中、助成制度を活用した支援を実施し、雇用の安定を通じた地域経済の活力維持・向上に取り組む。</p> | 商工 |
| 456 | 3-5-3 | 168 | <p>● 就労意欲があるにもかかわらず就労できないひとり親家庭の親及び子に対して、技能や資格を習得するための講習会や自立支援プログラムの策定を実施し、就労を支援します。＜未来＞</p> <p>○「母子・父子自立支援プログラム」を活用した就職率（再掲） ('17) 56%→('19)～('22) 56%以上</p> | 実施 | | | | <p>● 就労意欲があるにもかかわらず就労できないひとり親家庭の親及び子に対して、<u>ニューノーマルに対応した手法を活用しながら</u>、技能や資格を習得するための講習会や自立支援プログラムの策定を実施し、就労を支援します。 ＜未来＞</p> | | | | | <p>オンライン化や、オンラインと対面のハイブリッド方式などにより、ニューノーマル対応可能なものは、手法の見直しを行う。</p> | 未来 |
| 458 | 3-5-3 | 168 | <p>● 若者の入社後の早期離職（雇用のミスマッチ）を解消するため、小学校入学時から仕事に対する興味を抱き、成長段階に応じて職業観を育成することを推進します。＜商工＞</p> <p>○小中高等学校の職業体験校数 ('17) 5校→('22) 8校</p> <p>○ものづくり体験イベントでの参加者数 ('17) 940人 →('22) 1,060人</p> | 推進 | | | | <p>● 若者の入社後の早期離職（雇用のミスマッチ）を解消するため、<u>3密回避など感染症対策に留意しながら</u>、小学校入学時から仕事に対する興味を抱き、成長段階に応じて職業観を育成することを推進します。＜商工＞</p> <p>○ものづくり体験イベントの実施回数 ('17) 1回→('22) 5回</p> | | | | | <p>新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、1箇所に大人数を集めてのイベント開催は避け、少人数で場所、回数を分けてイベントを開催し、コロナ禍に対応した技能の魅力発信に取り組む。</p> | 商工 |

ターゲット4 「躍動とくしま・感動宝島」の実装

主要事業実施工程表（4-1 世界に誇る！「あわ文化」の創造と継承）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|-------------------|---------------------|---|----|--|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | |
| 460 | 4-1-1 | 170 | <ul style="list-style-type: none"> 「阿波藍」「阿波人形浄瑠璃」「阿波おどり」「ベートーヴェン第九」の「4大モチーフ」をはじめとする「あわ文化」の継承・発展に向けた取組みを進めるとともに、積極的に観光資源としても活用し、「あわ文化」の魅力を広く発信します。(再掲) <未来> | 推進 | | | | <ul style="list-style-type: none"> 「阿波藍」「阿波人形浄瑠璃」「阿波おどり」「ベートーヴェン第九」の「4大モチーフ」をはじめとする「あわ文化」の継承・発展に向け、<u>ニューノーマルに対応した</u>取組みを進めるとともに、積極的に観光資源としても活用し、「あわ文化」の魅力を広く発信します。(再掲) <未来> | | | | | アフターコロナを見据え、ニューノーマルに対応した公演等を実施するため、文言を修正する。 | 未来 | |
| | | | ○徳島版「とくしま文化プログラム」の開催 (19)～(21)開催 | | | | | ○徳島版「とくしま文化プログラム」の 実施 (19)～(21) | | | | | | | |
| | | | ○「藍色展2020」の開催 (19)開催 | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○阿波人形浄瑠璃「人形座」の海外派遣 (19)派遣 | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○阿波人形浄瑠璃公演等入場者数 (17) 36,343人→(22) 38,000人 | 36,500 人 | 37,000 人 | 37,500 人 | 38,000 人 | | | | | | | | |
| 新規 | | | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 県民の文化活動の更なる促進や次世代の人材育成をはじめ、優れた文化芸術の鑑賞機会を提供やにきわいの創出を図り、希望あふれる徳島の未来を創生するため、<u>県市協働により県部のランドマークとなる「新ホール」の整備を推進します。</u>(再掲) <未来> | | | 推進 | | 県市協働による新ホール整備に着手したことに伴い、項目を追加する。 | 未来 | |
| | | | | | | | | ○文化芸術の拠点となる新ホールの整備 (21)～設計・施工 | | | | | | | |
| 461 | 4-1-1 | 170 | <ul style="list-style-type: none"> 観光消費額の増加による地域経済の活性化と、住民の愛着や誇りを醸成する豊かな地域社会の実現を図るため、「鳴門の渦潮」、「阿波の土柱」などの雄大な自然や、「阿波おどり」、「お遍路」をはじめとする歴史・文化など、魅力的な地域資源を観光地経営の視点に立って活用し、国内外からの観光誘客を推進します。また、本県を代表する伝統文化「阿波おどり」の海外公演や指導者派遣を行うことにより、徳島の認知度向上並びに「徳島ファン」の拡大を図り、本県の観光誘客に繋がります。<商工> | 推進 | | | | <ul style="list-style-type: none"> 観光消費額の増加による地域経済の活性化と、住民の愛着や誇りを醸成する豊かな地域社会の実現を図るため、「鳴門の渦潮」、「阿波の土柱」などの雄大な自然や、「阿波おどり」、「お遍路」をはじめとする歴史・文化など、魅力的な地域資源を観光地経営の視点に立って活用し、国内外からの観光誘客を推進します。また、本県を代表する伝統文化「阿波おどり」の海外公演、指導者派遣やオンライン配信等を活用した魅力発信を行うことにより、徳島の認知度向上並びに「徳島ファン」の拡大を図り、本県の観光誘客に繋がります。<商工> | | | | | ○観光消費額 徳島県観光審議会での審議を経た個別計画「徳島県観光振興基本計画(第3期)」の数値目標見直し案を反映。数値目標見直し案は、2021年7月頃に新型コロナウイルス感染症が収束し、段階的に回復して2022年1月頃に2019年並みに回復する場合を想定して設定。 | 商工 | |
| | | | ○観光消費額(暦年)(再掲) (17) 889億円→(22) 1,200億円 | 1,155 億円 | 1,170 億円 | 1,185 億円 | 1,200 億円 | ○観光消費額(暦年) (17) 889億円→(22) 1,090億円 | 1,155 億円 | 1,170 億円 | 750 億円 | 1,090 億円 | ○阿波おどり 感染予防対策を徹底した安全安心な阿波おどりの開催に取り組むとともに、海外との往来が困難な状況下においても、オンライン等を活用し、本県の魅力を発信に取り組む。 | | |
| | | | ○各国大使館等と連携した「阿波おどり」の海外公演及び指導者派遣回数(累計)(再掲) (17) 4回→(22) 30回 | 15回 | 20回 | 25回 | 30回 | ○各国大使館等と連携した「阿波おどり」の海外公演、指導者派遣や オンライン配信等を活用した魅力発信 回数(累計)(再掲) (17) 4回→(22) 30回 | | | | | | | |
| 462 | 4-1-1 | 171 | <ul style="list-style-type: none"> 広く県内外に向けて文化・芸術の感動や体験の場を提供するため、民間との連携を図るなど魅力ある企画展やイベントを開催します。<未来> | 推進 | | | | <ul style="list-style-type: none"> 広く県内外に向けて文化・芸術の感動や体験の場を提供するため、<u>デジタルアーカイブ事業を推進するとともに</u>、魅力ある企画展やイベントを開催します。<未来> | | | | | 令和2年度から公開した「とくしまデジタルアーカイブ」へのアクセス件数を新たに数値目標として追加する。 | 未来 | |
| | | | ○文化の森総合公園文化施設入館者数 (17) 814,816人→(22) 年間85万人 | 81万人 | 81万人 | 83万人 | 85万人 | | | | | | | | |
| 新規 | | | | | | | | ○「とくしまデジタルアーカイブ」アクセス数 (17) 1万→(22) 16万 件 | | | 14万 件 | 16万 件 | | | |

ターゲット4 「躍動とくしま・感動宝島」の実装

主要事業実施工程表（4-1 世界に誇る！「あわ文化」の創造と継承）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現 行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 463 | 4-1-1 | 171 | ● 次代の担い手を育てるため、あわ文化や芸術作品に直接触れる機会を設けるとともに、野外かんさつ会や鑑賞教室、古文書講座等の多様な体験の機会を提供します。 <未来> ○文化の森文化施設普及事業の開催回数 (17) 328回→(19)～(22)年間330回以上 ○文学書道館等拠点となる文化施設での講座開催回数 (17) 125回→(19)～(22)年間130回以上 | 推進 | | | | ● 次代の担い手を育てるため、あわ文化や芸術作品に直接触れる機会を設けるとともに、野外かんさつ会や鑑賞教室、古文書講座等の多様な体験の機会をニューノーマルに対応した形で提供します。<未来> | | | | | アフターコロナを見据え、ニューノーマルに対応した講座等を実施するため、文言を修正する。 | 未来 |
| 464 | 4-1-1 | 171 | ● 歴史的に本県に息づいてきた「邦楽・クラシック・ジャズ」の「あわ三大音楽」について、県民が主体となって音楽を演奏する機会の充実を図り、「県民主役」の取組みを推進するとともに、親子で気軽に音楽にふれあう機会を創出します。 また、県民誰もが「あわ文化」に身近にふれあう機会を創出します。<未来> ○「とくしま夏の音楽祭」への参加者数 (17) 1回→(19)～(22)年間2,200人以上 ○「はぐくみコンサート」開催回数 (17) 1回→(19)～(22)年間3回以上 ○児童や生徒を対象とした人形浄瑠璃・邦楽の「体験型ワークショップ」の開催 (20)～(22)開催 | 推進 | | | | ● 歴史的に本県に息づいてきた「邦楽・クラシック・ジャズ」の「あわ三大音楽」について、県民が主体となって音楽を演奏する機会の充実を図り、「県民主役」の取組みを推進するとともに、親子で気軽に音楽にふれあう機会をニューノーマルに対応した形で創出します。<未来> | | | | | アフターコロナを見据え、ニューノーマルに対応したイベントを開催するため、文言を修正する。 | 未来 |
| 465 | 4-1-2 | 171 | ● 国内外から注目を集める「マチ★アソビ」を核としたアニメイベントを開催することにより、徳島ならではの魅力を活かしたにぎわいの創出や新たな地域文化の創造と発信を図ります。(再掲)<商工> | 開催 | | | | ● 国内外から注目を集める「マチ★アソビ」を核としたアニメイベントを、参加者全員が安心して楽しめるニューノーマルに対応した形で開催することにより、徳島ならではの魅力を活かしたにぎわいの創出や新たな地域文化の創造と発信を図ります。(再掲)<商工> | | | | | 「マチ★アソビ」の灯を消すことのないよう、参加者全員の安全・安心に配慮したアニメイベントを開催することにより、アフターコロナを見据えた中心市街地の活性化や観光交流の促進に繋げる必要があるため。 | 商工 |
| 466 | 4-1-2 | 171 | ● 「アニメの聖地徳島」として、世界にアニメ文化を発信し、地域の活性化、観光誘客の促進を図るため、国内外のアニメファンが集う「マチ★アソビ」と、徳島の特色を活かした「LEDデジタルアート」との融合による「ナイトタイムイベント」の開催により、新次元の「驚きと感動体験」を実現します。(再掲)<商工> OLEDデジタルアートとの融合によるナイトタイムイベントの開催 (20)開催 | 開催 | | | | ● 「アニメの聖地徳島」として、世界にアニメ文化を発信し、地域の活性化、観光誘客の促進を図るため、国内外のアニメファンが集う「マチ★アソビ」と、徳島の特色を活かした「LEDデジタルアート」との融合による「ナイトタイムイベント」をAR技術を活用して開催することにより、感染拡大防止に配慮しながら、新次元の「驚きと感動体験」を実現します。(再掲)<商工> | | | | | 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため開催を見送ることとなったが、AR技術等を活用し、3密等の回避を図りつつ、デジタルアートを楽しめるイベントの開催に取り組む。 | 商工 |

ターゲット4 「躍動とくしま・感動宝島」の実装

主要事業実施工程表（4-1 世界に誇る！「あわ文化」の創造と継承）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 468 | 4-1-3 | 172 | ● 児童生徒が身近に芸術文化に触れる機会を充実させるとともに、児童生徒を対象に、芸術文化分野での創作活動の支援や伝統芸能分野での担い手育成を行い、地域に根ざした文化の発信活動を支援します。＜教育＞ | 推進 | | | | ● オンラインによる同時配信をはじめ、ニューノーマルに対応した形でのワークショップや公演の実施など、児童生徒が身近に芸術文化に触れる機会を充実させるとともに、児童生徒を対象に、芸術文化分野での創作活動の支援や伝統芸能分野での担い手育成を行い、地域に根ざした文化の発信活動を支援します。＜教育＞ | | | | | 巡回公演事業は一流の文化芸術団体が県外から来県するため、コロナ禍において中止を決定した学校が多かったが、オンラインを活用したワークショップや人数制限等開催方法を工夫し本公演を実施した学校もあり、児童生徒が身近に芸術文化に触れる機会の充実を図るため。 | 教育 |
| | | | ○学校への芸術家等派遣事業に参加した児童生徒数 (‘17) 10,620人*→(‘19)～(‘22)年間10,000人 *過去3年平均 | 10,000人 | 10,000人 | 10,000人 | 10,000人 | | | | | | | |
| 469 | 4-1-3 | 172 | ● 次代を担う若者の文化芸術力を高めるため、中学生の「あわっ子文化大使」や、高校生となった「あわっ子文化大使サポーター」が活躍・交流する機会を提供し、「あわ文化教育」を推進します。＜教育＞ | 推進 | | | | ● 次代を担う若者の文化芸術力を高めるため、中学生の「あわっ子文化大使」や、高校生となった「あわっ子文化大使サポーター」が活躍・交流する機会を、タブレット端末の活用をはじめ、ニューノーマルに対応した形で提供し、「あわ文化教育」を推進します。＜教育＞ | | | | | 無観客オンライン配信の収録への参加をはじめ、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上での活動等、今後もニューノーマルに対応した形で、「あわっ子文化大使」や「あわっ子文化大使サポーター」が活躍する機会を提供するため。 | 教育 |
| | | | ○あわっ子文化大使・サポーターの活動参加人数 (‘17) 118人→(‘19)～(‘22)年間130人 | 130人 | 130人 | 130人 | 130人 | | | | | | | |
| 470 | 4-1-3 | 172 | ● 次代の「あわ文化」を担う人材を育て、徳島県中学校文化連盟と連携して、学校や市町村の枠を越えて文化芸術に親しむ機会である中学校の文化の祭典「徳島県中学校総合文化祭」におけるワークショップや舞台発表を充実させ、中学生の文化芸術力を高めるとともに、全国に向けて発信します。＜教育＞ | 推進 | | | | ● 次代の「あわ文化」を担う人材を育て、徳島県中学校文化連盟と連携して、感染症対策の徹底をはじめ、ニューノーマルに対応しながら、学校や市町村の枠を越えて文化芸術に親しむ機会である中学校の文化の祭典「徳島県中学校総合文化祭」におけるワークショップや舞台発表を充実させ、中学生の文化芸術力を高めるとともに、全国に向けて発信します。＜教育＞ | | | | | 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、舞台発表、表彰式、ワークショップが中止され、規模を縮小しての「選抜生徒作品展」や無観客小倉百人一首競技かるた大会を開催したことを踏まえ、今後もニューノーマルに対応した形で、文化芸術に親しむ機会の充実を図るため。 | 教育 |
| | | | ○「徳島県中学校総合文化祭」の来場者数 (‘17) 2,138人*→(‘19)～(‘22)年間2,500人以上 *過去3年平均 | 2,500人 | 2,500人 | 2,500人 | 2,500人 | | | | | | | |
| | | | ○各分野で活躍する芸術家を招いての「中学生ワークショップ」の開催 (‘19)～(‘22)開催 | | | | | | | | | | | |
| | | | ○「第5回徳島県中学校総合文化祭5周年記念大会」の開催 (‘19)開催 | | | | | | | | | | | |
| 472 | 4-1-4 | 172 | ● 第一次世界大戦当時、収容所での人道的配慮からドイツ人捕虜の自主的な活動が許され、ベートーヴェンの「第九」全楽章アジア初演の地となるなど、交流と文化の華が開いた「板東俘虜収容所」について、その記録物である「板東俘虜収容所関係資料」のユネスコ「世界の記憶」（記憶遺産）への登録を目指した取組みを徳島県と鳴門市が連携して行うとともに、同資料の重要性を日本全国、さらには世界へ発信し、ふるさと徳島の魅力向上を推進します。＜未来＞ | 準備 | 申請 | 登録 | | | 準備 | | 申請 | 登録 | 主要事業としては引き続き推進していくが、「ユネスコ「世界の記憶」（記憶遺産）への申請・登録」の数値目標は、欧州（ユネスコ本部はフランス）の新型コロナウイルスの状態を踏まえ、令和2年度の申請は受け付けないことが確定しており達成困難である。更に、今後の会議の動向が不透明であることから、全体の工程を下方修正（1年延期）することとする。一方、気運の醸成に向けた情報発信は、着実にやっていくこととし、鳴門市と連携しながら、年2回以上のニューノーマルに対応した啓発事業イベントを、数値目標として新たに設定する。 | 未来 |
| | | | ○ユネスコ「世界の記憶」（記憶遺産）への申請・登録 (‘20)申請・(‘21)登録 | | | | | ○ユネスコ「世界の記憶」（記憶遺産）への申請・登録 (‘21)申請・(‘22)登録 | | | | | | |
| 新規 | | | | | | | | ○ユネスコ「世界の記憶」（記憶遺産）登録の気運醸成に向けた普及啓発イベントの開催 (‘21)～(‘22)年間2回 | | | 2回 | 2回 | | |

ターゲット4 「躍動とくしま・感動宝島」の実装

主要事業実施工程表（4-1 世界に誇る！「あわ文化」の創造と継承）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 473 | 4-1-4 | 173 | <p>●「四国八十八箇所霊場と遍路道」は、国籍や宗教・宗派を超え誰もが巡礼できる「世界に誇る四国の財産」であり、この「かけがえのない文化資産」を人類共有の財産として将来の世代へ保存・継承していく世界遺産への登録を推進するため、四国他県や関係団体と連携し、札所寺院や遍路道を国の史跡として指定する「資産の保護措置」を進めるとともに、遍路道をはじめ、地域に根付く「四国遍路文化」の魅力を国内外へ発信する取組みを進めます。<未来></p> | 推進 | | | | ●「四国遍路」は、国籍や宗教・宗派を超え誰もが巡礼できる「世界に誇る四国の財産」であり、この「かけがえのない文化資産」を人類共有の財産として将来の世代へ保存・継承していく世界遺産への登録を推進するため、四国他県や関係団体と連携し、札所寺院や遍路道を国の史跡として指定する「資産の保護措置」を進めるとともに、遍路道をはじめ、地域に根付く「四国遍路文化」の魅力を国内外へ発信する取組みを進めます。<未来> | | | | | 令和2年度の「四国八十八箇所霊場と遍路道」世界遺産登録推進協議会総会において、世界遺産を目指す上での資産の名称を「四国八十八箇所霊場と遍路道」から「四国遍路」に改めた。 | 未来 |
| | | | ○札所寺院及び遍路道の国史跡指定に向けた文化財調査箇所数(累計) (17) 21箇所→(22) 40箇所 | 28箇所 | 32箇所 | 36箇所 | 40箇所 | | | | | | | |
| | | | ○県民参加型の四国遍路文化の保存・活用事業の実施 (17) →(19)～(22)年間1件以上 | 1件 | 1件 | 1件 | 1件 | | | | | | | |

ターゲット4 「躍動とくしま・感動宝島」の実装

主要事業実施工程表（4-2 世界へ飛躍！「スポーツ王国とくしま」新次元の進化）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 475 | 4-2-1 | 174 | <p>●3大国際スポーツ大会のキャンプ地誘致や、県内での競技大会開催を積極的に推進し、生涯スポーツの機運醸成や県内選手の競技力向上はもとより、地域経済の活性化や国際交流の促進を図ります。〈未来〉</p> <p>○「ラグビーワールドカップ2019」における事前チームキャンプ実施(19)実施</p> <p>○「東京2020オリンピック・パラリンピック」における事前キャンプの誘致数(17)→(20)6件</p> <p>○「ワールドマスターズゲームズ2021関西」における県内での競技大会開催(21)開催</p> | 推進 | | | | <p>●3大国際スポーツ大会のキャンプ地誘致や、県内での競技大会開催を、<u>新型コロナウイルス感染症対策を護じつつ</u>、積極的に推進し、生涯スポーツの機運醸成や県内選手の競技力向上はもとより、地域経済の活性化や国際交流の促進を図ります。〈未来〉</p> <p>○「東京2020オリンピック・パラリンピック」における事前キャンプの誘致数(17)→(21)6件</p> <p>○「ワールドマスターズゲームズ2021関西」における県内での競技大会開催(22)開催</p> | | | | | <p>○「東京2020オリンピック・パラリンピック」における事前キャンプの誘致数</p> <p>東京2020オリンピック・パラリンピックの延期に合わせて、事前キャンプ誘致の工程を修正する。</p> <p>○「ワールドマスターズゲームズ2021関西」における県内での競技大会開催</p> <p>10月28日に開催されたワールドマスターズゲームズ2021関西組織委員会理事会において大会の1年延期が決定され、11月4日に開催された国際マスターズゲームズ協会(IMGA)総会で承認されたため、開催年度を修正する。</p> | 未来 |
| 476 | 4-2-1 | 174 | <p>●3大国際スポーツ大会におけるキャンプ地誘致や競技大会開催を通じて創造される「レガシー」を県民の誰もが実感できるように、国内外からのスポーツ大会・合宿誘致とともに、<u>ニューノーマルな</u>国際スポーツ交流を実施します。(再掲)〈未来〉</p> <p>○国際的及び全国的スポーツ大会や合宿、交流会の県内開催件数(累計)(17)→(22)20件</p> | 推進 | | | | <p>●3大国際スポーツ大会におけるキャンプ地誘致や競技大会開催を通じて創造される「レガシー」を県民の誰もが実感できるように、<u>「徳島県スポーツコミッション」を核とする</u>国内外からのスポーツ大会・合宿誘致とともに、<u>ニューノーマルな</u>国際スポーツ交流を実施します。(再掲)〈未来〉</p> <p>○国際的及び全国的スポーツ大会や合宿、交流会の県内開催件数(累計)(17)→(22)40件</p> | | | | | <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、2020年度の実施を目指していた交流会は全て中止となったが、令和元年度実績値が数値目標を上回ったこと、及び令和2年8月に徳島県スポーツコミッションを設立し、スポーツツーリズムの推進体制を強化したことから、県内開催件数を上方修正する。</p> | 未来 |
| 477 | 4-2-1 | 174 | <p>●東京2020オリンピック・パラリンピックをはじめとする国際スポーツ大会の開催によって高まったスポーツ参画の機運を一過性のもので終わらせることなく、県民の誰もがスポーツに親しむことのできる生涯スポーツの普及を図り、スポーツ人口の拡大に努めます。〈未来〉</p> <p>○成人の週1回以上のスポーツ実施率(17)51.8%→(22)65%</p> <p>○県民向けスポーツ交流イベント参加者数(17)1,000人→(22)1,300人</p> <p>○「全国レクリエーション大会」の開催誘致(22)開催誘致</p> | 推進 | | | | <p>●東京2020オリンピック・パラリンピックをはじめとする国際スポーツ大会の開催によって高まったスポーツ参画の機運を一過性のもので終わらせることなく、<u>ニューノーマルに対応しつつ</u>、県民の誰もがスポーツに親しむことのできる生涯スポーツの普及を図り、スポーツ人口の拡大に努めます。〈未来〉</p> | | | | | <p>県民向けスポーツ交流イベントの実施にあたっては、ニューノーマルに対応した内容とするため、文言を修正する。</p> | 未来 |
| 478 | 4-2-1 | 174 | <p>●徳島ヴォルティスを通じて、次世代を担う子供たちにプロスポーツのすばらしさを体験してもらうとともに、スタジアムへの来場を促進する取組みを行い、県内にぎわいの創出を図ります。〈商工〉</p> <p>○徳島ヴォルティスホームタウンデー招待者数(17)1,732人→(22)2,000人</p> | 推進 | | | | <p>●徳島ヴォルティスを通じて、次世代を担う子供たちにプロスポーツのすばらしさを体験してもらうとともに、スタジアムへの来場を促進する<u>ニューノーマルに対応した</u>取組みを行い、県内の<u>更なるにぎわいを創出します</u>。〈商工〉</p> <p>○<u>オンラインイベント参加者及び</u>ホームタウンデー招待者数(17)1,732人→(22)2,000人</p> | | | | | <p>令和2年度は、スタジアム観戦への招待事業を実施することが困難であったが、感染予防ガイドラインの実践やニューノーマル生活様式の定着が図られている令和3年度以降においては、県内学生に国内最高峰のJ1リーグを身近に観戦する機会を提供する招待事業のほか、オンラインによるファン拡大イベントを実施し、更なる応援気運の醸成とスポーツ文化の普及を図る。</p> | 商工 |

ターゲット4 「躍動とくしま・感動宝島」の実装

主要事業実施工程表（4-2 世界へ飛躍！「スポーツ王国とくしま」新次元の進化）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現 行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 479 | 4-2-1 | 175 | ●市町村等と連携協力し、徳島インディゴソックスを活用したスタジアムのにぎわい創出や、球団を通じた国際交流を深める取組みを展開し、県民が一丸となってスタジアムで応援する機運を醸成します。<商工> | 推進 | | | | ●市町村等と連携協力し、 徳島インディゴソックスを通じて、プロスポーツのすばらしさを伝えるとともに、ニューノーマルに対応した取組みにより地元球団を応援する機運情勢を図り、県内のにぎわいを創出します。<商工> | | | | | 令和2年度は、スタジアム観戦への招待事業や国際交流を深める取組みを実施することが困難であったが、感染予防ガイドラインの実践やニューノーマル生活様式の定着が図られている令和3年度以降においては、県民に身近に試合を観戦する機会を提供する招待事業のほか、オンラインによるファン拡大イベントを実施し、更なる応援気運の醸成とスポーツ文化の普及を図る。 | 商工 |
| | | | ○徳島インディゴソックス年間ホームゲーム招待者数 (17) 1,655人→(22) 2,000人 | 1,850人 | 1,900人 | 1,950人 | 2,000人 | ○オンラインイベント参加者及びホームゲーム招待者数 (17) 1,655人→(22) 2,000人 | | | | | | |
| 480 | 4-2-1 | 175 | ●健康や環境にも好影響をもたらすサイクリススポーツのさらなる振興を図るため、県内ライドイベントの参加者の利便性向上につながるサイクリトレインの運行や、様々なジャンルの自転車等の展示・試乗等を行う「Tokushimaサイクルワールド」の開催により、サイクリストの裾野拡大と自転車を通じた徳島の魅力を発信し、「自転車王国とくしま」の充実を図ります。<未来> | 推進 | | | | ●健康や環境にも好影響をもたらすサイクリススポーツのさらなる振興を図るため、 ニューノーマルに対応した県内ライドイベントへの参加者の利便性向上及びツーリズムの推進 につながるサイクリトレインの運行や、様々なジャンルの自転車等の展示・試乗等を行う「Tokushimaサイクルワールド」の開催により、サイクリストの裾野拡大と自転車を通じた徳島の魅力を発信し、「自転車王国とくしま」の充実を図ります。<未来> | | | | | ニューノーマルに対応して開催される県内ライドイベントに併せてサイクリトレインを運行するとともに、サイクリトレインの運行対象を、ツーリズムの推進につながるイベント等にも拡大するため、文言を修正する。 | 未来 |
| | | | ○サイクリトレインの運行 (19)～(22) 運行 | | | | | | | | | | | |
| | | | ○「Tokushimaサイクルワールド」の開催 (19) 開催 | | | | | | | | | | | |
| 481 | 4-2-1 | 175 | ●サイクルツーリズム*の推進により交流人口の拡大や地域活性化を図るため、兵庫県と連携し、大鳴門橋への自転車道設置を推進します。<県土> | 推進 | | | | ○大鳴門橋自転車道の整備 (20) 調査設計 | | | | | R2年度までに自転車道設置に係る耐風安定性の確認、配置計画及び事業運営手法等の検討に関する調査設計が完了したことから、事業化に向け、具体的な施工計画の検討、建設費の精査及び関係機関との協議を進めるために必要となる設計を実施する。 | 県土 |
| | | | ○大鳴門橋自転車道の整備 (20) 調査設計 | | | | | ○大鳴門橋自転車道の整備 (20) 調査設計・ (21) 設計推進中 | | | | | | |
| 482 | 4-2-2 | 175 | ●本県の競技力向上を図るため、ジュニア期から優れた素質を有する競技者を発掘し、トップレベルの競技者へと育てる「一貫指導システム」の構築と「トップ指導者の養成」に努めるとともに、企業や大学等のスポーツ選手強化・育成事業への支援や、元オリンピック選手等による講習会やセミナーの開催等により、未来のトップアスリートの育成や県内選手の強化に取り組みます。<未来> | 推進 | | | | ●本県の競技力向上を図るため、 団体競技の強化や「お家芸」の復活、優秀な選手・指導者の確保、接戦を勝ち抜くサポート体制の構築、本大会を想定した競技備品の整備など、抜本的な対策を戦略的かつ重点的に展開します。さらに、関係機関・団体により構成される「徳島県国体飛躍対策本部」を中心として、有効な対策をタイムリーに実施します。 <未来> | | | | | 「国体天皇杯30位台」の実現に向け、関係機関・団体が一丸となり、抜本的な対策を戦略的かつ重点的に展開する。 | 未来 |
| | | | ○国民体育大会天皇杯順位 (17) 46位→(19)～(22) 毎年30位台 | 30位台 | 30位台 | 30位台 | 30位台 | | | | | | | |
| | | | ○元オリンピック選手等によるジュニア選手の指導 (19)～(22) 実施 | | | | | | | | | | | |

ターゲット4 「躍動とくしま・感動宝島」の実装

主要事業実施工程表（4-2 世界へ飛躍！「スポーツ王国とくしま」新次元の進化）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現 行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 483 | 4-2-2 | 175 | <p>● 2022年に四国で開催する全国高校総体に向け、各競技団体と連携しながら、有力競技の集中強化やお家芸競技の創出に取り組み、国際大会や全国大会等で活躍するトップアスリートの育成・強化を図ります。</p> <p>また、早い段階での有力選手の発掘・育成を進めるため、活躍が期待できる競技を選考した上で中学校段階での指導体制強化を図ります。＜教育＞</p> | 推進 | | | | <p>● 2022年に四国で開催する全国高校総体に向け、各競技団体と連携しながら、有力競技の集中強化やお家芸競技の創出に取り組み、科学的なトレーニングを実施することにより国際大会や全国大会等で活躍するトップアスリートの育成・強化を図ります。</p> <p>また、早い段階での有力選手の発掘・育成を進めるため、活躍が期待できる競技を選考した上で、中学校段階での指導者のスキルアップを図るなど指導体制強化に取り組みます。＜教育＞</p> | | | | | <p>競技力向上・選手育成に当たっては、「日々の食生活や栄養指導」及び「メンタル強化」なども含めた、科学的なトレーニングを実施する必要がある。</p> <p>また、中学校における競技力の向上は、指導者の技量によるところが大きいため、指導者のスキルアップを図る必要がある。</p> | 教育 |
| | | | ○全国高等学校総合体育大会等の入賞（団体・個人）数 ('17) 47団体・個人→('19) ~('22) 50団体・個人 | 50団体・個人 | 50団体・個人 | 50団体・個人 | 50団体・個人 | | | | | | | |
| | | | ○全国中学校体育大会等の入賞（団体・個人）数 ('17) 5団体・個人→('19) ~('22) 13団体・個人 | 13団体・個人 | 13団体・個人 | 13団体・個人 | 13団体・個人 | | | | | | | |
| | | | ○有力中学選手「高校生との合同練習会」の実施 ('17) →('19) ~('22) 「NEO徳島トップスポーツ校」で100%実施 | 100% | 100% | 100% | 100% | | | | | | | |
| 487 | 4-2-3 | 176 | <p>● 大型国際スポーツ大会の開催を産地づくりのターニングポイントと位置付け、次世代につながる「安全安心なフードレガシー」を創出します。＜農林＞</p> | 推進 | | | | | | | | | <p>東京オリパラ延期に伴い、公式オリパラ関連イベントやホストタウン活動が停滞したため、これらの目標を1年延期する。</p> | 農林 |
| | | | ○GAP認証取得「ステップアップフォーラム」の開催 ('19) ~('22) 開催 | | | | | | | | | | | |
| | | | ○農林水産省GAPガイドライン準拠以上の認定件数（累計） ('17) 35件→('22) 70件 | 50件 | 60件 | 65件 | 70件 | | | | | | | |
| | | | ○公式オリパラ関連イベントへの県産食材提供品目数（累計） ('17) →('20) 8品目 | 4品目 | 8品目 | | | ○公式オリパラ関連イベントへの県産食材提供品目数（累計） ('17) →('21) 8品目 | 4品目 | 8品目 | 8品目 | | | |
| | | | ○ホストタウン対象国メニュー開発数（累計） ('17) →('20) 8メニュー | 4メニュー | 8メニュー | | | ○ホストタウン対象国メニュー開発数（累計） ('17) →('21) 8メニュー | 4メニュー | 8メニュー | 8メニュー | | | |

ターゲット4 「躍動とくしま・感動宝島」の実装

主要事業実施工程表（4-3 目指すは世界標準！「スポーツレガシー」の創造と継承）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現 行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|------------------|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 488 | 4-3-1 | 177 | <p>●3大国際スポーツ大会におけるキャンプ地誘致や競技大会開催を通じて創造される「レガシー」を県民の誰もが実感できるよう、国内外からのスポーツ大会誘致や国際スポーツ交流を実施します。また、誘致を見据え、鳴門・大塚スポーツパーク（鳴門総合運動公園）等の施設の充実を図り、受入環境を整えます。 (一部再掲) <未来・県土・教育></p> | 推進 | | | | <p>●3大国際スポーツ大会におけるキャンプ地誘致や競技大会開催を通じて創造される「レガシー」を県民の誰もが実感できるよう、「<u>徳島県スポーツコミッション</u>」を核とする国内外からのスポーツ大会・<u>合宿誘致</u>とともに、<u>ニューノーマルな</u>国際スポーツ交流を実施します。また、誘致を見据え、鳴門・大塚スポーツパーク（鳴門総合運動公園）等の施設の充実を図り、受入環境を整えます。 (一部再掲) <未来・県土・教育></p> | | | | | <p>○国際的及び全国的スポーツ大会や合宿、交流会の県内開催件数(累計) (17) → (22) 20件</p> <p>○県立中央武道館空調設備の設置及び受電設備の改修 (19) 完了</p> <p>○鳴門・大塚スポーツパーク第2陸上競技場の走路改修 (19) 完成</p> <p>○ボカリスエットスタジアムの走路改修 (21) 完成</p> <p>○JAバンクちよきんぎょプール(50mプール)の改修 (19) 完成</p> <p>○JAバンクちよきんぎょプール(観客席スタンド)の改築 (19) 設計着手</p> <p>○徳島科学技術高校「アーチェリー場・ウエイトリフティング場・弓道場」の改築 (19) 完成</p> <p>○阿南光高等学校の多目的球技場整備 (20) 完成</p> <p>○国際的及び全国的スポーツ大会や合宿、交流会の県内開催件数(累計) (17) → (22) 40件</p> <p>○JAバンクちよきんぎょプール(観客席スタンド)の改築 (19) 設計着手・(22)工事推進中</p> <p>○国際的及び全国的スポーツ大会や合宿、交流会の県内開催件数(累計) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、2020年度の実施を目指していた交流会は全て中止となったが、令和元年度実績値が数値目標を上回ったこと、及び令和2年8月に徳島県スポーツコミッションを設立し、スポーツツーリズムの推進体制を強化したことから、県内開催件数を上方修正する。</p> <p>○JAバンクちよきんぎょプール(観客席スタンド)の改築 競技関係団体との協議の結果、施設の仕様や工事の実施期間が決定したため、令和4年度の目標を新たに追加する。</p> | 未来・ 県土・ 教育 |
| | | | ○国際的及び全国的スポーツ大会や合宿、交流会の県内開催件数(累計) (17) → (22) 20件 | 5件 | 10件 | 15件 | 20件 | ○国際的及び全国的スポーツ大会や合宿、交流会の県内開催件数(累計) (17) → (22) 40件 | 5件 | 10件 | 30件 | 40件 | | |
| | | | ○県立中央武道館空調設備の設置及び受電設備の改修 (19) 完了 | | | | | | | | | | | |
| | | | ○鳴門・大塚スポーツパーク第2陸上競技場の走路改修 (19) 完成 | | | | | | | | | | | |
| | | | ○ボカリスエットスタジアムの走路改修 (21) 完成 | | | | | | | | | | | |
| | | | ○JAバンクちよきんぎょプール(50mプール)の改修 (19) 完成 | | | | | | | | | | | |
| | | | ○JAバンクちよきんぎょプール(観客席スタンド)の改築 (19) 設計着手 | | | | | ○JAバンクちよきんぎょプール(観客席スタンド)の改築 (19) 設計着手・ (22)工事推進中 | | | | | | |
| | | | ○徳島科学技術高校「アーチェリー場・ウエイトリフティング場・弓道場」の改築 (19) 完成 | | | | | | | | | | | |
| | | | ○阿南光高等学校の多目的球技場整備 (20) 完成 | | | | | | | | | | | |

主要事業実施工程表（4-3 目指すは世界標準！「スポーツレガシー」の創造と継承）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | | | |
|-----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|----|--|--|--|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | | | |
| 489 | 4-3-1 | 178 | <p>●東京2020オリンピック・パラリンピックをはじめとする国際スポーツ大会の開催によって高まったスポーツ参画の機運を一過性のもの終わらせることなく、県民の誰もがスポーツに親しむことのできる生涯スポーツの普及を図り、スポーツ人口の拡大に努めます。また、生涯スポーツの拠点づくりのため、運動公園等の整備を推進します。(一部再掲) <未来・県土></p> | 推進 | | | | | <p>●東京2020オリンピック・パラリンピックをはじめとする国際スポーツ大会の開催によって高まったスポーツ参画の機運を一過性のもの終わらせることなく、ニューノーマルに対応しつつ、県民の誰もがスポーツに親しむことのできる生涯スポーツの普及を図り、スポーツ人口の拡大に努めます。また、生涯スポーツの拠点づくりのため、運動公園等の整備を推進します。(一部再掲) <未来・県土></p> | | | | | | | | |
| | | | ○成人の週1回以上のスポーツ実施率 (17) 51.8%→(22) 65% | | 58.0% | 60.0% | 62.0% | 65.0% | | | | | | | | | |
| | | | ○県民向けスポーツ交流イベント参加者数 (17) 1,000人→(22) 1,300人 | | 1,000人 | 1,100人 | 1,200人 | 1,300人 | | | | | | | | | |
| | | | ○「全国レクリエーション大会」の開催誘致 (22) 開催誘致 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○南部健康運動公園の陸上競技場の整備 (17) 整備中→(20) 完成 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○JAバンク蔵本公園の体育ホール空調の整備 (17) →(19) 完成 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○JAバンク徳島スタジアムの防球ネット改修及び両翼 拡張 (17) →(21) 完成 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○橋港小勝・後戸地区の緑地整備 (スポーツ・レクリエーション振興ゾーン) (17) 整備中→(20) レクリエーション施設の概成 | | | | | | | | | | | | | | |
| 490 | 4-3-1 | 178 | <p>●自然エネルギー・環境学習による人材育成や川口ダム湖畔を中心とした「スマート回廊」のにぎわい創出のため、「川口ダム湖畔活性化構想」(2019年度策定)に基づき、川口エネ・ミューを核として、カヌー・SUP等の湖面スポーツに親しめる環境整備や、森林体験エリアの活用を地域と共に進め、地方創生へと繋げます。<企業></p> | 推進 | | | | | <p>●川口ダム湖畔を中心とした「スマート回廊」のにぎわい創出のため、川口エネ・ミューを核として、カヌー・SUP等の湖面スポーツに親しめる環境整備や、森林体験エリアの活用を地域と共に進め、地方創生へと繋げます。 また、ニューノーマルに対応した環境学習による人材育成のため、DXを推進し、オンラインによるICT授業や、VRによるダム・発電所の施設見学等を実施します。<企業></p> | | | | | | | | |
| | | | ○「カヌー・SUP(カイトアップパドル)」の拠点整備 (21) 整備・(22) 開設 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○川口エネ・ミュー年間延べ体験者数 (17) 17,370人→(22) 18,500人 | | 17,500人 | 17,800人 | 18,100人 | 18,500人 | ○バーチャルコンテンツ体験者数 (17) →(22) 9,000人 | | | 8,000人 | 9,000人 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |

ターゲット4 「躍動とくしま・感動宝島」の実装

主要事業実施工程表（4-4 共生社会の実現！障がい者スポーツ・芸術文化の深化）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|-----------------|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 491 | 4-4-1 | 179 | ●「障がい者交流プラザ」を活用し、障がいのある人もない人もスポーツや芸術・文化活動等を通じて、社会参加と交流を促進します。＜保健＞ | 推進 | | | | ●「障がい者交流プラザ」をニューノーマルに 対 応させて有効活用し、障がいのある人もない人もスポーツや芸術・文化活動等を通じて、社会参加と交流を促進します。＜保健＞ | | | | | 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、休館・人数制限を実施した影響等により、令和2年度(10月末時点)の利用者数実績は、前年度同時点比52%となっている。 現状、感染防止対策の徹底を図り、利用者数の維持・増加を目指しているものの、ニューノーマルの考え方の浸透もあり、コロナ禍以前と比較して、イベント・活動などにおける利用人数の適切な設定(自粛・減少傾向)を継続する必要があるため、利用者数の目標値を下方修正する。 今後について、各部屋単位で適切な利用人数を設定できる分散開催等、ニューノーマルに即したプラザの有効活用の推進に向けて、新たな数値目標として、貸出施設の稼働率を設定し、以て障がいの有無に関わらず、県民の社会参加と交流を促進する。 ※R2年度(11月末時点)実績：50.7% | 保健 |
| 新規 | | | ○「障がい者交流プラザ」の利用者数 (17) 138,511人→(19)～(22) 年間14万人 | 14万人 | 14万人 | 14万人 | 14万人 | ○「障がい者交流プラザ」の利用者数 (17) 138,511人→(21)～(22) 年間9万人 | | | 9万人 | 9万人 | | |
| | | | | | | | | ○「障がい者交流プラザ」の貸出施設稼働率 (17) 63.9%→(22) 65% | | | 64% | 65% | | |
| 492 | 4-4-1 | 179 | ●障がい者スポーツの裾野の拡大と次世代パラアスリートの発掘・育成を図るため、障がい者スポーツ実施のための環境や、幼少期からスポーツに参画する機会を創出し、障がい者スポーツ活動の活性化を図ります。＜未来＞ | 推進 | | | | ●障がい者スポーツの裾野の拡大と次世代パラアスリートの発掘・育成を図るため、障がい者スポーツ実施のための環境や、幼少期からスポーツに参画する機会をオンラインの活用も含め創出し、障がい者スポーツ活動の活性化を図ります。＜未来＞ | | | | | | 未来 |
| | | | ○パラアスリート育成「トップアスリート・スクーリング」参加者数 (17) →(22) 60人 | 30人 | 40人 | 50人 | 60人 | | | | | | | |
| | | | ○「ジュニア・アカデミー」参加者数 (17) →(22) 100人 | 70人 | 80人 | 90人 | 100人 | | | | | | | |
| | | | ○特別支援教育「ユニバーサル運動プログラム」の作成 (19) 作成 | | | | | | | | | | | |
| | | | ○「パラスポーツ人材バンク(仮称)」の創設 (20) 創設 | | | | | ○「とくしまパラスポーツ人材バンク」の創設 (20) 創設 | | | | | | 名称が確定したため、修正する。 |

ターゲット4 「躍動とくしま・感動宝島」の実装

主要事業実施工程表（4-5 新次元！文化スポーツ施設「グレードアップ戦略」の展開）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 495 | 4-5-1 | 180 | ● 徳島県内出土の埋蔵文化財を蓄積している埋蔵文化財総合センターを文化財の公開・活用の拠点として整備し、地域活性化の核となり得る埋蔵文化財をはじめとした文化財の魅力、素晴らしさを発信します。＜未来＞ | 推進 | | | | ● 徳島県内出土の埋蔵文化財を蓄積している埋蔵文化財総合センターを文化財の公開・活用の拠点として整備し、地域活性化の核となり得る埋蔵文化財をはじめとした文化財の魅力、素晴らしさを、 <u>ニューノーマルに対応した形で</u> 発信します。＜未来＞ | | | | | 令和2年度のセンター利用者は、閉館に加え、学校行事や1,000人規模のイベント(古代体験まつり)等の中止の影響から半数程度に減少(約6,000人)する見込みであり、数値目標の達成は困難である。今後も、同様の状況が見込まれることから数値目標を見直すこととし、ニューノーマル対応の公開活用手法として、自宅等で閲覧できるコンテンツや教材を作成、提供し、より効果的にとくしまの埋蔵文化財の魅力を発信する。さらに、コロナの影響で遠方への外出を控えている県民のため、センター収蔵の出土品を活用し、出張展示や学校への出前授業等を年間2回行い、積極的に本県の埋蔵文化財の魅力発信を行うこととする。 | 未来 |
| | | | ○埋蔵文化財総合センター利用者数 (‘17) 11,902人→(‘19)～(‘22) 年間12,000人 | 12,000 人 | 12,000 人 | 12,000 人 | 12,000 人 | <u>○VR・ドローン等を活用したコンテンツや教材の提供数 (‘21)～(‘22) 年間2件</u> | | | 2件 | 2件 | | |
| 新規 | | | | | | | | <u>○埋蔵文化財総合センター収蔵の埋蔵文化財を活用した出張展示や出前授業等の開催 (‘21)～(‘22) 年間2回</u> | | | 2回 | 2回 | | |
| 496 | 4-5-1 | 180 | ● 史跡・埋蔵文化財についての講演会・展示会・ウォーキング等を開催し、県民の文化財保護意識を醸成するとともに、県民による文化財の活用を進めます。＜未来＞ | 推進 | | | | ● 史跡・埋蔵文化財についての講演会・展示会・ウォーキング等を <u>ニューノーマルに対応した形で</u> 開催し、県民の文化財保護意識を醸成するとともに、県民による文化財の活用を進めます。＜未来＞ | | | | | 講演会・展示会・ウォーキング等の開催にあたっては、ニューノーマル対応(三密回避と感染防止策の徹底等)で実施する。 | 未来 |
| | | | ○史跡・埋蔵文化財保護関連行事参加人数 (‘17) 470人→(‘22) 年間600人 | 470人 | 500人 | 550人 | 600人 | | | | | | | |

ターゲット4 「躍動とくしま・感動宝島」の実装

主要事業実施工程表（4-5 新次元！文化スポーツ施設「グレードアップ戦略」の展開）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現 行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|----|--|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | |
| 500 | 4-5-2 | 181 | ● 広く県内外に向けて文化・芸術の感動や体験の場を提供するため、民間との連携を図るなど魅力ある企画展やイベントを開催します。(再掲) <未来> | 推進 | | | | ● 広く県内外に向けて文化・芸術の感動や体験の場を提供するため、デジタルアーカイブ事業を推進するとともに、魅力ある企画展やイベントを開催します。(再掲) <未来> | | | | | 令和2年度から公開した「とくしまデジタルアーカイブ」へのアクセス件数を新たに数値目標として追加する。 | 未来 | |
| | | | ○文化の森総合公園文化施設入館者数 (17) 814,816人→(22) 年間85万人 | 81万人 | 81万人 | 83万人 | 85万人 | | | | | | | | |
| 新規 | | | | | | | | ○「とくしまデジタルアーカイブ」アクセス数 (17) →(22) 16万件 | | | 14万件 | 16万件 | | | |
| | | | ○恐竜化石含有層の発掘及び調査 (19) 本格実施 | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○恐竜化石専用コーナー「徳島恐竜コレクション」の開設 (21) 開設 | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○博物館60周年記念展 「とくしまタイムトラベル」の開催 (19) 開催 | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○「文化の森デジタルアーカイブ」の公開 (20) 構築・公開 | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○自然災害関係古文書及び歴史的公文書のデジタル化 (20) 完了・公開 | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○「ドイツ・ニーダーザクセン州友好展覧会」の開催 (20) 開催 | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○文化の森総合公園「県立博物館」グランドオープン (21) グランドオープン | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○文化の森総合公園「野外彫刻展」の開催 (20) 開催 | | | | | | | | | | | | |

ターゲット5 「循環とくしま・持続社会」の実装

主要事業実施工程表 (5-1 脱炭素社会実現へ！「緩和策」と「適応策」の推進)

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現 行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | |
|-----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|---|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | |
| 504 | 5-1-1 | 184 | <ul style="list-style-type: none"> 「徳島県脱炭素社会の実現に向けた気候変動対策推進条例」に基づく「徳島県気候変動対策推進計画(緩和編)」や「徳島県気候変動適応戦略」により、緩和策と適応策を両輪とした気候変動対策の推進を図ります。また、環境と経済の好循環の創出を図るため、「環境配慮型経営への転換」や「環境ビジネスの創出」に取り組む中小企業等を支援します。<危機> | 推進 | | | | | | | | | | 各家庭の省エネ努力により削減したCO2に価格付けし、中小企業が購入できる仕組みを構築することで、家庭・業務両面でCO2を削減する。 | 危機 |
| | | | ○「とくしまエコパートナー [※] 」の協定締結企業・団体数(累計) (17) 5企業・団体→(22) 30企業・団体 | 15企業・ 団体 | 20企業・ 団体 | 25企業・ 団体 | 30企業・ 団体 | | | | | | | | |
| | | | ○「気候変動アワード」の表彰数(累計) (17) 2件→(22) 16件 | 7件 | 10件 | 13件 | 16件 | | | | | | | | |
| | | | ○「徳島県気候変動適応センター」の開設 (19) 開設 | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○「気候危機適応講座」の開催 (17) →(20)~(22)開催 | | | | | | | | | | | | |
| 新規 | | | ○ESG金融 [※] 活用制度(仮称)による支援件数(累計) (17) →(22)35件 | | 10件 | 20件 | 35件 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | ○県版カーボンプレジット取引件数(累計) (17) →(22) 6件 | | | 3件 | 6件 | | | |
| 505 | 5-1-1 | 184 | <ul style="list-style-type: none"> 県が率先して庁舎の省エネルギー対策を推進するなど、環境にやさしい行政運営の徹底を図るとともに、「徳島夏・冬のエコスタイル」等の展開を通じて、エコでエシカルなライフ・ビジネススタイルへの転換を推進します。<危機> | 促進 | | | | <ul style="list-style-type: none"> 2050年カーボンニュートラルに向け、県が率先して庁舎の脱炭素化や省エネルギー対策を推進するなど、環境にやさしい行政運営の徹底を図るとともに、「徳島夏・冬のエコスタイル」等の展開を通じて、エコでエシカルなライフ・ビジネススタイルへの転換を推進します。<危機> | | | | | | 「エコオフィスとくしま・県率先行動計画(第6次計画)」に合わせ、基準年度を2013年度に固定した削減目標により、取り組みの強化を図る。 | 危機 |
| | | | ○県の事務及び事業に伴い 排出される温室効果ガス総排出量 2018年度比(2024年度 5%削減) | △1% | △2% | △3% | △4% | ○県の事務及び事業に伴い 排出される温室効果ガス総排出量 (二酸化炭素換算値) 2013年度比(2023年度 4.0%削減) | | | △36% | △38% | | | |

ターゲット5 「循環とくしま・持続社会」の実装

主要事業実施工程表 (5-1 脱炭素社会実現へ！「緩和策」と「適応策」の推進)

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 515 | 5-1-3 | 186 | <ul style="list-style-type: none"> ● 「環境首都とくしま・未来創造憲章」に掲げる行動指針「食物の恵みに感謝し、食材を無駄なく使い、食べ残しはやめましょう」に基づき、「食品ロスの削減」に向けた取り組みを推進します。＜危機＞ | 推進 | | | | | | | | | 教育現場における小・中学生に対する食品ロス削減の取組みが重要なことから、食品ロス削減推進法の制定及び食品ロス削減全国大会の本県開催を契機に令和元年度から小・中学生に対する啓発を強化しており、今後とも食品ロス削減先進県として全国をリードしていくため、さらに啓発活動を推進する。 | 危機 |
| | | | ○ 「食品ロス削減全国大会」の開催 (19) 開催 | | | | | | | | | | | |
| | | | ○ 食品ロス削減の啓発活動の実施数(累計) (17) 11件→(22) 60件 | 30件 | 40件 | 50件 | 60件 | | | | | | | |
| | | | ○ 「とくしま食べきるんじょ協力店」 登録店舗数(累計) (17) →(22) 90店舗 | 60店舗 | 70店舗 | 80店舗 | 90店舗 | | | | | | | |
| | | | ○ 「食品ロス削減モデル」の構築 (21) 構築 | | | | | | | | | | | |
| 新規 | | | | | | | | ○小中学生に対する「食品ロス削減」啓発人数 (累計) (17) →(22) 7,500人 | | | 6,000人 | 7,500人 | | |

ターゲット5 「循環とくしま・持続社会」の実装

主要事業実施工程表（5-2 新時代を先導！再生可能エネルギーの社会実装）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | | |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|----|----|---|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | | |
| 522 | 5-2-1 | 188 | ● 地域防災力の向上を目指し、災害時の切り札となる自然エネルギーを活用した「自立・分散型電源」導入支援制度を創設します。(再掲) <危機> | 推進 | | | | | | | | | | | 危機 | |
| | | | ○「自立・分散型電源」導入支援制度の創設('19)創設 | | | | | | | | | | | | | 「自立・分散型電源」導入支援制度を引き続き実施し、災害に強い電力レジリエンスの向上に向けた事業者等の取組を支援する |
| 新規 | | | | | | | | ○「自立・分散型電源」導入支援制度の取組支援数(累計) (17) → (22) 15件 | | | 10件 | 15件 | | | | |
| 523 | 5-2-1 | 188 | ● 地球温暖化対策や平時における電力の地産地消の推進、さらには災害時の非常電源として活用が期待できる水力発電の普及を図るため、溪流に設置可能なピコ水力発電機の実証実験や、先導的モデルとなる小水力発電所の整備に取り組みます。これらの取組みや実験データを公表することによって、自然エネルギーの普及促進を図ります。(再掲) <企業> | 推進 | | | | ● 地球温暖化対策や平時における電力の地産地消の推進、さらには災害時の非常電源として活用が期待できる水力発電の普及を図るため、溪流に設置可能なピコ水力発電機の実証実験や、産学官の連携等により、先導的モデルとなる小水力発電の導入支援に積極的に取り組みます。これらの取組みや実験データを公表することによって、自然エネルギーの普及促進を図ります。(再掲) <企業> | | | | | | | 企業 | |
| | | | ○自立・分散型エネルギーの普及拡大('19)～('22)小水力発電所の整備・運用 | | | | | ○自立・分散型エネルギーの普及拡大('21)～('22)小水力発電の導入支援 | | | | | | | | ・県政運営評価戦略会議において、「小水力発電については、引き続き施策を推進してもらいたい」との提言を受け、関連事業において、小水力発電導入の推進を図る。 ・小水力発電の導入を図るためには、地域における理解や協力、普及のための技術的・コスト的な課題解決が不可欠であり、地元自治体等の積極的な関わりや大学、民間企業等による地域に根ざした開発が必要であるため、企業局の持つ技術、知識、経営手法を最大限活用した導入支援により、産学官の連携等による先導的モデル構築を目指す。 |
| | | | ○自然エネルギー地産地消モデルの普及促進('19)～('21)ピコ水力発電機の実証実験(2箇所)・('22)説明会の実施 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○自然エネルギー導入促進のための技術支援('19)～('22)相談窓口による支援 | | | | | | | | | | | | | |
| 526 | 5-2-1 | 189 | ● 産学官金による自然エネルギーの推進体制として、「自然エネルギー活用プロジェクトチーム」を創設し、「自然エネルギー立県とくしま推進戦略」の実現に向けた取組みを推進します。 <危機> | 推進 | | | | | | | | | | | 危機 | |
| | | | ○「自然エネルギー活用プロジェクトチーム」の創設('19)創設 | | | | | | | | | | | | | 19年に創設した「自然エネルギー活用プロジェクトチーム」により、「2030年・自然エネルギー電力自給率50%」を目標とする「自然エネルギー立県とくしま推進戦略」の具体化へ向けて取り組んでゆく。 |
| 新規 | | | | | | | | ○「自然エネルギー活用プロジェクトチーム」による「自然エネルギー立県とくしま推進戦略」の実現に向けた検討項目数(累計) (17) → (22) 6項目 | | | 4項目 | 6項目 | | | | |

ターゲット5 「循環とくしま・持続社会」の実装

【重点戦略3】

自然との共生！「生物多様性とくしま戦略」の展開

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現 行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | | |
|-----|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|---|----|--|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | | |
| 536 | 5-3-1 | 191 | <p>●プラスチックごみ削減を推進するため、「とくしま環境県民会議」をはじめ、市町村や民間企業等と連携して、「マイバック」や「マイボトル」の普及促進を図るとともに、プラスチックごみ削減に積極的に取り組む事業者を認定することにより、事業者意識の変革を図ります。また、プラスチック代替製品の普及を図るため、産学官連携の「研究会」を新たに設置し、事業者の取組みを積極的に支援します。<危機></p> | 推進 | | | | <p>●プラスチックごみ削減を推進するため、「とくしま環境県民会議」をはじめ、市町村や民間企業等と連携して、「マイバック」や「マイボトル」の普及促進を図るとともに、プラスチックごみ削減に積極的に取り組む事業者を認定することにより、事業者意識の変革を図ります。 また、「『プラごみゼロ』とくしまスマート宣言」に賛同する、「私たちのプラごみゼロ宣言」者数の拡大により「県民総ぐるみ」で「プラスチックごみ問題」に取り組む意識の醸成を図ります。 さらに、プラスチック代替製品の普及を図るため、産学官連携の「研究会」を新たに設置し、事業者の取組みを積極的に支援します。<危機></p> | | | | | <p>令和2年10月23日に関係団体と共同で行った「『プラごみゼロ』とくしまスマート宣言」に賛同する、「私たちのプラごみゼロ宣言」者数の拡大により「県民総ぐるみ」で「プラスチックごみ問題」に取り組む意識の醸成を図る。</p> | 危機 | | |
| | | | ○マイ「バック&ボトル」キャンペーン参加人数(累計) (17) 7,920人→(22) 12,500人 | 9,500人 | 10,500人 | 11,500人 | 12,500人 | | | | | | | | | |
| | | | ○プラスチックごみ削減事業者数(累計) (17) →(22) 50事業者 | 10事業者 | 20事業者 | 35事業者 | 50事業者 | | | | | | | | | |
| 新規 | | | | | | | | ○「私たちのプラごみゼロ宣言」宣言者数(累計) (17) →(22) 500宣言 | | | 400宣言 | 500宣言 | | | | |
| 541 | 5-3-1 | 192 | <p>●優良な産業廃棄物処理業者の育成を図るため、業者に対する法知識・処理技術の研修を行います。<危機></p> | 推進 | | | | <p>●優良な産業廃棄物処理業者の育成を図るため、会場での研修に加えオンラインでの業者に対する法知識・処理技術の研修を行います。<危機></p> | | | | | | <p>ニューノーマルへの対応した研修を実施することで、新型コロナウイルスの感染拡大防止とともに、優良な産業廃棄物処理業者の育成を図る。</p> | 危機 | |
| | | | ○産業廃棄物適正処理講習会受講者数(累計) (17) 1,509人→(22) 2,000人 | 1,700人 | 1,800人 | 1,900人 | 2,000人 | | | | | | | | | |
| 544 | 5-3-2 | 192 | <p>●環境に関する高い意識と行動規範・実践力を持つ人材を養成するため、幼児から大人までの幅広い世代の県民を対象とし、「環境首都とくしま・未来創造憲章」及び「キッズバージョン」を積極的に活用した環境教育・環境学習等を実施します。<危機></p> | 推進 | | | | <p>●環境に関する高い意識と行動規範・実践力を持つ人材を養成するため、幼児から大人までの幅広い世代の県民を対象とし、「環境首都とくしま・未来創造憲章」及び「キッズバージョン」を積極的に活用するとともに、デジタル出前授業や講座を実施するなど、ニューノーマルに対応した環境教育・環境学習等を実施します。<危機></p> | | | | | | <p>新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、ニューノーマルに対応した取組を推進する。</p> | 危機 | |
| | | | ○「とくしま環境学講座」及び「親子環境学習教室」受講者数(累計) (17) 2,749人→(22) 9,100人 | 5,500人 | 6,700人 | 7,900人 | 9,100人 | | | | | | | | | |

ターゲット5 「循環とくしま・持続社会」の実装

【重点戦略3】

自然との共生！「生物多様性とくしま戦略」の展開

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現 行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 546 | 5-3-2 | 192 | <p>● 県南部の海を中心とする美しく豊かな自然を次世代に継承するため、地域住民等と連携した保全活動を行うとともに、若年層を対象に、環境について考え、行動する機会を創出します。＜南部＞</p> <p>○環境啓発イベント等に参加し、具体的な環境行動を宣言する人数（累計） ('17) →('22) 400人</p> <p>○「みなみから届ける環づくり会議」の「環境ボランティア活動証明制度」を活用した環境ボランティア受入団体数 ('17) →('22) 5団体</p> | 推進 | | | | <p>○環境啓発イベント等に参加又は県南部の環境問題についてオンライン学習し、具体的な環境行動を宣言する人数（累計） ('17) →('22) 400人</p> | | | | | <p>南部圏域で実施される環境イベント等での体験を通じて、自らできる環境行動を宣言するよう呼びかけているが、令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により各種イベントが開催中止となった。 そこで、オンライン(スマートフォン等)で南部圏域の環境問題を学んだ後、「環境行動宣言」が簡単にできるコーナーを南部総合県民局HP上に構築する。 また、今後県及び関係団体が作成する環境関係パンフレット等に、「当コーナーのQRコード」を挿入し、周知を図る。</p> | 南部 |
| 558 | 5-3-3 | 194 | <p>● 全国に誇れる「徳島きれいな水環境」の創造に向け、生活排水対策を推進します。＜県土＞</p> <p>○汚水処理人口普及率 ('17) 60%→('22) 72%</p> <p>○市町村設置型浄化槽の設置基数（累計） ('17) 868基→('22) 1,400基</p> <p>○県管理施設の合併処理浄化槽転換基数（累計） ('17) →('22) 81基</p> <p>○下水道へのし尿投入事業着手市町村数（累計） ('17) →('22) 4市町村</p> <p>○農業集落排水処理施設の保全（機能強化）着手地区数（累計） ('17) 13地区→('22) 19地区</p> | 推進 | | | | <p>● 全国に誇れる「徳島きれいな水環境」の創造に向け、「とくしま浄化槽連絡協議会」において、浄化槽の普及や適正な維持管理の推進に向けた課題解決に取り組み、生活排水対策を推進します。＜県土＞</p> | | | | | <p>全議員勉強会において、「汚水処理人口普及率の向上につながる合併処理浄化槽を普及する施策に力を入れるべき」とのご提言を頂いており、「とくしま浄化槽連絡協議会」を通して、官民協働による浄化槽の普及や適正な維持管理をより一層積極的に推進していくため、計画に位置づける。</p> | 県土 |
| 562 | 5-3-3 | 195 | <p>● 河川を対象とした環境学習やフィールド講座の実施により、河川環境保全への意識啓発を行うとともに、「徳島のみずべ」の魅力を発信します。＜県土＞</p> <p>○環境学習、フィールド講座の参加人数 ('17) 536名→('19) ~('22) 年間500人以上</p> | 推進 | | | | <p>● 河川を対象としたオンライン活用による環境学習やフィールド講座の実施により、河川環境保全への意識啓発を行うとともに、「徳島のみずべ」の魅力を発信します。＜県土＞</p> | | | | | <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンラインを活用した環境学習に取り組む。</p> | 県土 |

ターゲット5 「循環とくしま・持続社会」の実装

主要事業実施工程表（5-4 徳島発！持続可能な行政手法の発信）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 | | | | |
|-----|--------------|-----|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|----------------------|----------------------|---|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | | | | | |
| 574 | 5-4-1 | 198 | <p>●「徳島県過疎対策研究会」において、過疎地域の現状と課題の分析を行うとともに、地域の実情に即した過疎対策を検討し、「新過疎法」制定に向けた取組みを推進します。 ＜政策＞</p> <p>○「徳島県過疎対策研究会」報告書取りまとめ ('19) 報告書</p> <p>○「新過疎法制定」に向けた政策提言等の実施 ('19) ('20) 提言</p> | 推進 | | | | <p>●「徳島県過疎対策研究会」において、過疎地域の現状と課題の分析を行うとともに、地域の実情に即した過疎対策を検討し、「新過疎法」制定に向けた取組みを推進します。 また、新法が制定された後には、関係市町村と連携し、過疎地域の持続的発展に向けた施策を積極的に展開します。 ＜政策＞</p> | | | | | <p>本県はじめ地方からの声を受け、新過疎法の議員立法に向けた取組みが進んでいることから、新法が制定された後の過疎対策に関する文言を追加する。</p> | 政策 | | | | |
| 575 | 5-4-2 | 198 | <p>●徳島の注目度をアップさせ、県勢の発展につなげるため、時代に即した利便性の高い広報媒体を有機的・効果的に活用し、県民はもちろん国内外の方に魅力的な情報発信を展開します。 また、県民からの提言等を積極的にくみ取り、県の施策に反映します。＜経営＞</p> <p>○「徳島県SNS※」利用登録数 ('17) 130,000件→('22) 160,000件</p> <p>○外国語コンテンツの充実発信 ('19) 実施</p> <p>○海外向けSNS広告の導入 ('19) 導入</p> <p>○県民密着型テーマによるケーブルテレビ番組の制作・放送 ('19) 制作・放送</p> <p>○5G時代に向けた職員によるVR動画の制作・発信 ('19) 制作・発信</p> | 推進 | | | | <p>●徳島の注目度をアップさせ、県勢の発展につなげるため、利便性の高い広報媒体を有機的・効果的に活用し、ターゲットに応じた情報発信を行うとともに、ダイバーシティの視点に立った戦略的な広報を展開します。 また、県民からの提言等を積極的にくみ取り、県の施策に反映します。＜経営＞</p> <p>○「徳島県SNS※」利用登録数 ('17) 130,000件→('22) 426,000件</p> | 142,000 件 | 148,000 件 | 154,000 件 | 160,000 件 | 142,000 件 | 148,000 件 | 414,000 件 | 426,000 件 | <p>本県の広報戦略として、新聞、テレビ・ラジオ放送、県HPやSNSなど、様々な広報媒体を活用し、ターゲットを絞った情報発信や、必要とされる方へ必要な情報が届くよう、ダイバーシティの視点に立った広報を展開するとともに、令和2年度の実績見込みが目標値を大きく上回ると推計されるため、「徳島県SNS」利用登録数を上方修正する。</p> | 経営 |
| 577 | 5-4-2 | 198 | <p>●多くの県民に県政を身近に感じ、親しみを持ってもらうとともに、県民からの意見・提言等を積極的に県政に反映させるため、県庁ふれあいセンター「すだちくんテラス」の活用や、AIを活用した多言語対応の全庁的なFAQシステムの開設により、県政情報の効果的な発信などに取り組みます。(再掲)＜監察＞</p> <p>○県庁参観学参加者数 ('17) 617名→('19)～('22) 年間680名以上</p> <p>○県庁ふれあいセンター「すだちくんテラス」 展示等件数 ('17) 40件→('19)～('22) 年間50件以上</p> <p>○「とくしま丸ごとAIコンシェルジュ(仮称)」の 開設 ('20) 開設</p> | 推進 | | | | <p>●多くの県民に県政を身近に感じ、親しみを持ってもらうとともに、県民からの意見・提言等を積極的に県政に反映させるため、ニューノーマルに対応した県庁ふれあいセンター「すだちくんテラス」での広聴事業の実施、AIを活用した多言語対応の全庁的なFAQシステムの開設により、県政情報の効果的な発信などに取り組みます。(再掲) ＜監察＞</p> <p>○「とくしま丸ごとAIコンシェルジュ」の開設 ('20) 開設</p> | 680名 | 680名 | 680名 | 680名 | | | | | <p>新型コロナウイルス感染防止対策を徹底の上、実施するため。 「とくしま丸ごとAIコンシェルジュ」に名称が確定したため。</p> | 監察 |

ターゲット5 「循環とくしま・持続社会」の実装

主要事業実施工程表（5-4 徳島発！持続可能な行政手法の発信）

| 番号 | 行動計画 該当箇所 | | (現 行) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | (改善見直し案) 主要事業の概要・数値目標 | 工程(年度別事業計画) | | | | 改善見直しの理由及び概要 | 部局 |
|-------|--------------|-----|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--|--------------|--------------|--------------|--------------|---|----|
| | 位置 づけ | 該当頁 | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | 2019 (R1) | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | | |
| 59201 | 5-4-3 | 200 | ● 県民の利便性向上及びキャッシュレス化を推進するため、自動車税等の電子収納開始に向け、全庁的な電子収納基盤を整備するとともに、税外収入について多様な収納手段の拡大を図ります。＜出納＞ | | 推進 | | | ● 自動車関係ワンストップサービス開始に向けて、電子収納基盤の整備を図るとともに、税外収入についてもコンビニ収納・スマホ決済などの多様な納付手段を構築することで、県民の利便性向上及びキャッシュレス化を推進します。＜出納＞ | | | | | スマートフォンなど「キャッシュレス」による電子決済は、消費税増税時の「キャッシュレス・ポイント還元事業(R元10月～R2.6月)」を契機に普及が進んだことに加え、「非接触型」決済であることから、コロナ禍において注目度が高まっている。一般歳入金に電子収納を導入することで、「県民の利便性の向上」や「新しい生活様式の確立」を推進する。 | 出納 |
| 新規 | | | | | | | | ○税外収入のコンビニ収納・スマホ決済などの多様な納付手段の構築 (21) 構築 | | | | | | |
| 594 | 5-4-4 | 201 | ● 公有財産の有効活用を図り、地域の社会貢献活動や経済活動に資するため、「県有施設空きスペース」の貸付や「未利用財産」の公募による貸付、既存施設の「転用」や「再生」による利活用を行います。＜経営＞ | 推進 | | | | | | | | | 令和2年度の実績見込みが目標値を上回ると推計されるため、成果の更なる向上を目指し、既存ストックの有効活用事例数の目標数値について上方修正する。 | 経営 |
| | | | ○既存ストック有効活用事例数(累計) (17) 33件→(22) 38件 | | | | 38件 | ○既存ストック有効活用事例数(累計) (17) 33件→(22) 42件 | | | | 42件 | | |
| 599 | 5-4-5 | 202 | ● NPO・ボランティア活動など県民の参加と協働による共助社会の実現に向け、「とくしま県民活動プラザ」を拠点とした社会貢献活動に対する総合的な支援や各種取組みを推進します。＜未来＞ | 推進 | | | | | | | | | 令和元年度実績値が数値目標を上回ったことから、上方修正する。 | 未来 |
| | | | ○「とくしま県民活動プラザ」の登録団体数 (17) 532団体→(22) 550団体 | 535 団体 | 540 団体 | 545 団体 | 550 団体 | ○「とくしま県民活動プラザ」の登録団体数 (17) 532団体→(22) 580団体 | 535 団体 | 540 団体 | 575 団体 | 580 団体 | | |
| | | | ○「ゆめバンクとくしま」への寄附金を活用した助成件数 (17) 10件→(19)～(22) 年間10件 | 10件 | 10件 | 10件 | 10件 | | | | | | | |
| | | | ○アドプト・プログラム登録団体数 (17) 729団体→(19)～(22) 730団体以上 | 730 団体 | 730 団体 | 730 団体 | 730 団体 | ○アドプト・プログラム登録団体数 (17) 729団体→(22) 790団体以上 | 730 団体 | 730 団体 | 790 団体 | 790 団体 | | |